

西アフリカ課題別研修
アルムナイリユニオン調査

最終報告書

令和8年1月
(2026年)

独立行政法人国際協力機構

株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション

環境
JR
26-015

西アフリカ課題別研修アルムナイリユニオン調査

最終報告書

目次

第 1 章 調査の概要.....	1-1
1.1 本調査の背景と目的.....	1-1
1.1.1 背景.....	1-1
1.1.2 目的.....	1-1
1.2 本調査の概要と実施方針.....	1-2
1.2.1 本調査の概要.....	1-2
1.2.2 本調査の実施方針.....	1-2
1.3 本調査の実施体制とスケジュール.....	1-3
1.3.1 本調査の実施体制.....	1-3
1.3.2 本調査の実施スケジュール.....	1-3
第 2 章 帰国研修員の情報の整理・分析.....	2-1
2.1 帰国研修員の人物台帳の作成プロセス.....	2-1
2.2 帰国研修員へのアンケート、インタビュー内容.....	2-1
2.2.1 第 1 回アンケート.....	2-1
2.2.2 第 2 回アンケート.....	2-2
2.2.3 帰国研修員へのインタビュー結果.....	2-3
2.3 2.1、2.2 の内容を基にした情報分析と既存ネットワークの傾向と特性.....	2-3
2.3.1 2.1、2.2 の内容を基にした結果および情報分析.....	2-3
2.3.2 2.1、2.2 の内容を基にした既存ネットワークの傾向と特性.....	2-11
第 3 章 リユニオンイベントの企画・実施・教訓.....	3-1
3.1 リユニオンイベントの企画案.....	3-1
3.1.1 参加する帰国研修員の人選.....	3-1
3.1.2 リユニオンイベントのプログラム.....	3-2
3.2 リユニオンイベントの実施.....	3-4
3.2.1 主なプログラムの実施報告.....	3-4
3.2.2 グループワークによる協議結果.....	3-6
3.2.3 会場とオンラインをつなげたハイブリッドイベントの開催方法.....	3-8
3.2.4 リユニオンイベント終了後のアンケートおよびインタビューの実施.....	3-9
3.2.5 イベント後の取り組み（試験的 JICA-VAN ディスカッションルーム機能を活用した交流および 継続学習）.....	3-12
3.3 リユニオンイベントの実施を踏まえた教訓.....	3-13
3.3.1 リユニオンイベント（会場）から得た教訓.....	3-13
3.3.2 リユニオンイベント（オンライン参加）から得た教訓.....	3-15
3.3.3 各種アンケート、インタビューから得た考察.....	3-16
第 4 章 今後に向けた提言.....	4-1
4.1 今後の「横の学び合い」のあり方とネットワーク活用の検討.....	4-1
4.2 課題別研修「アフリカ地域 村落給水衛生管理」へのフィードバック.....	4-4
4.3 クラスタ事業戦略「サヘル地域の平和と安定」に資する水・衛生セクターの取組みアイデア.....	4-5

図表目次

表 1-1	: 本調査の概要.....	1-2
表 1-2	: 業務従事者ごとの分担業務内容.....	1-3
表 2-1	: 第2回アンケート対象者（研修参加年度別）.....	2-2
表 2-2	: 第1回アンケート回答にて AP を実施したと回答した研修員（国・男女別）.....	2-3
表 2-3	: 過去の課題別研修への各国からの参加人数、アンケートへの回答数・回答率概要.....	2-4
表 2-4	: AP の実施に至らなかった理由.....	2-5
表 2-5	: 第2回アンケート回答者（国別人数・回答率）.....	2-5
表 2-6	: 第2回アンケート結果抽出：研修参加後から AP 実施（開始）までの年数と割合、プロジェクトとの連動.....	2-6
表 2-7	: AP の実施における工夫点、困難.....	2-7
表 2-8	: 得た教訓、今後の研修生へのアドバイス.....	2-8
表 2-9	: 課題別研修のプログラムのうち、AP 立案時および実行時に参考になったプログラム.....	2-9
表 2-10	: 国家政策として注力している給水施設レベル.....	2-10
表 2-11	: JICA との連携を維持するための望ましいアプローチ方法.....	2-11
表 2-12	: AP を実施するために必要・関心のある情報について.....	2-12
表 3-1	: リユニオンイベントの招へい者.....	3-2
表 3-2	: アクター別招へいの狙い.....	3-2
表 3-3	: リユニオンイベントのプログラム.....	3-3
表 3-4	: 終了後アンケートの配布と回答数（国・属性別）.....	3-10
図 1-1	: 業務フローチャート.....	1-3
図 4-1	: JICA-VAN ログイン画面（日本語版インターフェース）.....	4-2
図 4-2	: JICA-VAN 「ディスカッションルーム」コメント作成時の画面.....	4-3
図 4-3	: JICA-VAN 「ディスカッションルーム」にて資料添付時の画面.....	4-3

付属資料

付属資料 1	: 人物台帳
付属資料 2	: 第1回アンケート質問内容
付属資料 3	: 第2回アンケート質問内容
付属資料 4	: 面会者リスト
付属資料 5	: 現地調査日程
付属資料 6	: 第1回アンケート全回答・整理データ
付属資料 7	: 第2回アンケート全回答・整理データ
付属資料 8	: アルムナイリユニオンイベントへの招へい者リスト
付属資料 9	: グループ協議メモ（原文）
付属資料 10	: 終了後アンケートの質問詳細
付属資料 11	: 終了後アンケートへの回答詳細

略語表

略語	欧文	和文
AEP	Adduction d'Eau Potable	給水施設
AP	Action Plan	アクションプラン
ATPE	Assainissement Total Piloté par l'Ecole	学校主導型包括的衛生
AUE	Association des Usagers de l'Eau	水利用者組合
JICA-VAN	JICA Virtual Academy & Network	JICA バーチャル・アカデミー&ネットワーク (オンライン学習とナレッジ共有のためのプラットフォーム)
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	JICA 海外協力隊
LIXIL	LIXIL Corporation.	株式会社リクシル
MEA	Ministère délégué auprès du Ministère de l'Aménagement du Territoire, chargé de l'Eau et de l'Assainissement	トーゴ国の国土整備省付水・衛生担当省
MEADD	Ministère de l'Environnement de l'Assainissement et du Développement Durable	マリ国の環境・衛生・持続可能な開発省
MEEA	Ministère de l'Environnement de l'Eau et de l'Assainissement	ブルキナファソ国の環境・水・衛生省
MEEM	Ministère de l'Energie, de l'Eau et des Mines	ベナン国のエネルギー・水・鉱物資源省
MHA	Ministère de l'Hydraulique et de l'Assainissement	セネガル国の水・衛生省
OFOR	Office Nationale des Forages Ruraux du Sénégal	村落給水公社
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリクス
PROGEA/ PCL	Projet de renforcement de la gestion des infrastructures d'approvisionnement en eau potable	ブルキナファソ国中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト (JICA 技術協力プロジェクト)
PROGEA2	Projet de renforcement de la gestion des infrastructures d'approvisionnement en eau potable	ブルキナファソ国村落給水施設管理・衛生改善プロジェクト・フェーズ2 (JICA 技術協力プロジェクト)
SARAH-PHAST	Santé, Assainissement et Réhabilitation par l'Action Hygiénique- Participatory Hygiene and Sanitation Transformation	衛生行動による健康・衛生・修復 (SARAH) および参加型衛生・環境改善計画 (PHAST)
SNS	Social Networking Service	ソーシャルメディア、交流サイト
TICAD	Tokyo International Conference on African Development	アフリカ開発会議
UNICEF	United Nations Children's Fund	国連児童基金
WASH	Water Sanitation Hygiene	水と衛生
YAMAHA	-	ヤマハ発動機株式会社

各国の省庁名については、2026年1月の名称

通貨換算率

1 米ドル＝	155.991000 円
1 ユーロ＝	183.736000 円
1 セーファーフラン＝	0.280100 円

(JICA、2026年度精算レート、1月)

写真集



ヤマハ発動機がサンレイ州に設置した給水施設
(2025年10月、サンレイ州)



OFOR におけるイベント事前打ち合わせの様子
(2025年12月、ダカール市)



再会と初対面を喜び、到着早々親睦を深める一同
(2025年12月、ティエス市)



夕食時、活発にコミュニケーションを図る様子
(2025年12月、ティエス市)



リユニオンイベントにおける AP 発表の様子
(2025年12月、ティエス市)



YAMAHA による発表の様子
(2025年12月、ティエス市)



コーヒーブレイク時、参加者同士交流を図る様子
(2025年12月、ティエス市)



リユニオンイベント会場の様子
(2025年12月、ティエス市)



SATO トイレの紹介の様子
(2025年12月、ティエス市)



リユニオンイベントでのグループワークの様子
(2025年12月、ティエス市)



リユニオンイベントでのオンライン参加の様子
(2025年12月、ティエス市)



リユニオンイベントでの集合写真
(2025年12月、ティエス市)

第1章 調査の概要

1.1 本調査の背景と目的

1.1.1 背景

開発途上国では安全な飲料水の確保は喫緊の課題であり、2015年に採択された持続可能な開発目標（SDGs）でも2030年までの普遍的な水アクセスが掲げられている。特に村落部では、給水施設の持続的な維持管理に地域住民の参画と協働が重要とされている。

このような背景のもと JICA では JICA 北海道センターが受け入れ機関となり、開発途上国の中でも特に村落部の安全な飲料水へのアクセス率が低く水資源確保が深刻な課題となっているアフリカ地域を対象とし、村落部における適切な飲料水供給や給水施設の維持管理に必要な基本技術の確認を行いつつ、住民参加かつジェンダーに配慮した維持管理体制を確立するために必要な知識の拡充の研修（課題別研修「アフリカ地域 村落給水衛生管理（A）」（以下、「課題別研修」））を行ってきた。この課題別研修は、2007年以降、仏語圏アフリカを中心に18カ国から200名近くの研修員の受け入れ実績を持つ。

帰国研修員の多くは各国の給水衛生行政の担い手として活躍しており、一部の研修員たちは帰国後も WhatsApp グループなどで交流を継続しているほか、相互訪問や給水衛生関連の政策・技術についての情報共有を行っている。このように課題別研修は、給水・衛生改善にかかる日本やアフリカ各国の経験からの学びや研修員間の交流によって、フランス語圏アフリカ各国の村落給水衛生サービス普及を担う人材の育成と能力強化に大きく貢献してきたといえる。

一方で、研修後の帰国研修員間の交流・情報共有は限定的であり、研修年度を跨いでの帰国研修員間のネットワークは国内外ともに構築されていない。また、課題別研修による研修員の能力強化の点では成果を得ている一方で、研修中に作成したアクションプラン（以下、「AP」）の実施には課題がある。研修で得た知見を活用しつつ動員可能なリソースの活用を前提とした分析と計画を指導し作成しており、帰国後の所属先への発表・提案までは行われるものの、その実施に至っているのはごく限られた事例に留まっている。

こうした中、各国の帰国研修員同士が再会し、また新たな関係を構築する機会となる「リユニオン」の場を設けることにより、研修以降の活動成果や課題を共有する学び合いの場の創出および AP の実施に向けた支援を検討することが期待されている。

1.1.2 目的

本調査の実施にあたっては、①課題別研修帰国研修員の現状を把握した上で彼らの更なる能力強化や必要とされる情報・知見のニーズを明らかにし、②リユニオンイベントにおいて帰国研修員のネットワーク構築・強化や研修後の継続した学び合いのためのアイデアを検討することで、③持続的かつ実効性のある研修員間ネットワーク構築の方法とネットワークを通じた共創に向けた取り組みを提案することを目的とする。

1.2 本調査の概要と実施方針

1.2.1 本調査の概要

本調査の概要は次表のとおりである。

表 1-1：本調査の概要

目的	① 課題別研修帰国研修員の現状を把握した上で彼らの更なる能力強化や必要とされる情報・知見のニーズを明らかにする ② リユニオンイベントにおいて帰国研修員のネットワーク構築・強化や研修後の継続した学び合いのためのアイデアを検討する ③ 持続的かつ実効性のある研修員間ネットワーク構築の方法とネットワークを通じた共創に向けた取り組みを提案する
対象者/ 対象地域	課題別研修「アフリカ地域 村落給水衛生管理（A）」の帰国研修員 帰国研修員の派遣元国は、以下の 18 カ国： ベナン、ブルキナファソ、チャド、コートジボワール、ギニア、マリ、ニジェール、セネガル、モーリタニア、カメルーン、トーゴ、ジブチ、中央アフリカ、マダガスカル、ブルンジ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、コモロ
契約期間	2025 年 9 月 1 日から 2026 年 1 月 30 日

1.2.2 本調査の実施方針

本調査は国内での準備業務と 2 回の現地調査および国内整理を実施した。

- 準備業務（国内業務）：
直近までの帰国研修員の情報収集・整理を行い、人物台帳（付属資料 1）を作成した。その台帳に基づいて、現在の所属や AP 実施の有無などの現況、帰国研修員同士のコミュニケーションが維持されているかなどを把握するための第 1 回目のアンケートを実施した。第 1 回アンケートの回答者のうち、AP を実施した帰国研修員を中心に第 2 回のアンケートを行い、実施された AP の具体的な内容や実施にあたっての工夫や課題、実施中の業務などについてより詳細に聞き取りを行い、AP 実施の好事例を収集・分析し、その知見を他国の研修員や今後の事業運営に活用することを目的とした。
- 現地調査（1 回目）：
対象国（セネガル）を訪問し、帰国研修員のデータ収集・インタビューを行い、帰国研修員の現状確認を行った。また、調査に合わせて、12 月の第 2 回渡航において実施するリユニオンイベントの開催に必要な情報収集を実施した（イベント会場の収容人数、レイアウトおよび機材・設備等の確認）。
- 国内業務（2025 年 11 月）：
1 回目の現地調査結果を JICA 地球環境部およびセネガル事務所へ報告した。また現地調査（2 回目）に実施するリユニオンイベントの内容を、国内業務と現地調査（1 回目）で得た情報を基に再精査し、イベント内容の最終案、招へいする帰国研修員のリスト、開催候補日程、準備にかかるスケジュールを JICA 担当に提示し、イベント企画案の最終化を行った。
- 現地調査（2 回目）：1 回目で訪問した国に帰国研修員を集め、リユニオンイベントを実施し、ネットワークの再構築・強化を実施した。併せて、ネットワークを通じた将来的な共創や、研修成果を活かしたリスクリングの可能性についても検討を進めた。
- 国内業務（2026 年 1 月）：
現地調査（2 回目）の結果を踏まえ、JICA グローバル・アジェンダ「持続的な水資源の確保と水

供給」に資する横の学び合いのあり方と帰国研修員のネットワーク構築とその具体的な活用方法の検討を実施した。JICA 関係者（地球環境部、招へいした帰国研修員所管の在外事務所、北海道センターなど）を主な対象として、調査結果の報告会を開催し、最終報告書を作成・提出した。

1.3 本調査の実施体制とスケジュール

1.3.1 本調査の実施体制

本調査は、株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション（以下、「EHC」）を受注者とし、JICA 地球環境部水資源グループ水資源第二チームの監督の下で実施した。現地調査およびリユニオンイベントの実施に際しては、監督部署および招へいした帰国研修員所管の在外事務所と連携し、招へい手続き等のロジスティクス管理を行った。従事した業務従事者の業務内容は下表のとおり。

表 1-2：業務従事者ごとの分担業務内容

氏名	担当分野	業務内容
深井 善雄	業務主任者/ 情報収集・分析 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案件全体の運営管理 ・ 帰国研修員情報の整理・分析 ・ リユニオンイベント準備/開催 ・ 成果品・報告書等の作成、最終品質管理 ・ JICA との協議、進捗報告、方向性の確認・提案 ・ 安全管理にかかる情報収集と団内周知徹底
小野 健	情報収集・分析 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案件全体の総括補佐 ・ リユニオンイベント準備 ・ 帰国研修員情報の整理・分析、帰国研修員に対するインタビュー ・ ネットワーク構築・強化方策の検討提案 ・ 成果品・報告書等の作成 ・ JICA との協議、進捗報告、方向性の確認・提案のための情報提供
石川 藍	情報収集・分析（衛生）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案件全体の総括補佐 ・ 帰国研修員情報の整理 ・ リユニオンイベント準備/開催 ・ 成果品・報告書等の作成 ・ JICA との協議、進捗報告、方向性の確認・提案のための情報提供 ・ 安全管理にかかる情報収集と団内周知徹底

1.3.2 本調査の実施スケジュール

本調査における業務全体の流れは下図のフローチャートのとおり。

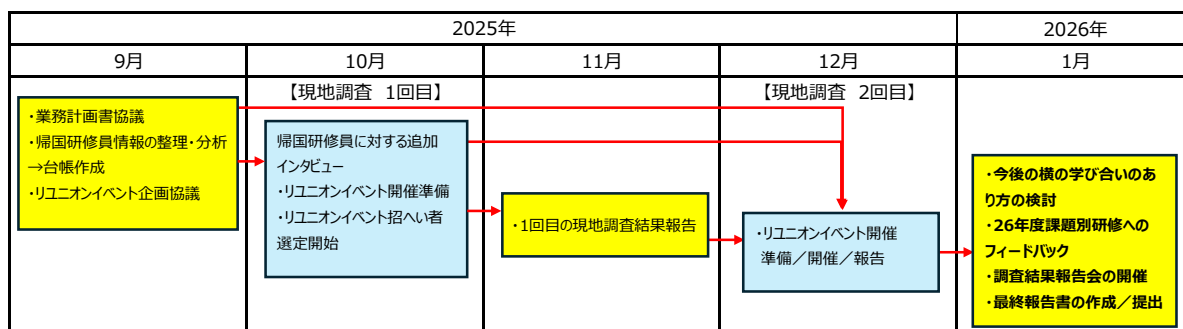


図 1-1：業務フローチャート

第2章 帰国研修員の情報の整理・分析

2.1 帰国研修員の人物台帳の作成プロセス

2007年度から2025年度の課題別研修「アフリカ地域 村落給水衛生管理（A）」（2020年度～2022年度のオンライン研修を含む）に参加した帰国研修員について、研修事業の継続的なモニタリングおよびフォローアップを目的として、氏名、性別、所属先（研修時）、連絡先等を整理した計198名分の人物台帳を作成した。台帳の作成にあたっては、JICA（地球環境部・北海道センター）との連携のもと、対象期間における情報の集約および状況の確認を行い、一元的な管理名簿として整備した。人物台帳は付属資料1に示す。

2.2 帰国研修員へのアンケート、インタビュー内容

2.2.1 第1回アンケート

(1) 第1回アンケートの趣旨

第1回アンケートでは、研修員の帰国後におけるアクションプラン（AP）の進捗状況および活動実態を把握するとともに、直面している課題や、JICA および他国の元研修員とのネットワーク維持に関するニーズを収集することを目的とした。これにより、リユニオンイベント招へい者の選定に関する基礎調査を行うとともに、今後の効果的な帰国後支援（フォローアップ）体制の構築に向けた検討材料を得ることを目指した。

アンケートは Google Forms を用いて作成し、2025年9月10日に電子メールにて対象者へ配布した。回答期限は同月24日とし、短期間での集中的な回答回収を試みた。

(2) 第1回アンケートの内容

第1回アンケートは、主に以下の3つの項目で構成した。第1回アンケートの質問内容は付属資料2に示す。

- 現在の所属組織および業務内容
回答者の現在の役職、専門性、および地方給水・衛生（WASH）分野への関与状況を把握し、属性分析を行った。
- APの進捗とJICAとの連携状況
研修時に立案したAPの実施状況を調査する。APを未実施の場合は、その阻害要因（資金、技術、体制等）を特定するとともに、今後のJICAとの効果的な連携手法や、帰国研修員が求めている情報（技術、予算獲得、優良事例等）についての意向を確認した。
- 帰国研修員同士のネットワーク構築状況
他国の帰国研修員との交流の有無、交流手段（SNS等）、および交換されている情報の質を調査し、国境を越えた知見共有の現状を確認した。

第1回アンケートの結果および情報分析は、2.3.1 および 2.3.2 に記載した。

2.2.2 第2回アンケート

(1) 第2回アンケートの趣旨

第2回アンケートは、課題別研修を修了した帰国研修員によるAPの好事例を収集・分析し、その知見を他国の帰国研修員や今後の事業運営に活用することを目的とした。

上記の第1回アンケートにおいて「研修終了後にAPを実施した」と回答した21名を対象に、AP実施の詳細に関する追加調査を実施した。この21名の研修参加年度の内訳は右表のとおり、研修が開始した2007年度から2024年度までおおむね満遍ない分布である。

本アンケートでは、APの作成および実施に際して参考となった課題別研修の研修プログラムに関する設問を設けており、今後の課題別研修への教訓として抽出するとともに、各国の給水・衛生分野における注力状況を把握することで、現地の政策的背景を分析することに主眼を置いた。

アンケートはGoogle Formsを用いて作成し、2025年10月15日に電子メールにて対象者へ配布した。回答期限は同月24日とした。

表 2-1：第2回アンケート対象者
(研修参加年度別)

研修年度	人数
2007	2
2009	2
2012	1
2013	1
2014	2
2015	1
2016	2
2017	1
2019	1
2020	1
2021	1
2022	4
2024	2
合計	21

(2) 第2回アンケートの内容

第2回アンケートは、主に以下の4つの項目で構成した。第2回アンケートの質問内容は付属資料3に示す。質問は全員に共通する内容に加え、第1回アンケートのAPに関する回答内容に基づき個別質問を設け、全13パターンアンケートを作成した。

- 実践したアクションプラン（AP）の詳細
帰国後に実施したAPの具体的な活動期間、対象地域、受益者数、および活動予算について確認した。また、実施体制や資金調達方法に加え、活動背景となった課題、実施過程での創意工夫、直面した困難、および得られた教訓を調査した。一部の研修員に対しては、APが部分的な実施に留まった理由や、活動終了後の管理体制の維持状況、特定の技術普及の成果といった、前回の回答内容を深掘りする個別質問を行った。
- 自身のAPとプロジェクトの連動の有無
APが単独の活動として行われたのか、あるいは自国の既存プロジェクトや常設業務と連動して実施されたのかを調査した。連動がある場合は、そのプロジェクトの具体的な内容や、APによって付加された独自の活動、および大規模な地域計画へ統合された経緯などを確認し、組織内での位置付けを明確化した。
- 課題別研修の内容とアクションプラン（AP）の立案・実施の関連
課題別研修で提供された個別のプログラムのうち、APの「立案段階」および「実施段階」において、それぞれ具体的にどの内容が有益であったかを特定した。これにより、研修プログラムの有効性を検証し、実務への還元状況を調査した。
- 自身の国の国家政策の方針
今後の課題別研修や日本の支援方針を検討するための基礎資料として、各国の国家政策における優先事項を調査した。具体的には、注力している給水施設の規模（レベル1～3）、地域による政

策の差異、および給水分野と衛生分野の優先順位の比較について回答を得た。

第2回アンケートの結果および情報分析は、2.3.1に記載した。

2.2.3 帰国研修員へのインタビュー結果

(1) セネガル

第1回現地調査においてセネガルの帰国研修員（リユニオンイベント参加者）に対してインタビューを行った。皆一様に積極的かつ前向きなコメントが聞かれた。面会者リストを付属資料4、第1回現地調査の調査日程を付属資料5に示す。インタビューの要約は以下のとおり。

- リユニオンイベントのような帰国研修員が集まり、情報共有できる機会を待っていた
- もっと他の帰国研修員も参加させてほしい
- セネガルでリユニオンイベントが開催されるので、我々（セネガルの帰国研修員）はホスト役としてリユニオンイベントをサポートしたい
- 同時期に研修を受けた他国の帰国研修員とは連絡を取り合っていないので、お互いの業務状況などの情報を共有できればと考えていたので、このようなイベントがあることは有意義
- 最新の情報を得られるこのような機会は非常に重要

2.3 2.1、2.2の内容を基にした情報分析と既存ネットワークの傾向と特性

2.3.1 2.1、2.2の内容を基にした結果および情報分析

(1) 第1回アンケートの結果

第1回アンケートの送付人数は143名（198名の帰国研修員のうち55名は、メールアドレス不明またはメール未達）、うち回答数73名、回答率51%であった。回答者数の上位5カ国は、ブルキナファソ25名、マリ9名、コートジボワール8名、セネガル6名、ニジェール5名であった。第1回アンケートの全回答および整理したデータについては、付属資料6に示す。

男女比（男性数：女性数）について、アンケートを送付したのは106名：37名、回答を得たのは57名：16名であった。APを実施した、と回答した国別の人数は右表のとおり、21名であった（表2-2）。第1回アンケートへの回答者数73名に対するAP実施率は約29%であった。

このAPを実施した21名に対しては、APの好事例を把握・収集するため、後述する第2回アンケートの内容を検討し、アンケートを配布した。

なお、第1回アンケートの回答分析結果については、下記の(2)第1回アンケート結果を基にした情報分析および項目2.3.2(1)第1回アンケート結果を基にした既存ネットワークの傾向と特性に詳述している。

表2-2：第1回アンケート回答にてAPを実施したと回答した研修員（国・男女別）

国名	男性	女性	計
ブルキナファソ	8	3	11
マリ	2	0	2
ギニア	1	0	1
トーゴ	1	0	1
コートジボワール	1	0	1
ベナン	1	0	1
マダガスカル	0	1	1
ブルンジ	0	1	1
コンゴ民主共和国	1	0	1
ジブチ	1	0	1
合計	16	5	21

(2) 第1回アンケート結果を基にした情報分析

2007年度の研修開始以降、2008・2011年度を除き、すべての年度の帰国研修員から回答を得るに至った。回答率は、直近の2024・2025年度の研修員で100%に達しており、一般的に見られる「実施時期が近いほど反応が良い」という傾向を裏付けている。一方で、開始当初の2007年度においても40%という良好な回答率を得られた点は特筆に値する。また、コロナ禍によりオンライン開催を余儀なくされた2020～2022年度の研修員からも、来日や対面実施が叶わなかったにも関わらず、回答率50～83.3%という高い反応を得られた。このように、過去19年間にわたる帰国研修員から広範に反応を得られた事実は、研修成果の有用性のみならず、日本およびJICAへの信頼、ならびに研修実施者との信頼関係が維持されていることを示している。

過去の研修参加人数に対する各国の回答率は、マリ、ブルキナファソ、ギニア、マダガスカル、コートジボワール、中央アフリカ共和国、ブルンジにおいて、50%を上回った（表2-3）。

研修参加人数と回答率の相関関係としては、過去の参加者が1名のみで回答率100%となった中央アフリカ共和国およびブルンジを例外とすると、ブルキナファソを筆頭にマリ、コートジボワールと、参加人数・回答率ともに高い水準にある国が見受けられる。一方で、参加人数が2番目に多いセネガルの回答率が27%に留まる一方、ギニアやマダガスカルのように参加人数は多くないものの50%の回答率を得た国もある。以上のことから、参加人数と回答率の間には一定の比例傾向がうかがえるものの、必ずしも直接的な相関関係があるとは言い切れない。

表 2-3：過去の課題別研修への各国からの参加人数、アンケートへの回答数・回答率概要

回答国	回答数	AP 実施人数	課題別研修参加人数 (07～25年度)	回答数/参加人数
マリ	9	2	16	56%
ブルキナファソ	25	11	42	60%
ニジェール	5	0	16	31%
ギニア	3	1	6	50%
チャド	2	0	10	20%
マダガスカル	3	1	6	50%
セネガル	6	0	22	27%
トーゴ	4	1	8	50%
コートジボワール	8	1	15	53%
中央アフリカ共和国	1	0	1	100%
ブルンジ	1	1	1	100%
コンゴ民主共和国	2	1	12	17%
ジブチ	3	1	10	30%
ベナン	1	1	10	10%
合計	73	21	175	

第1回アンケートの回答者におけるAP実施率は上記のとおり29%であり、実施できなかった理由としては資金不足が59%と最多に上った（表2-4）。次いで制度的・組織的支援の不足、設備および資機材の不足が多く挙げられた一方で、技術力（専門技能）の不足は4%に留まった。また、閣僚交代や組織改編に伴い所属組織が解散または分割された影響によりAP立案時と執務環境が急激に変化する等、政治的不安定さが要因となるケースもみられた。他に、立案したAP（水分野）と自身の担当業務（衛生分野）が一致していなかったという、立案段階に改善の余地のあるケースもみられた。

表 2-4 : AP の実施に至らなかった理由

2-5.AP が実施されなかった場合、その理由を説明してください。(複数回答可)			
1	資金不足	43	59%
2	技術力(専門技能)の不足	3	4%
3	設備および資機材の不足	12	16%
4	制度的・組織的支援の不足	19	26%
5	有益な情報の不足	5	7%
6	組織体制の脆弱さ(組織力の弱さ)	9	12%
7	(治安等)情勢の悪化	4	5%
9	その他	7	10%
0	回答なし又は質問の趣旨とずれるためノーカウント	24	33%
その他の AP 実施に至らなかった理由			
制度変更 / 組織改編 (ブルキナファソ)			
閣僚交代(内閣改造)に伴う組織改編により、自身の組織が解散したため(コートジボワール)			
私のアクションプランは飲料水管理に関するものでしたが、当時、私は地域の衛生部門の責任者であった。そのため、活動の主体である飲料水供給部門との調整や活動の実施が困難であった。そのような状況の中、2022年2月に自身が異動となり、私はアクションプランを実現できなかった(ブルキナファソ)			
施設管理への不当な介入、および故障の頻発(コンゴ民主共和国)			
自身のアビジャンへの異動・専門課程への入学など、自身の状況が変わり実施に至らなかった(コートジボワール)			
大臣が予算にこの活動を盛り込んでいませんでした。 自身が所属する省が「水・衛生」・「環境・水産」の2つに分割され、私は「環境・水産」の方に留まることになったため、自身の AP である「人間と家畜の消費のための飲料水掘削井戸の建設」の実現にいたらなかった(チャド)			

(3) 第2回アンケート結果

第2回アンケートを送付した21名のうち5カ国から13名の回答を得られ、回答率は62%であった(表2-5)。第2回アンケートに対する回答にかかる国別および性別に関する人数は右表のとおりである。第2回アンケートの全回答および整理したデータについては、付属資料7に示す。

なお、第2回アンケートの回答分析結果については、下記の(4)第2回アンケート結果を基にした情報分析に詳述している。

表 2-5 : 第2回アンケート回答者(国別人数・回答率)

【第2回アンケート回答者】		
国別人数 / 男女比 / 国別回答率		
国別人数 [男女比(人数)]		回答率
ブルキナファソ	9 [6/3]	82%
マリ	0	0%
ギニア	1 [1/0]	100%
マダガスカル	1 [0/1]	100%
コートジボワール	1 [1/0]	100%
ベナン	0	0%
トーゴ	1 [1/0]	100%
ブルンジ	0	0%
ジブチ	0	0%
コンゴ民主共和国	0	0%
合計	13 [9/4]	62%

(4) 第2回アンケート結果を基にした情報分析

回答者のうち9名はブルキナファソの帰国研修員であり、第1回アンケートにてAPを実施したと回答したブルキナファソの帰国研修員における第2回アンケートの回答率は82%に上った。APを実施したと回答した9名のブルキナファソの帰国研修員のうち、2名が当時実施されていたJICA技術協力プロジェクト¹の活動をAPと連動して実施したものであった。それ以外のAPは政府の事業予算や研修員の通常業務における活動、またはユニセフやフランス地方自治体協力などのパートナー支援を想定してAPが作成・実施された。このように、活用可能な資金およびリソースの活用や、国のセクター計画・事業の内容との整合性を念頭においてAPを作成することで、APの実施率が引き上げられた要因となったものと考えられる。

各自作成したAPの規模感には差があるものの、APを実施した研修員のうち約8割が課題別研修参加後3年以内に実施（開始）したと回答しており、また、プロジェクトとの連動の有無については約8割が「連動あり」と回答している（表2-6）。なお、研修参加後、AP実施開始までの年数について、研修開催月に関係なく、「実施開始年」と「研修開催年」の差により算出している。

このことから、AP実施率を向上させるためには、プロジェクトとの連動が極めて重要といえる。中には、すでに動いているプロジェクトに連動させてAPを作成している研修員もおり、その内、自身のアイデアをプロジェクトに付加した者においては、非常に効率良く研修の成果を活かすことができたといえる。また、自身のAP作成時にはプロジェクトは始まっていなかったものの、その後連動できた場合について、AP作成時の着眼点や課題分析と、国家または地方自治体の政策の方向性との一貫性が得られていたといえる。このことについては、アンケート内、「(AP実施を通して)得た教訓/今後の研修員へのアドバイス」の回答においても言及されている。

表2-6：第2回アンケート結果抽出：研修参加後からAP実施（開始）までの年数と割合、プロジェクトとの連動

研修終了から AP開始までの期間	AP 実数	(実数に対する) 割合	うち、プロジェクトとの 連動あり	AP開始実施時期別、 「プロジェクトとの連動あり」の割合
1年以内	2	15%	0	0%
1年後	5	38%	5	100%
2年後	3	23%	3	100%
3～4年後	0	0%	-	-
5年後以降	2	15%	1	50%
不明	1	8%	1	100%
合計	13	*99%	10	**77%

*小数点以下を切り捨てにしているため、合計が100%ではなく99%となる

**AP実施数13件に対して、プロジェクトと連動してAPを開始した10件から算出

AP実施者におけるプロジェクトとの連動率の高さが示す通り、活動の定着には組織的な裏付けが不可欠である。研修員が挙げた「工夫点・大変だった点（表2-7）」では、主に資金源確保の困難さや停滞、関係職員の協力体制やスキルの不足が課題として多く指摘される一方、既存システムであるモバイル・マネーを有効活用して支払いプロセスを改善するなど、AP実施を促進させる運用上の工夫が見られた。また、「得た教訓・今後の研修員へのアドバイス（表2-8）」においても、実現可能なAP立案や資金源の確保、自国の権威者や政策決定者を巻き込むことの重要性について、多くの回答者が言及して

¹ ブルキナファソ国中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト（PROGEGA/PCL：2009～2014）およびブルキナファソ国村落給水施設管理・衛生改善プロジェクト・フェーズ2（PROGEGA2：2015～2020）

いる。これらを踏まえると、資金源の確保は AP の実装を左右する最大の共通課題といえる。

その点で、確実に結果を残しているのが「地方自治体」の研修員である。2024 年および 2025 年の参加者はコートジボワールの地方自治体（州議会）の開発政策の立案・実施担当者であり、帰国後に予算を確保し AP 実現に近づけている（2025 年度参加者は予算確保済み、2027 年開始予定）。しかし、技術職ではない彼らの AP はハード面の整備に偏りやすい傾向にある。ある研修員が「ハード面の整備は重要だが、ソフト面の管理も軽視されてはならない」と回答しているように、持続性を確保するには、ハード整備に加え、既存システムや職員のスキルを活かした「ソフト面の管理」が不可欠である。

そこで、資金を確保しやすい地方自治体職員と、現場を熟知する同一または類似地域の技術者が同時に研修に参加し、共同で AP を立案・実施することを提案したい。これにより、権威者の巻き込みと技術的裏付けが両立され、AP の実現率向上および、ハード・ソフトの両面が充実した持続可能な活動の実現が可能になると考えられる。

表 2-7 : AP の実施における工夫点、困難

No.	内容
1	主な課題は、職員の移動手段、財源資金。AP を実施に移すのは非常に困難である。
2	モバイル・マネーによる支払い (Orange Money をはじめとする携帯電話を使ったモバイル送金・決済サービスは、アフリカや中東などで広く利用されており、交通アクセスの悪い遠隔地や村落地域で事業を実施する上で有効なツールとなっている。)
3	水利局の職員として、私はこの活動をうまく進める機会を得ましたが、コミュニン（地方自治体）レベルの責任者に水道網の持続可能性の重要性を認識させることは、依然として困難であった。
4	資金の利用までにおける遅さ/緩慢さ
5	主要な課題は以下の通りであった： 1) 「ブルキナファソ農村部における飲料水公共サービス管理の枠組み文書」と称される、新しい施設管理のレファレンシャル（基準/指針）の精緻化（作成） 2) 県ごとの維持管理者協会の創設 3) イベルセトゼッコ（地域名）のコミュニンにおける AUE（水利用者協会）の設置 4) 維持管理者の技術研修 5) 市長、事務局長、および市役所の会計担当者の研修 6) コミュニンの関係者による行動計画の年間評価の精緻化作成
6	資金調達、受益者に対する教育・啓発活動の側面を考慮していなかった
7	創造的な点としては、慣習的な権威者、地方、県、コミュニンの当局を巻き込んで彼らの支援を得たこと、そして教師のコミットメントを得たことです。 また、衛生的な月経管理の部分は、意識を目覚めさせ、タブーの考えを一切取り除き、生徒の保護者の支援を求める必要があったため、真に革新的な取り組みであった。 最も力を入れたのは、「グリーン・スクール・コンテスト」の創設。これが生徒達のモチベーション向上につながった。
8	受託運営者の監視を確実にするための、市役所における有資格職員の不足
9	主要な課題は、現場での活動による成果を実際に評価・測定することであった
10	(回答なし)
11	創造的な点、あるいは課題は、アクションプランの活動を、県局チームの全体的な活動に組み込むことに成功したこと。例えば、現地での啓発活動のために出張がある際、私は職員にアクションプランのテーマに関連する啓発活動を組み込むように依頼するなど。
12	公共飲料水サービス管理の制度的・組織的枠組みの強化 システム実施に関わる関係者のプロフェッショナリズムのレベル向上 公共飲料水サービスのグッドガバナンスの促進
13	その主要な課題（挑戦）は、あまり知られていなかった KAIZEN アプローチの統合でした。

表 2-8 : 得た教訓、今後の研修生へのアドバイス

No	内容
1	「実行可能な内容」でのアクションプランを準備することを勧めます。つまり、活動を実施できる組織であるか、あるいは必要な支援を得るための手段を持っているか、のどちらかです。
2	実行可能で実現性の高い AP を作成するとともに、その AP に容易に資金提供してくれる技術・資金パートナーを事前に確保すること
3	特定の分野でより多くの経験を積むためには、他国との交流を行うことはとても重要と考える。この交流のおかげで、私はその分野の発展に貢献するために必要な能力を身につけることができた。
4	AP と、国家または地方自治体のビジョンとの間に、一貫性が必要である。
5	学ばれた教訓として： 1) 枠組み文書の最終決定前の、その実施における実践的かつ実験的な段階 2) コミュニの責任者関与が、目に見える成果の達成を可能にする 3) 活動の実施における国家の地方分権化された技術サービス（部署）の関与が、一般的にスケジュールと財政に縛られている請負業者/調査会社とは異なり、より良い実践を可能にした 4) すべてのポンプのブランドに関する維持管理者の技術研修が、彼らの熟練度を高め、手押しポンプの質の高い修理を可能にした 5) コミュニ全体を集めたワークショップでの行動計画の評価が、それらの間での競争を可能にした。これはどのコミュニティも自らの行動計画の実施において「最下位」として挙げられることを望まないため。
6	物質的な活動（ハード面の整備）は最も重要であるが、社会的な実施管理（ソフト面の管理）も軽視されてはならない。
7	得られた教訓は、当局が初期の段階から関与すれば、すでに成功の可能性が 50%以上になるとのこと。AP を成功させるためには、意思決定者（権威者）を巻き込むことが重要。特に社会的なプロジェクトであれば、慣習的な権威者は、その実施の成功または失敗を左右する決定的な手段となる。
8	コミュニティによる施設の非主体的な管理（または、コミュニティによる施設管理の不徹底）があり、一部の地域では、第三者が自分の都合のよいように施設を管理しているケースがあった。
9	今後の研修参加者は、AP の承認と主体的な活用に、自国の政策決定者をより一層巻き込むべきであり、かつ、構造的なミニプロジェクトという形で実施するための資金調達の探索に注力すべきである。
10	(回答無し)
11	教訓は、AP を実施するための財源を単年度で確保するのは難しい、ということ。予算を持つ自組織の類似活動をうまく利用し、そこに自身の活動を組み込んで同時並行で実施すべき。
12	現実的で実行可能なアクションプランを立案すること。資金を確保すること。AP の実施にすべての関係者を巻き込むこと。
13	教訓は、生徒は持続可能な行動変容のための後継者を構成し、すべての衛生と公衆衛生の活動において考慮に入れられるべきである、という点。

AP 実施に導いたドナーは、政府の事業予算の活用が最も多く、次いで UNICEF 等の国際機関あるいは国際 NGO であり、JICA と回答したのは 2 名（いずれも PROGEA I・II/ブルキナファソ）であった。

課題別研修のプログラムのうち、AP 立案時および実行時に参考になったプログラムとして、給水分野においては、飲料水の水質管理や処理技術、質の高い水利用に関する啓発活動および配管接続の実習が挙げられた（表 2-9）。衛生分野においては、衛生と公衆衛生の推進および SARAH-PHAST アプローチに関するプログラムが挙げられた。また、AP 立案時には PCM 関連のプログラムが、実行時には KAIZEN アプローチが参考となったという意見もみられ、専門的な知識だけでなく、プロジェクト運営にかかる知識も有用とされていることが分かった。

表 2-9：課題別研修のプログラムのうち、AP 立案時および実行時に参考になったプログラム

AP 立案時に参考になったプログラム	実行時に参考になったプログラム
給水分野	
<ul style="list-style-type: none"> • 東川町における地下水利用とその管理 • 高山村の簡易水道施設（ミニ AEP） • 運営の監視やコミュニケーションによる管理 • 水道プロジェクト管理、簡易会計 • NISAKU ブランドのポンプの技術 • 岡本ポンプでの掘削井戸の機能診断と修繕方法の現地視察 • 藻岩の浄水場 • 飲料水の水質の管理、飲料水の処理技術の基礎 • 配管の接続の実習 • 水処理技術、処理に関するモジュール • 質の高い水の利用に関する啓発活動 • アフリカの乾燥地域における安全な水の管理 • 水と衛生分野の技術 	<ul style="list-style-type: none"> • 農村地域における水理施設（複数）の管理、アフリカにおける飲料水サービス（複数）の管理 • 飲料水の水質の管理 • 飲料水の処理技術の基礎 • 配管の接続の実習 • 水処理技術 • 処理に関するモジュール • 質の高い水の利用に関する啓発活動 • アフリカの乾燥地域における安全な水の管理
衛生分野	
<ul style="list-style-type: none"> • 衛生と公衆衛生の推進 • SARAH-PHAST アプローチに関するプログラム 	<ul style="list-style-type: none"> • SARAH-PHAST アプローチに関するプログラム • JICA のアフリカにおける WASH と栄養に関する介入プログラム • 衛生および公衆衛生の促進
その他	
<ul style="list-style-type: none"> • プロジェクトの策定（問題の木、解決策の木） • プロジェクトのサイクル • PDM の精緻化（作成） • 成果志向のプロジェクト管理研修（問題の木の作成およびプロジェクト管理マトリックス）に関連するプログラム • 日本、参加国との経験交流 • 福安学校の訪問 	<ul style="list-style-type: none"> • KAIZEN アプローチ • セネガルなど他国との経験共有、および他国における管理の事例 • プログラム全体 • JICA の研修プログラム • ありません

本調査では、特に AP を実践できた好事例に焦点を当てているが、研修成果は AP の遂行のみで一義的に測れるものではない。AP の完遂を唯一の目的とした場合、研修員が本来の研修成果とは無関係に、自身が立案時に従事している既存プロジェクトや通常業務をそのまま AP として記載してしまう懸念がある。実際に、アンケートの回答には研修による変容というよりも現行業務の追認に近い内容も見受けられた。また、AP の実施には、適切な計画立案や予算獲得といったハードルだけでなく、所属組織の協力体制、社会情勢、外部環境等の多大な影響を受ける。したがって、たとえ AP が未実施であったとしても、それだけで研修の意義が損なわれると結論づけるのは妥当ではない。

課題別研修の本来の理想は、AP の完遂そのものに留まらず、重層的な成果が継続的に創出されることにある。具体的には、個人レベルで習得した新たな知見・技術を通常業務に適用して業務の質や効率を向上させること、組織レベルで職場内での知見共有や姿勢の伝播を通じて組織全体の能力底上げを図ること、そして従事するプロジェクトへの付加価値向上を通じ、最終的に当該国の水・衛生分野の状況が段階的に改善されることである。

今回の調査では、約 20 年前の参加者からも熱心な回答が得られた。膨大な資料の整理を伴う回答に多

くの研修員が時間を割いた事実は、研修内容への満足度のみならず、日本に対する長期的な信頼と期待の現れといえる。こうした帰国後も続く強固な関係性や信頼の維持もまた、一つの重要な研修の成果と捉えるべきである。

研修期間中における「成果」の客観的な測定指標としては、APの「完遂」ではなく、研修員が自国の業務・地域の課題、および組織の方針を冷静に分析し、その分析に基づき研修で得た知見・技術を適切に組み込んだAPを「立案」できているかというプロセスを評価対象とすべきである。もし、自国の実務に活用可能な要素を見出せない研修員が多い場合には、候補者の選定基準、あるいは研修カリキュラム自体が現地ニーズと乖離している可能性を検討することが必要である。

今後の課題別研修や日本の支援方針を検討するための基礎資料として、各国の国家政策における優先事項を調査した結果、国家政策として注力している給水施設レベルとして、レベル1・2・3すべてと回答した者が62%と最多となった(表2-10)。その他の回答については、レベル1のみと回答した者はおらず、レベル1・2、レベル2・3、またはレベル3のみとの回答であった。この設問については、同一国から複数回答を得られているブルキナファソの中でも回答が異なっており、帰国研修員の担当している業務や所属先の管轄地域の特性などが反映された結果であると考えられる。

国によって状況は大きく異なるが、近年のアフリカ各国の村落給水セクター政策の一般的な傾向としては、より改善された給水サービスへのアクセス普及を目指して、新規の給水施設整備としてはレベル2およびレベル3が中心となっている。レベル2・3給水施設の維持管理はレベル1給水施設に比べてより高度・煩雑となるため、維持管理の主体はコミュニティの住民ではなく、より高度な技術力を有する民間オペレーターや地方自治体が給水施設の運営維持管理を担うケースが多い。他方、レベル1給水施設については、新規の建設整備の割合自体は減少傾向にあるが、アフリカ村落部においては既存の施設数や給水源としてカバーされている範囲は依然として大きく、飲料水供給の中心的な役割を担っている。レベル1給水施設は一般的には水管理委員会や水利用者組合といったコミュニティ住民組織に維持管理が委ねられていることが多い。

表 2-10 : 国家政策として注力している給水施設レベル

注力している給水施設レベル	回答数	割合	給水・衛生どちらに注力	回答数	割合
レベル3	1	8%	給水	9	69%
レベル1・2	2	15%	衛生	3	23%
レベル2・3	2	15%	両方	1	8%
レベル1・2・3	8	62%	合計(=回答数)	13	
合計(=回答数)	13				

(5) 個別インタビューを基にした情報分析

インタビューを通じて明らかになった点は、帰国研修員の JICA に対する信頼は、時間が経過しても失われていない、という点である。また、このような機会を待っていた、という発言が多々聞かれ、帰国研修員間の交流の可能性は確実に存在することを確認できた。ただし、日常的に他国の帰国研修員同士で交流している様子は確認できなかったことから、交流の場の存在、交流の場にアクセスしたい、と感じさせる魅力あるコンテンツの提供が交流のカギである。

² JICA の村落給水分野の協力では、給水施設は以下のとおり分類されている。①レベル1 給水施設は人力ポンプ付き深井戸、②レベル2 給水施設は深井戸から取水し公共水栓により給水する管路系給水施設、③レベル3 給水施設は各戸給水および公共水栓による管路系給水施設(深井戸による地下水源取水だけではなく表流水を処理する浄水場施設を含む)

2.3.2 2.1、2.2 の内容を基にした既存ネットワークの傾向と特性

(1) 第 1 回アンケート結果を基にした既存ネットワークの傾向と特性

JICA との継続的な連携の方法として、知識交換・共有プラットフォームに、概ね全ての帰国研修員が期待していることが明らかとなった（表 2-11）。次いで、JICA との継続的な連絡窓口の確立および質疑応答セッションの実施（60%）、帰国研修員が関心を持つ情報の提供（52%）という結果となり、いずれも課題別研修終了後も JICA と連携しながら知識や情報を入手することを希望している姿勢がみられた。オンラインでの交流会が企画された場合の参加希望の有無に関して（質問項目 2-8）、96%が「希望する」と回答したことから、その期待度の高さは明白である。

表 2-11：JICA との連携を維持するための望ましいアプローチ方法

2-6. JICA は、帰国した研修員との継続的な連携を維持したいと考えています。どのようなアプローチが必要と考えますか。（複数回答可）			
1	知識交換・共有プラットフォーム	69	95%
2	帰国研修員が関心を持つ情報の提供	38	52%
3	JICA との継続的な連絡窓口の確立および質疑応答セッションの実施	44	60%
9	その他	16	22%
	特にモニタリング、マネジメント、災害対応、気候変動へのレジリエンス、および水・衛生・衛生習慣分野の資金調達といった枠組みにおいて、帰国研修員が日本で同分野の研修に参加できるようにすること。		
	帰国研修員の母国で、交流の場を設けること		
	研修員を、現地または日本国内で開催される JICA の他のイベントに参加させること		
	研修員に対し、「日本政府奨学金経験者の同窓会組織（Amicale des anciens bénéficiaires de bourses japonaises）」への加入を促し、継続的に活動するよう奨励すること。		
	将来の実践的な段階に向けた、能力強化のために		
	最新の知識を得るために、日本での再研修（リフレッシュ研修）を実施すること		
	当該セクターの全ての関係者に対する能力向上		
	JICA がその国で資金提供するプロジェクトの実施に、帰国研修員を関与させること		
	研修員のキャリアプランに合わせた、個別の能力強化ニーズに対応するプログラムを導入すること		
	オンラインでの課題別研修へ参加となった研修員に対して来日研修の検討と		
	研修後の個別化されたフォローアップの実施、および連携機会を創出すること		
	複数の国のアクションプランの連携・情報交換を促進すること		
	可能であれば、アフリカの国で対面式の知識共有研修を実施すること		
	年 2 回、オンライン会議を立ち上げること		
	組織管理および水質モニタリングのための能力強化を目的とした、日本での追加の研修		
	日本企業による JICA プロジェクトの実施形態をとり、研修員をプロジェクト・マネージャーとして、研修員のプロジェクトを直接支援すること		

関心のある情報として、「村落部における水供給管理と衛生推進に関する優良事例（82%）」が最も多く、また類似する項目として「アフリカに既に存在する技術（38%）」が多く挙げられた（表 2-12）。このことから、自身の向き合っている課題と近い環境における優良事例を参考にし、身近なツールを用いて課題を解決したいという姿勢が窺えた。次いで「資金調達の手段（74%）」が多く挙げられている。その他の設問においても資金調達に苦勞した回答が複数あり、AP を実施できなかった要因として最多を占めた「資金不足」との関連性がみられた。

表 2-12 : AP を実施するために必要・関心のある情報について

2-7. 帰国研修員にとって関心のある情報は何か？（複数回答可）			
1	資金調達的手段	54	74%
2	農村部の水供給と衛生分野の政策	42	58%
3	農村部における水供給管理と衛生推進に関する優良事例	60	82%
4	日本の最先端技術	54	74%
5	アフリカに既に存在する技術	28	38%
9	その他	8	11%
	水分野における博士論文のための奨学金探し		
	帰国研修員が日本で水・衛生分野の研修を受講できるようにすること。特に、モニタリング（追跡調査）、マネジメント、災害対応、気候変動に対する強靱性、水・衛生分野の資金調達といった枠組みでの研修を可能にすること		
	資金動員と組織への支援		
	水道・衛生サービス管理システムが成功を収めているセクターの様々なパートナーとの交流ワークショップ		
	資金援助を求めるプロジェクトの申請を許可すること		
	飲料水供給と管理における技術的スキルの移転		
	能力の共創（Co-creation）の機会 / プロジェクトにおける連携の機会 / 資金調達と共同作業の機会		
	水質モニタリング		

JICA に対して情報提供という形の支援を期待する一方で、何らかの支援を待つだけでなく、研修員同士で連絡を取り合い情報交換している帰国研修員も一定数存在する。「他の国の元研修員たちと連絡を取り続けている」と答えた割合は約8割であり（質問項目3-1）、その方法は多くが WhatsApp 等の SNS、または e-mail であった（質問項目3-3）。研修期間中、同じ時間を共有した友人として連絡を取り合うだけでなく、役立つ経験や貴重な情報を提供してくれる存在としても期待しており、優良事例の共有や仕事上の近況、将来的な連携の可能性等について情報交換例もみられた（表 2-13）。しかし、こうした研修員間の交流は、同年度の研修に参加した同期生同士に限定される傾向が強く、年度を超えた横断的な繋がりには至っていないのが現状である。参加年度を越えた交流が促進されることは、すでに実務の要職を担う初期の研修員から次世代を担う若手へと、知識や経験を継承する貴重な機会となり得る。加えて、同一国内で類似の課題に直面する研修員同士が年次の枠を超えて連携・協働することは、現場の課題解決に向けた大きな推進力、あるいは相乗効果を生み出すものと期待される。

年次を超えた多人数での交流を活性化させる際、即時性の高い WhatsApp 等のチャットツールでは、単一のトーク画面上で次々と新しい発言が重なるため、重要な情報がすぐに埋もれてしまうという課題がある。そのため、複数の議題を並行して管理することや、過去の有用な知見を遡って参照することが実務上困難である。こうした情報の蓄積や検索性の観点から、テーマごとに議論を整理して残せる Facebook のグループ機能や、JICA-VAN のディスカッションルーム等の活用が、持続的なナレッジ共有の場としてより有効であると考えられる。

表 2-13：他の国の研修員たちと連絡を取り続ける理由

3-2. 他の国の研修員たちと連絡を取り続ける理由は何ですか？(複数回答可)			
1	役立つ経験を持っているから	49	67%
2	貴重な情報を提供してくれるから	39	53%
3	友人として	48	66%
4	その他	4	5%
私たちは兄弟のような絆を築きました。私たち研修員（このプログラムの第一期生でした）は、非常に頻繁に情報交換を行う WhatsApp グループを作成した。また、大規模な国際会議などで実際に会うこともある。			
ブルキナファソの水供給にかかる政策文書を、他の研修員と共有すること			
持続可能な水道サービス管理システムについて最新の情報を得るため。また、計画されているプロジェクトに資金提供できる技術および資金提供パートナーに関する知識を得るため。			
経験と機会の共有			

(2) 個別インタビューを基にした既存ネットワークの傾向と特性

個別インタビューは、リユニオンイベント開催前の第1次現地調査時にセネガルから参加予定の帰国研修員（5名）に行った。

インタビュー調査の結果、帰国研修員間では WhatsApp 等の SNS を用いた個人ベースの繋がりは確認されたものの、その主な用途は日常的な挨拶に留まっており、業務上の専門的なやり取りには発展していない状況が示唆された。このことから、既存の SNS とは異なる、技術的な対話を促進するための仕組みが不可欠であると考えられる。

一方で、対象となる帰国研修員はスマートフォンや PC 等のデバイスを標準的に所有しており、通信インフラの普及状況を鑑みれば、デジタルプラットフォームを活用したネットワーク構築の素地は十分に整っていると判断できる。

しかしながら、既存の汎用 SNS (WhatsApp 等) では、情報の体系的な蓄積や提供内容の質的担保、検索性において限界がある。そのため、今後はこれら散逸しがちな情報を一元的に管理・集約し、持続的な技術研鑽や情報交換を可能にする専門的なネットワーク・プラットフォームの構築が肝要である。

第3章 リユニオンイベントの企画・実施・教訓

3.1 リユニオンイベントの企画案

3.1.1 参加する帰国研修員の人選

(1) リユニオンイベント招へい者選定に際してのクライテリア

リユニオンイベントへの招へい者選定にあたっては、アンケートへの回答内容、予算・運営の効率性、および属性の多様性を担保するため、以下のクライテリアに基づき実施した。

- アンケート回答内容：
第1回アンケートへの回答を必須とし、同アンケートでの回答内容を基に選定を実施、AP実施者を有力候補とした。また、APを実施している帰国研修員においては、第2回アンケートでの回答内容を重視した。
- 地理的条件：
セネガルへの渡航が容易な近隣諸国等の居住者を優先した。これは、査証（VISA）取得の確実性および旅費コストの妥当性を考慮したものである。
- ジェンダーバランス：
198名の課題別研修への参加者の男女比（男性151名：女性47名=男性3：女性1）と著しく乖離しないよう配慮した。
- 専門分野の多様性：
現在も水・衛生セクターに関連する公的機関に所属し、実務に従事していることを条件とした。
- 研修参加年度の分散：
特定の参加年度に偏ることなく、幅広い年次の帰国研修員が交流できるよう、参加年次の分散に留意した。

上記の基本クライテリアに加え、リユニオンイベントの開催国であるセネガルおよび現地の JICA セネガル事務所の意向を反映し、以下の通り柔軟な選定を行った。

- 開催国（セネガル）における対応：
ホスト国であるセネガルにおいては、ネットワークの広範な構築を重視し、AP実施の有無に関わらず、同国の水・衛生省からの推薦者および関係部局の担当者を招へい対象に含めた。
- 現地ニーズに基づく個別調整：
JICA セネガル事務所からの要請に基づき、広域的な知見共有を促進する観点から、ニジェールについても AP 実施状況を問わず招へいする方針とした。

(2) リユニオンイベント招へい者

選定クライテリアに基づき、各国の水セクターの中核を担う人材や、今後の活動進展が期待される実務者を中心に選定を行い、JICA 地球環境部をはじめ関係各所との調整および本人への参加意向確認の結果、最終的に8カ国より計17名の招へい者を決定した（表 3-1）。選定された17名は、2012年から2025年までの幅広い研修参加年度であり、各世代間のネットワーク強化に配慮した構成となっている。

なお、最終候補としては19名まで選定したが、リユニオンイベントの開催日程（12月15日～16日）の都合が合わないなどの理由により辞退した候補者がいた。それら候補者を含めた19名の詳細は付属資料8に示す。この19名のうち、APを実施した研修生は9名となっている。

表 3-1 : リユニオンイベントの招へい者

No.	国名	氏名	性別	AP 実施	研修参加年度
1	ブルキナファソ				
2	ブルキナファソ				
3	ブルキナファソ				
4	ブルキナファソ				
5	ブルキナファソ				
6	セネガル				
7	セネガル				
8	セネガル				
9	セネガル				
10	セネガル				
11	マリ				
12	コートジボワール				
13	コートジボワール				
14	ギニア				
15	トーゴ				
*16	ベナン				
17	ニジェール				

* は、セネガルへの移動日当日（12月14日）に、「上長から参加の許可が得られずリユニオンイベントへ参加できない」との連絡が JICA ベナン支所を通じて調査団へ連絡があり、不参加となった

3.1.2 リユニオンイベントのプログラム

(1) 帰国研修員以外の招へい者と招へいの狙い

リユニオンイベントには、帰国研修員の他、多様なアクターを招へいした。ここでは、各アクターを招へいした狙いをアクター別に整理する（表 3-2）。

表 3-2 : アクター別招へいの狙い

アクター	狙い
日本大使館草の根無償担当	アクションプランを実施する際の際の原資の一つとして紹介。アンケート結果で AP の実施率が 3 割弱だったことを受けて、プログラムに組み入れたい、と考えた。 (当日は急用のため担当者欠席であったが、関連資料は参加者へ共有)
日本企業 ヤマハ、リクシル	1. 帰国研修員らに帰国後も日本企業との協働の可能性を知ってもらう 2. 帰国研修員らに JICA と交流を維持することの有用性を知ってもらう 3. アクションプラン作成において日本企業との連携の可能性を認知してもらう（課題別研修でも日本企業の紹介時間はあることから、その際、AP に組み込むアイデアを提案する工夫は有効と判断する） 4. TICAD においても日本企業との共創は強くアピールされていた
JOCV	AP を実施する際のアクターとして紹介したい、と考えたが、JOCV が派遣されている国は限られるため、派遣されていない国には、ナショナルボランティアやピースコー、フランスのボランティア、各種 NGO との連携の可能性を提案したい、と考え、招へいメンバーに加えた
JICA- VAN	帰国研修員が集うプラットフォームとして、その機能および実技を紹介
オンライン参加者	アンケート結果から、オンラインでも参加したい、との回答があり、対面とオンラインのハイブリッド形式での開催とした。また、ハイブリッド形式のイベントを開催する上での教訓も得たい、と考え、企画した

(2) リユニオンイベントのプログラム

12月15日～16日に下表に従い、現場の状況に応じてリユニオンイベントを開催した。

表 3-3：リユニオンイベントのプログラム

12月15日	内容	担当者
9:00	・開会挨拶	
	・開会挨拶	
	・自己紹介	
9:15	JICA から事務連絡	
9:30	アルムナイイベントの目的、概要	
9:45	課題別研修のこれまでの変遷、最近の研修内容紹介	
10:15	コーヒーブレイク	
10:30	AP 実践報告 イベント参加者 その1	
11:00	AP 実践報告 イベント参加者 その2	
11:30	AP 実践報告 イベント参加者 その3	
12:00	グループワーク／発表 AP を実践するために留意すべき気づきを整理	
13:00	課題別研修にかかる課題と要望／発表	
14:00	昼食	
15:00	草の根無償紹介／質疑応答	
15:45	YAMAHA 紹介／質疑応答	
16:15	リクシル紹介／質疑応答	
16:45	JOCV 活動紹介 カメルーンの事例より ／質疑応答	
17:15	紹介した各アクターとの連携イメージ協議 ／発表	
18:15	1 日目の作業終了	
12月16日	内容	担当者
9:00	JICA-VAN 紹介／質疑応答	
9:30	研修員同士の学びの場にかかる協議／発表	
10:45	コーヒーブレイク	
11:20	研修員同士の学びの場にかかる協議 ：オンライン参加者からの意見を聞く	
12:30	研修員が抱えている課題およびその課題の解決に向けた協議 ：本イベントで得た知見を活用*	
14:00	昼食	
15:00	研修員間および JICA との水衛生分野における共創のための アイデア出し**	
16:00	イベント総括	
17:00	閉会挨拶	

注1) 議事録の作成にあたっては、表中「*」および「**」で示された内容を統合して記述している。

注2) 当日のすべての発表資料は、JICA-VAN 上のクラス「Réunion des anciens de l'eau rurale」に格納されている。

3.2 リユニオンイベントの実施

3.2.1 主なプログラムの実施報告

(1) アクションプラン事例紹介

現地参加した AP 実施者より、好事例として 3 名に発表を予め依頼した。AP 発表者の選定方法は、過去 8 年間課題別研修の業務主任を担当している者の推薦に基づき 2 名を、また、技術者ではない立場である地方自治体職員から 1 名を選出した。

最初の発表は ██████████ 氏（コートジボワール）による、「Bounkani 州における飲料水へのアクセスおよび衛生環境の改善」に関する発表である。██████████ 氏は 2024 年度の研修参加者であり、この AP は 2025 年から 2027 年にかけて実施される計画となっており、途中経過の発表となった。具体的な内容として、水供給および衛生設備の整備といったハード面への支援の他、管理委員会の設立、現地修理人の育成、住民への啓発キャンペーンといった持続可能性を確保するための内容も含まれている。発表中、資金調達に関する具体的な言及はなかったものの、第 2 回アンケートおよび個別インタビューにて次のように回答している。同氏は AP 立案時、所属先組織として国家予算から調達可能な予算規模は約 1 億 FCFA と予想していた。このように AP 実施に向けた関係者の調整、予算申請等を経験上、想定できていた点が非常に重要なポイントである。同氏は、本国帰国後はあらかじめ想定したシナリオに沿って、部署内関係者の合意形成を図ると同時に予算申請手続きを行った。日頃から、現場の課題については熟知しており、そこに課題別研修で得た知見を用いて解決策を提案した結果、提案事業に対して説得力を得ることができたことも、採択に大きく貢献した、と当人は述べていた。

2 番目の発表は ██████████ 氏（ブルキナファソ）による「中央プラトー地方における学校主導型包括的衛生（ATPE : Assainissement Total Piloté par l'Ecole）」に関する AP である。██████████ 氏は 2024 年度の研修参加者であり、10 校、約 3,200 名の生徒を対象に、生徒のみならず教師を巻き込む参加型アプローチを採用し実施された。具体的な活動内容の一例として、啓発活動として実施された学校における「WASH ゲーム」の様子が動画で紹介された他、教師へのトレーニングや各学校への「衛生クラブ」の設立といった体制整備、衛生キットの配布等を通し、単なる知識の伝達にとどまらず、実際の行動変容とコミュニティの連携という成果をもたらした。また、成功面だけでなく、リソース不足等、自身が直面した課題や、今後の展望についても紹介された。

3 番目の発表は、課題別研修においてもオンライン講義にて講師を務める ██████████ 氏（ブルキナファソ、2014 年度課題別研修参加者）による「PROGEAII（農村部における給水・衛生施設管理強化プロジェクト・フェーズ 2）」と連携した AP 実施に関する発表である。██████████ 氏が課題別研修に参加した当時は、彼の担当業務地域であった中央南部州においてアフリカ開発銀行の給水プログラムや NGO などの介入支援により州内全村落で AUE 設置が行われていた。しかし、設立された AUE は機能しておらず、AUE や地方自治体、ポンプ修理工といった給水施設維持管理の中心ステークホルダーに対する能力強化・人材育成、給水施設維持管理にかかる関係者間の協定・契約の締結といった、同州における給水施設維持管理に関する体制と仕組みの構築が急務であった。このため、中央南部地方などで水利用者組合（AUE）を機能させ、給水施設を維持管理する「改革」を定着させることを目的とし、単に井戸を直すだけでなく、管理マニュアルの整備、契約関係の整理、人材育成といった「制度的な仕組みづくり」に重点をおいた AP を作成した。課題別研修に参加後、2015 年 9 月から JICA 技術協力プロジェクトの PROEGAI が開始されたが、██████████ 氏は同州におけるプロジェクトの主要 C/P として活動することとなった。プロジェクトの活動内容が AP とほぼ合致していたことから、策定された AP を技術協力プロジェクトの活動として内包化することで研修成果としての AP を実現するとともに、給水施

設の持続的な維持管理体制（ソフト面）の強化において大きな成果を上げた事例であった。

各発表に対し、同じ「研修員」という立場の人々の経験談ということもあり、会場のみならずオンライン参加者からも、非常に活発な質疑応答が交わされた。主な質問内容として、AP 実施を支援したパートナーおよび資金源確保について、AP 実施後の現在の状況について、維持管理方法といった、具体的な質問が多くみられた。

(2) 日本企業の紹介

アフリカ諸国において実績のある YAMAHA（ヤマハ発動機株式会社）および株式会社 LIXIL の 2 社より、近隣国の現地職員 2 名を招待し、それぞれの水・衛生分野に関わる事業について紹介いただいた。

両社に声かけをした理由は、これまで実施されてきた課題別研修においても講義のコマを請け負っていただいていたことから、当該研修に関して正確な知見を有していた点、帰国研修員の一部も両社を知っていた点、そして何より、両社がセネガルに駐在員を配置しており、リユニオンイベントに協力の意思を示してくれた点、等が挙げられる。その他、これまで JICA が支援してきた中小企業の中から、水衛生に関係する企業 3 社にも声かけを行ったものの、リユニオンイベントに参加する意思を示す企業はなく、事前のインタビューさえできなかったため、最終的にこの 2 社に協力を仰いだ。

「水を変え、生活を変える」というミッションのもと、世界の深刻な水問題に取り組むクリーンウォーター事業を展開する YAMAHA からは、ヤマハクリーンウォーターシステムについて紹介された。これは「緩速ろ過（生物浄化）」方式を採用し、河川水などを原水とし、WHO のガイドラインに適合するレベルまで濁度、色度、細菌（大腸菌等）を除去可能（ただし、ヒ素、塩分、重金属の除去は対象外）なシステムである。イベント開催国であるセネガルでも導入実績があることから参加者の関心を引いたものの、導入コストの大きさに関する質問・意見が多く聞かれた。

「市場ベースの衛生改善（Market-Based Sanitation: MBS）」を掲げ、寄付や援助に頼りすぎない持続可能なビジネスモデルを通じて、世界の衛生問題解決に取り組んでいる LIXIL からは、SATO ブランドについて紹介された。この製品の特徴として、1 回あたりの洗浄水量が 1 リットル未満で済むこと（SATO Pan）、平時は弁が閉じており、悪臭やハエなどの昆虫の侵入を防ぐこと、便器（SATO Pan, Stool）、手洗いステーション（SATO Tap）など、現地のニーズに合わせた製品開発していること、また、「現地の人々が買いたいと思える」安価かつ高品質さ、組み立ての簡便さから、参加者から非常に大きな関心を集めた。さらに実際に SATO Pan をサンプルとして配布したことで、より一層身近なものとして感じられている様子が伝わってきた。今後、各国・各地域における計画に活かされることが期待される。

(3) JICA-VAN の紹介

JICA 本部の JICA-VAN 担当者がオンラインで接続し、システムの機能概要やログイン方法、ディスカッションルームおよびプレゼンテーションルームの活用法について、デモンストレーションを交えた説明が行われた。その際、参加者全員が実機でのログインを試行したが、円滑に完了する者がいる一方で、操作に時間を要し個別の補助が必要となる者も散見された。特に、インターフェースが日本語表記となっていたため、自力での対応が困難な研修員に対しては、複数のスタッフによる手厚いサポートを要した。用意された 2 種類のデモンストレーションを通じて、研修員が実践を通して操作方法を習得している様子が窺えた点は成果といえる。しかしながら、会場においては操作の習熟そのものに終始した感があり、帰国後を見据えた継続的な情報交換の場として JICA-VAN を主体的に活用するイメージを持つまでには至らなかった点が今後の課題として残る。

帰国研修員らが実際に操作する上で戸惑いが見られた部分および JICA-VAN システムの改善案については、4.1(2)施策 3 にて提案している。

プレゼンテーション時間の短縮および実技時間の最大化を図るため、導入部分の原稿を通訳者が一括

本の浄水場や下水処理場での現地実習、給水・排水ネットワークのモデリングソフトを使った実技セッション、参加者の専門分野に応じた技術部門への没入体験等が挙げられた。

同じく3グループより言及された「モニタリング・評価の強化」については、プロジェクトを実施して終わりではなく、その後の追跡と評価の重要性が指摘された。それに対し、プロジェクトおよびプログラムのモニタリング・評価手法に関する講義を追加すること等が挙げられた。

「気候変動と災害対応」についても3グループより言及されており、全地球的な課題に対しWASH分野での対応策を学ぶニーズが高まっている。気候変動がWASHに与える影響、気候変動に対応できるWASHプロジェクト、および緊急事態における水衛生分野からの介入方法に関する講義の追加が提案された。

「維持管理とスペアパーツ供給」については、具体的な現場の課題として、メンテナンスを担う人材不足、スペアパーツの供給体制の不備が挙げられ、それに対して、部品供給システムの構築、予防・事後保全、水管理委員会の組織化に関する講義の導入が提案された。

文化的な抵抗感（トイレを利用する習慣がない等）や住民参加への意識・理解の低さ等、「コミュニティの行動変容」に関する課題に対し、行動変容コミュニケーションやリーダーの役割に関する教育を望むグループや、中には、研修期間が短すぎる、スケジュールが過密で質疑応答や交流の時間が限られているとして「研修の運営・構成」を課題に挙げ、研修期間の延長を提案するグループもみられた。

また、興味深い提言として、地方自治体の代表者が研修に参加することで、帰国後に同等の立場にある他の自治体首長や関係者に対し、強い動機付けや意識変革を促す（ピア・エフェクト）可能性が示された。

(3) 紹介した各アクターとの連携イメージ協議

草の根・人間の安全保障無償資金協力の連携については、多くのAP実施の壁となっている「資金不足」を解決する手段として、期待が最も高く寄せられた。連携方法として、草の根・人間の安全保障無償資金協力の存在や申請方法があまり知られていないため、元研修員が情報の普及役となり、申請書式などを広めるべきとの意見が多くみられた。また、作成したAPを受給資格のある団体（NGOや地方自治体など）に乗せることで、草の根・人間の安全保障無償資金協力から資金調達を行うことが提案された。さらに、州や自治体、学校などが草の根・人間の安全保障無償資金協力へ申請する際のプロジェクト策定を、元研修員や国が支援する体制整備についても言及された。

LIXIL（SATO）との連携方法として、元研修員がLIXILを活動中のNGOに紹介したり、LIXILが関心を持ちそうな入札情報を提供したりする「仲介役」になること、特定のブランド名を出さずにSATOの技術的特徴を地域のプロジェクト要件に組み込むことで持続可能な衛生ソリューションを普及させること、また、展示会への参加や実証実験を通じて住民に実物を見せ、製品の良さを納得させることが挙げられた。

YAMAHA（クリーンウォーターシステム）との連携方法として、元研修員が河川水を水源とする遠隔地など、YAMAHAのシステムが適した地域を特定し、YAMAHAを招いて提案を受ける機会を作ること、現地側でニーズのリストを用意し、それをもとにYAMAHA側が日本政府等の資金援助へ働きかけることが挙げられた。一方で、セネガルなどでは高い満足度が得られているものの、ブルキナファソなどからは導入コストの高さ（約12万ユーロ）が課題として指摘された。

JOCVおよびナショナルボランティアとの連携については、住民への啓発や維持管理面での協力が期待されている。具体的には、学校や保健センターでの手洗い指導、衛生教育キャンペーンにおいて協力隊員と連携すること、また、施設を作って終わりにならないよう地域に密着した隊員が継続的な管理や給水ポイントの維持をサポートすることが期待されている。特にナショナルボランティアとの連携につ

いて、JOCV を派遣できない地域において、ナショナルボランティアに水の防衛隊の知識を習得してもらうことで、支援の必要な地域で効果的な活動を実現できることが期待された。

(4) 研修員同士の学びの場にかかる協議

本テーマでは、ネットワークの組織化、運営メカニズム、そして変化する課題に対応するための継続学習の必要性が主要な論点となった。アルムナイネットワークの組織化と強化について、各国でフォーマルな元研修員ネットワークを設立または再活性化し、予算化された行動計画と定期的な会合を持つべきであること、JICA 在外事務所が国内での介入情報をネットワークに共有し元研修員が支援や能力強化に関われるようにするなど相互作用を強めること、各国持ち回りでの会合や他国の現場視察を行い、アクションプラン実施の優良事例を学び合う機会を作ることが提案された。

学習機会を提供するためのメカニズムについて、元研修員が必要とする追加研修を要望できるプラットフォームや仕組みを構築すること、元研修員同士が経験を共有し、知識を強化・更新するための動的な枠組みを作ることが提案された。

継続学習のニーズの具体例として、気候変動が WASH に与える影響への適応策や、災害に強い水利施設の建設に関すること、緊急事態における WASH 施設の管理・運用に関すること、高度な技術・管理スキル（排水の再利用や農業汚染への対策等）に関すること、および、官民連携の手法、効果的なコミュニケーション計画、従量課金への支払意思を高めるための啓発手法、環境社会管理計画の策定といったソフト・マネジメント面に関することが挙げられた。

(5) 研修員が抱えている課題およびその課題の解決に向けた協議および JICA との水衛生分野における共創のためのアイデア出し

本イベントを通して、帰国研修員同士、各国間の知見共有により、多様な給水インフラの種類、コミュニティ主体の管理モデル、効果的な保守点検の実践手法、水供給公共サービスにおける主要アクターの役割の明確化の必要性に関する理解が深まったことが明らかとなった。異なる参加年度の研修員が交流することで、過去の経験や成功事例が新たな世代へと引き継がれ、強固な繋がりが生まれることが実感されており、研修終了後も連絡体制を維持し、各国内および国をまたいだネットワークを通じて、成功事例や教訓を積極的に共有し合うことが期待されている。その手段として、「JICA-VAN」のようなプラットフォームが、研修後も継続的な情報交換や学習を行うための有効なツールであることが研修員により言及されている。ある国においてはアルムナイの組織は存在するものの、活動資金や運営体制の不足により元研修員同士の連携や知見の共有が十分に行われていない例もあり、帰国研修員が主体的に活動できる組織基盤の強化の支援を望む声もみられた。こうしたケースにも JICA-VAN のようなオンラインシステムを活用することで、活動資金を必要としない組織運営を実現できる。

あるグループは「今回のセッションは、WASH 分野の実践を継続的に改善していくために、JICA 課題別研修の帰国研修員と JICA との連携を強化することの重要性を浮き彫りにした。」と述べている。技術者が現地の最新のニーズに適応できるよう、JICA が常に研修の質を向上させようとする姿勢は、現場の大きな信頼に繋がっている。

3.2.3 会場とオンラインをつなげたハイブリッドイベントの開催方法

リユニオンイベントは12月15日～16日の2日間の日程にてセネガルのティエス市内にある Hotel Big Faim を会場として開催した。会場をオンライン会議システム (Google Meet) と接続することで、ハイブリッド形式での開催とした。オンライン参加については、事前に希望者へ会議用 URL を送付することで対応した。具体的な開催手法は以下の通りである。

- プラットフォームの選定：
オンラインプラットフォームとして「Google Meet」を使用した。双方向の議論を重視し、オンライン参加者が円滑に発言やチャットでの質疑応答を行える環境を構築した。
- 会場設営と音響・映像管理：
限られた資材・機材ではあるものの、会場の既存設備およびPCの機能を活用した設営を行った。会場側の音声と映像をオンライン側へ届けるため、PC内蔵のカメラおよびマイクを使用し、会場側で発言を行う際は、オンライン参加者にも発話が届くよう、Google Meetと接続したPCの側で実施してもらうなど工夫した。また、オンライン参加者の発言を会場側のスピーカーから出力することで、会場とオンライン双方向でのリアルタイムな質疑応答を可能とした。
- 役割分担と運営体制：
円滑な進行を確保するため、会場での司会進行役に加え、日本側からオンライン上のモデレーター（チャットのモニタリング、テクニカルサポート）を配置した。

開催前日には会場にて接続テストを行い、会場とオンライン参加者間での相互の音声確認を実施するなど入念な準備を行った。しかしながら、当日は30名を超える参加者が集まったことによる通信負荷や環境の変化もあり、会場の音声オンライン参加者に聞き取りにくい状況や、接続が一時不安定になる場面が見受けられた。

これに対し、会場側での音響システムの調整や発話者のマイク音量の調整、PCマイク付近での発話を促すことなどに加え、オンライン側のモデレーターによるチャット等でのフォロー、などの臨機応変な対応を順次実施した。今回の経験から得られた課題は、次回のハイブリッド開催における機材構成の再検討や、通信環境のさらなる改善に向けた教訓とする。

3.2.4 リユニオンイベント終了後のアンケートおよびインタビューの実施

(1) リユニオンイベント終了後のアンケートの主旨

終了後アンケートでは、本イベントを通じて得られた学びや着想が、研修員の今後の活動やAPにどのように反映されるかを把握するとともに、民間企業、草の根無償資金協力、JOCV等、多様なアクターとの新たな連携に向けた具体的なニーズを収集することを目的とした。これにより、官民連携を含めた多角的なフォローアップ体制の構築や、JICA-VAN等のプラットフォームを活用したネットワークの活性化、さらには次期課題別研修のプログラムのさらなる改善に資する知見を得ることを目指した。アンケートはGoogle Formsを用いて作成し、イベント終了直後にオンライン形式で配布を行い・回収した。

(2) リユニオンイベント終了後のアンケートの内容

終了後アンケートは、主に以下の3つの項目で構成した。終了後アンケートの質問詳細は付属資料10に示す。

- APの更新および研修プログラムの改善
リユニオンイベントでの学びを踏まえたAPの具体的な実施・更新計画を調査する。また、来年度以降の課題別研修について、元研修員の視点からプログラムの有効性や改善点に関する提案を収集し、研修の質的向上を図る。
- 多様なスキームを活用した連携アイデアの創出
草の根・人間の安全保障無償資金協力の活用、民間企業（ヤマハ発動機、LIXIL）の技術導入、およびボランティア（JOCV、ナショナルボランティア等）との協働について、各プレゼンテーションを踏まえた具体的な事業アイデアや連携の可能性を確認する。これにより、従来のJICA事業

の枠組みを超えた共創・介入の機会を特定する。

- ネットワークの強化と情報共有プラットフォームの活用
オンラインプラットフォーム（JICA-VAN）の具体的な活用方法や、元研修員同士が継続的に学び合える交流機会の創出に関するアイデアを収集する。あわせて、イベント運営全般（内容、形式、運営体制）に対するフィードバックを求め、今後のアルムナイ活動の指針とする。

(3) リユニオンイベント終了後のアンケートの結果

終了後アンケートの送付人数は37名（うち、16名が対面参加の帰国研修員、15名がオンライン参加の帰国研修員、2名が民間企業、3名が現役JOCV、1名がベナンJOCVのOG）、回答数は28名であり、国・属性別の人数は下表のとおりであった。

表 3-4：終了後アンケートの配布と回答数（国・属性別）

(対面参加者)			(オンライン参加者)		
国名・属性	送付	回答	国名	送付	回答
ブルキナファソ	5	5	ブルキナファソ	4	1
セネガル	5	5	マリ	5	3
マリ	1	1	コートジボワール	1	0
ギニア	1	1	ニジェール	1	0
トーゴ	1	1	ジブチ	2	1
コートジボワール	2	2	中央アフリカ	1	1
ニジェール	1	1	チャド	1	1
民間企業	2	1	小計	15	7
JOCV	3	3			
JOCV (OG)	1	1			
小計	22	21			

APの実施状況および今後の計画、課題別研修へのニーズ、ならびに民間連携を含む諸スキームの活用可能性について、以下の通り調査結果を整理した。なお、終了後アンケートへの回答詳細は付属資料11に示す。

1) APの実施状況と今後の計画

実施状況と停滞理由

- UNICEF等の外部ドナー資金や自組織予算の活用により、APの一部実施に成功している事例が確認された（ 氏、ブルキナファソ/ 氏、セネガル）。
- 一方で、最大の障壁は依然として「資金不足」であり、多くの参加者がこれを停滞の理由に挙げている（ 氏、チャド/ 氏、ニジェール/ 氏、セネガル/ 氏、マリ/ 氏、ブルキナファソ）。
- 組織の無関心により報告会すら実施できなかったという受容性の課題も確認された（ 氏、ブルキナファソ）。

今後の実施計画・提案

- 外部リソースの活用: 本イベントで紹介された「草の根・人間の安全保障無償資金協力」や、ヤマハ・LIXIL等の民間企業とのパートナーシップをAPの実施手段として組み込み、具体案を作

成する意欲が示された (████████ 氏、セネガル / ████████ 氏、トーゴ / ████████ 氏、ブルキナファソ)。

- 組織・戦略への統合: AP を国の年次活動計画 (PTBA) や他ドナーのプログラムに統合し、予算確保を目指す戦略が示された (████████ 氏、ギニア / ████████ 氏、セネガル)。
- 職場での知見共有: 帰国後、職場内で同僚や関係機関との共有会議を開催し、イベントで得た他国の成功事例や技術情報を管理体制の改善に反映させる計画が挙げられた (████████ 氏、ブルキナファソ / ████████ 氏、マリ)。

2) 課題別研修の内容に関するニーズ

- 新規テーマの要望: 治安悪化に伴う「緊急事態下の WASH 支援」や、サヘル地域における「気候変動・レジリエンス」に関するモジュールの追加要望が極めて強い (████████ 氏、ブルキナファソ / ████████ 氏、ブルキナファソ / ████████ 氏、ギニア)。
- 研修手法の改善: 座学以上に、日本の現場での実習や、解析ソフト (ネットワークモデリング等) を用いたより実践的なスキルの習得が求められている (████████ 氏、中央アフリカ / ████████ 氏、セネガル / ████████ 氏、トーゴ)。

3) 民間・他スキームとの連携可能性

- 民間連携 (ヤマハ・LIXIL): ヤマハの浄化システムについては表面水利用地域での有効性が期待される一方、高コストと蒸発対策が懸念点として挙げられた (████████ 氏、コートジボワール / ████████ 氏、ニジェール)。LIXIL (SATO) については学校・保健センターへのパイロット導入などの具体的提案があった (████████ 氏、マリ / ████████ 氏、コートジボワール)。
- 草の根・人間の安全保障無償資金協力およびボランティア (JOCV): AP の有力な資金源として草の根・人間の安全保障無償資金協力に高い期待が寄せられた (████████ 氏、ブルキナファソ)。また、ボランティアは住民啓発や技術移転の不可欠なパートナーとして再認識された (████████ 氏、マリ)。

4) ネットワーク (JICA-VAN) の活用

- JICA-VAN の重要性は認めつつも、WhatsApp のような手軽な操作性や定期的な情報更新を求める要望があった (████████ 氏、マリ / ████████ 氏、セネガル)。
- 国を跨いだ対面での交流 (持ち回り開催等) が、研修員のモチベーション維持と知見共有に極めて有効であるとの意見があった (████████ 氏、ブルキナファソ / ████████ 氏、ジブチ / ████████ 氏、日本)。

(4) リユニオンイベント終了後のインタビュー (ブルキナファソにて)

12月15日～16日のアルムナイリユニオンイベントの開催後に、ブルキナファソ国から参加した帰国研修員 (リユニオンイベント参加者3人、イベントへの参加招へいの対象とはされなかった課題別研修帰国研修員6人) と面談する機会を設けることができ、リユニオンイベントや課題別研修に関するいくつかのコメントを得た。

- 課題別研修の参加者が帰国後に集まり各国の経験を共有する、また課題別研修時にはなかった新しいトピック・情報を得られる機会は、各国での業務実施において非常に有益であった
- 研修年度が違う他国の帰国研修員との交流の機会が全くなかったため、アルムナイリユニオンイ

ベントを機会に国・年度を超えたネットワークを作っていきたい

- 帰国研修員が利用するオンラインプラットフォームは経験共有・学びあいの場として重要であるが、今回のアルムナイリユニオンイベントのような対面で集う会合を定期的に開催することを検討してもらいたい
- ブルキナファソでは帰国研修員同窓会の分科会として、給水衛生セクターのグループを作ること計画している
- オンラインで課題別研修が実施された参加者に対しても日本での研修参加の機会を与えてもらいたい
- 技術協力プロジェクトと課題別研修を連動して実施する協力は非常に有効な方法だと考える
- リユニオンイベント開催後にマリの帰国研修員が業務出張でブルキナファソを来訪し、同期の帰国研修員をはじめブルキナファソの給水衛生セクター関係者と協議・交流ができたのが非常に良かった

(5) リユニオンイベント終了後のアンケートにかかる考察

終了後アンケートの結果に基づき、3点の考察を以下に記載する。

1) AP 実施を支援する「外部リソース活用」の重要性

多くの研修員が資金不足を課題とする一方で、本イベントで提示した草の根・人間の安全保障無償資金協力や民間連携スキームを、AP 実施のための具体的な「解決策」として高く評価していた。今後は課題別研修の段階から、これらの外部資金や日本企業の技術を AP に組み込む「プロジェクト・デザイン」の視点を持たせることが、帰国後の実行力を高める鍵となる。

2) 情勢変化に即した「実践的知見」への高い需要

サヘル地域の治安悪化や気候変動を背景に、「緊急事態下の WASH」や「レジリエンス構築」といった高度な専門テーマへのニーズが顕著である。研修カリキュラムにおいて、これらの最新トレンドを反映した事例紹介や、ネットワーク解析ソフト等の「実践的ツール」の習得を強化することで、各国の喫緊の課題に直接応える研修へと高度化させる必要がある。

3) モチベーションを維持する「地域ネットワーク」の価値

対面での交流が、研修員のモチベーション維持や知見の横展開に極めて有効であることが再確認された。JICA-VAN の利便性向上（操作性の改善、多言語への対応など）を進めると同時に、今回のような地域別の対面フォローアップを継続的に実施することが、研修効果の長期的持続と、日本企業を含む官民連携ネットワークの定着に不可欠である。

3.2.5 イベント後の取り組み(試験的 JICA-VAN ディスカッションルーム機能を活用した交流および継続学習)

(1) 実施の背景と目的

第1回アンケートおよびイベントでの議論を通じて、帰国研修員による「研修員同士の交流」および「継続学習」への強いニーズが確認された。特に交流促進のためのプラットフォーム構築を求める声が多い。これを受け、JICA-VAN の具体的な活用方法を提示することで、研修員が主体的に学び合う場を創出する。研修員の高い意欲を背景とした自走的なコミュニティ形成を促すことで、JICA による定期的な介入を最小限に留めつつ、持続的な交流と学習の継続を図る。また、研修員の学習ニーズに応え、JICA との接点を維持することで、組織に対する信頼感の醸成・維持を目指す。

(2) 実施内容

以下のプロセスをメールにて共有し、ディスカッションルームを用いた継続学習を促した。

1) テーマ別ディスカッションの実施

帰国研修員自身による議論を通じて抽出された、優先度の高い4つの重点テーマ（気候変動適応、災害対策、緊急時管理、高度技術）に基づき、JICA-VAN上にディスカッションルームを設置する。現場のニーズを直接反映したテーマ設定を行うことで、より実効性の高い知識共有を促進する。

2) 学習成果の共有と相互学習の効率化

議論の成果をプレゼンテーション資料として集約・共有し、アルムナイ内での効率的な知見獲得を図る。質疑応答はJICA-VAN上「プレゼンテーションルーム」機能を活用するほか、必要に応じてオンラインミーティングを開催する。

3) 研修プログラムへのフィードバックとニーズ把握

コミュニティ内で解決に至らなかった課題や共通のニーズを、次期課題別研修のカリキュラムに反映させる。これにより、実情に即したプログラム改善を行うとともに、オンラインを通じた既存研修員の継続参加も検討する。

4) 自走的な運営体制の構築

研修員のイニシアティブを促し、主体的かつ持続的なコミュニティ運営を目指す。また、研修員からの申請に基づき随時ルームを新設できる柔軟な運用体制を整える。

なお、メールによる通知後、3名（コートジボワール2名、ブルキナファソ1名）から返信があり、そのうち1名からは運営において主体的な役割（イニシアティブ）を担う旨の意思表示が得られた。

(3) JICA-VANの活用状況と利用者の反応

イベント翌日から2026年1月14日時点におけるアクセス数は累計22回、利用者数は8名であった。利用促進を図るため、当日使用したプレゼン資料を「教科」機能へ、集合写真を「ディスカッションルーム」へそれぞれ格納し、参加者へメールで周知した。これに対し、8名から資料共有への謝意が示されたが、ログイン履歴を確認したところ、そのうち3名はJICA-VANへのアクセスには至っていなかった。また、資料を格納した「教科」の受講状況は、受講開始が2名（うち1名が完了）に留まり、写真へのコメント投稿も1件であった。これらの結果から、コンテンツへの関心は認められるものの、実際のプラットフォーム利用（ログインや投稿）に至る過程において、時間的制約、通信環境、あるいは心理的障壁といった何らかの阻害要因が存在している可能性が示唆される。

3.3 リユニオンイベントの実施を踏まえた教訓

3.3.1 リユニオンイベント(会場)から得た教訓

リユニオンイベントの現地会場での運営・実施を通じ、会場の活発な雰囲気や参加した研修員との直接的な対話から、彼らの現状や今後の連携のあり方を示唆する多くの知見が得られた。特に、帰国後も維持されている日本への信頼や、対面交流がもたらす熱量を再確認できたことは大きな収穫であった。

これらの現地での気づきを、今後の事業運営や研修員ネットワーク強化に活かすべき教訓として、以下の4つの観点から整理する。リユニオンイベントの現地会場での運営・実施を通じ、会場の雰囲気や参加していた研修員のコメントなどから、現状や今後の連携のあり方を示唆する多くの知見が得られた。

主な教訓を以下の4つの観点から整理する。

(1) ネットワーク構築と交流の形態

研修員同士の交流については、対面ならではの効果が確認された一方、参加者の属性に応じた交流促進の必要性が感じられた。

- 対面機会の定期的創出：
「オンラインよりも対面の方がモチベーション維持に寄与する（マリ参加者）」との声がある通り、直接顔を合わせる場の創出が帰国後の活動意欲維持に不可欠である。今後は可能な限り対面、あるいは対面に近い臨場感を持った交流の場を継続的に設ける。
- 年次を越えた橋渡し支援：
同期生以外との交流には「ぎこちなさ」が見られた。今後は、研修年度が異なる参加者同士でも円滑に交流できるよう、運営側による能動的なマッチングやアイスブレイクなどを導入する。
- 多様なアクターの巻き込み：
専門分野を越えた交流が研修員への大きな刺激となるため、次回以降も多様な背景を持つ関係者を招へいし、学びや情報を多角化させる環境を維持する。

(2) 日本側関係者との継続的な紐付け

今後の事業形成や研修内容の改善に資する、現場レベルのニーズが収集された。

- 本邦関係者の継続関与：
特定の日本人関係者（多年度の課題別研修にわたり研修管理員に従事されている與田氏など）との再会を望む声が非常に大きい。今後は、本邦研修時のキーパーソンをユニオン等のイベントに参画させることで、研修員の帰属意識と日本への信頼感をより強固に維持できると思慮する。

(3) 技術的ニーズと支援への期待

研修内容そのものと同等以上に、日本での「人との繋がり」が帰国後の資産となっていることが確認された。

- 支援の継続性の検証：
セネガル参加者から「課題別研修後に AP 実施に向けた支援が途切れている」とのコメントがあった。課題別研修後のモニタリング・フォローアップ体制のあり方を検討する必要性を感じた。
- 自発的な参画意欲と相互学習に対する高いニーズ：
本イベントにおいて特筆すべきは、参加者の極めて高い自発性と学習意欲である。通常、現地プロジェクトの活動では日当の支給が慣例化しているが、今回は現金の支給が一切ない条件下での実施となった。国外からの参加者においても、空港までの移動費を自己負担するという制約があったにもかかわらず、参加者からの不満や要求は皆無であった。
さらに、選定から漏れた帰国研修員から「交通費を自己負担するので参加したい」という要望が寄せられた事実は、彼らが単なる経済的インセンティブではなく、帰国研修員同士の「学びの場」や「ネットワーク」をいかに強く渴望しているかを如実に示している。
- JICA-VAN の活用支援：
1回の講習では習熟が困難であるとの実態を踏まえ、操作マニュアルの改善や多言語への対応（特にフランス語）、帰国後も定期的にオンラインでレクチャーを行うなどの継続的なフォロー体制を構築する必要がある。

(4) 運営および環境面

今後のイベントや課題別研修を実施する上で、対応することが望ましい事項が共有された。

- ジェンダー配慮の徹底：
女性参加者の少なさが顕著であったため、課題別研修の候補者選定のプロセスからジェンダーバランスを意識した観点からも応募者の募集・選定を実施する。
- 自律的な学びの場の提供：
研修員には「互いの知見から学び合う高い意識」があるため、次回にイベントを開催する際には、講師が教えるだけでなく、研修員同士が主体的に議論・意見交換できるプログラムや AP 事例の発表などを多く取り入れることも一案である。このようなプログラムを実施する場合、今回の経験から、2 日間の限られた日程では十分な議論の時間を確保しきれない可能性を感じた。今後は、イベント期間の延長を検討するか、あるいは事前・事後のオンライン学習・情報共有を組み合わせるなど、質の高い対話時間を十分に確保するための構成上の工夫が必要である。

3.3.2 リユニオンイベント(オンライン参加)から得た教訓

オンライン参加のニーズは、地理的制約(今回のセネガルでの開催の場合は、中央アフリカ・ニジェール・マダガスカル・ジブチ等)がある帰国研修員にとって非常に高く、ハイブリッド開催の有用性が再確認された。一方で、オンライン特有の「リモート参加の質」を担保するためには、事前の情報共有やファシリテーション等の工夫の必要性を感じた。主な教訓を以下の3つの観点から整理する。

(1) オンライン参加の有効性と実施環境の整備

- ニーズの把握と有効性：
対面で参加することができない参加者にとって、オンライン参加可能な形式でのイベント実施は有効な手段である。若干名の参加であっても、継続的に参加機会を提供することは帰国研修員のモチベーションの維持の観点からもその意義は大きい。
- 事前の環境整備：
会場側の通信機能・音響設備の事前確認を徹底することが、円滑な実施の条件である。一方で、オンライン参加者側の通信環境については、運営側での直接的な改善や介入が困難である。そのため、接続不良を前提とした「チャットによるフォローアップ」や「後日の録画共有」など、通信トラブル発生時の代替策をあらかじめ想定しておくことが肝要である。

(2) オンライン参加者の発言を促すファシリテーションと導入の工夫

- 既知の関係性によるサポート：
オンライン参加者は会場参加者に比べて心理的な距離を感じやすく、議論への主体的な参加が難しくなる傾向がある。今回の試行により、研修員の背景や課題別研修参加時の様子を熟知したスタッフ(研修監理員等)が意図的に介入し、指名や問いかけを行うことが、孤立感を防ぎ議論を活性化させる上で極めて有効であることが示唆された。今後のハイブリッド開催においても、こうした「既存の信頼関係」を活用した配置を計画的に組み込むことが望ましい。
- 導入プログラムの活用と限界：
オンライン参加者の発言するハードルを下げるために、アイスブレイクや自己紹介の時間を設けることが重要である。ただし、機材トラブルや時間の制約、途中入退室といったオンライン特有の流動性があるため、それらの対策に限界があることも認識しておく必要がある。

(3) 「置き去り感」を防止する運営

- リアルタイムな状況共有：
会場側での調整時間や機材トラブル発生時、オンライン参加者が「放置」されるリスクがある。これを防ぐためには、会場担当とオンライン担当の従事者同士が密に連携し、チャット等で状況を随時共有するなどの臨機応変な対応が必要である。
- 通信環境への対応：
参加者側の通信環境は介入が困難な課題であるが、議論が中断されないよう、テキストベースでの参加（チャット活用）を併用するなどのバックアップ策の検討が必要である。

3.3.3 各種アンケート、インタビューから得た考察

第1回アンケートからイベント時の討議に至るまで、研修員同士の知見共有およびプラットフォーム構築を求める声が一貫して確認されている。これら双方のニーズを充足させる手段として、JICA-VANの具体的な活用方法を提示することは、持続可能な交流と学習機会の創出に極めて有効である。

また、個別の事前連絡において、自身の参画プロジェクトに関する具体的な情報提供を求める要望も散見された。こうした個別の専門的ニーズに対し、JICA 担当者が都度対応することには限界がある。しかし、研修員相互のネットワークを活用し、知見を持つ同窓生が助言を行う仕組みを構築することで、JICA 側の負荷を抑えた持続的な学び合いが可能となる。

さらに、JICA にとっても、プラットフォーム上の議論を継続的にモニタリングすることで、現場の潜在的な課題やニーズを的確に把握できる。これにより、将来的な案件形成や支援の質をより一層向上させることが期待できる。

第4章 今後に向けた提言

4.1 今後の「横の学び合い」のあり方とネットワーク活用の検討

現地調査（2回目）の結果を踏まえ、ここでは仏語圏アフリカの横の学び合いの在り方と帰国研修員ネットワークを中心として具体的な活用方法を以下の通り提案する。

(1) 現状の評価と今後の方向性

今回のリユニオンイベントを通じて、帰国研修員のモチベーションの高さとイベントに対する極めて高い満足度が確認された。一方で、単発の開催ではその効果が一過性に留まる懸念がある。交流を定着させ、ネットワークを強固なものにするためには、以下の視点が重要である。

- 交流の継続性と安定化：
今回のようなリユニオンイベントを再度開催あるいは JICA-VAN のようなオンラインプラットフォームを通じたコミュニケーションを継続することで、研修員間のつながりを一時的なものではなく、持続可能な「コミュニティ」へと昇華させる。
- コンテンツの魅力向上：
交流を常態化させるため、研修員の専門性や実務上のニーズに合致した、関心を引き続けるコンテンツを常に JICA 側から提供する。
- 多様なアクターとの連携：
帰国研修員を多角的に支援できるよう、JICA のみならず外部の多様なステークホルダーとの連携機会あるいは情報提供を行い、ネットワークの厚みを増す。
- 層別・世代間交流の促進：
次回開催時には、異なる課題別研修年度の参加者を意図的に招へいし、研修年度を超えた知見と共有のネットワークの拡大を意図的に図る。
今回の取組みで不足していた配慮としては、理想的にはリユニオンイベントに参加する帰国研修員の参加年次を確認して、その年に実施された研修内容を事前に検証することで参加している帰国研修員が既に有している情報の格差に配慮したリユニオンイベントプログラムにすべきであった点が挙げられる。

他方、JICA の陣容や予算から、帰国研修生に対するフォローアップや定期的なリユニオンイベントの開催は現実的ではない。そこで、ここでは、実現可能な取り組みとして以下のような提言を行う。

現在、年1回開催されている、課題別研修（アフリカ地域村落給水衛生管理）の機会に、帰国研修員のリユニオン（課題別研修へオンラインから一部の元研修員が参加・アクションプランのフォローアップ等）を行うことを提案する。具体的には、年間を通じて JICA-VAN に寄せられた帰国研修生が抱える課題や彼らの取り組みを題材として、参加している研修員と話題提供した帰国研修員を交えて議論を交わすことで、ネットワークの維持・活用につながることを期待される。このような取り組みであれば、課題別研修委託の枠内で予算、陣容を調整することで継続的にリユニオンイベントの開催は可能と思慮する。

(2) ネットワーク活性化に向けた具体的施策

上記の方向性を具現化するための策として、以下の4点を提案する。

- 施策1：対象・地域を変えた継続調査とイベントの実施

今回と同様の手法を用いつつ、対象国やエリア、参加層を入れ替えて継続的に実施する。これにより、未開拓のネットワークを掘り起こし、帰国研修員間の交流を広域的に活性化させる。

- 施策2：課題別研修とリユニオンイベントの連動（ハイブリッド型）
日本で実施される「課題別研修」のプログラム内に、オンラインで帰国研修員が参加するリユニオン枠を組み込む。これにより、現役研修員と帰国研修員の接続を図る。
- 施策3：JICA-VAN インターフェース・仕様の最適化
帰国研修員らが実際に操作する上で戸惑いが見られた部分および JICA-VAN システムの改善案を以下に挙げたい。

1) 非日本語話者向けログインプロセスの視覚化

非日本語ユーザーの研修員が JICA-VAN にログインする際、仕様上「English User Login」を選択する必要があるが、初期画面として日本語版インターフェースが表示されることで、切り替えボタンを視認できず混乱に陥る者が多い。このような状況下では操作が完全に停滞し、自力でのログイン完遂が極めて困難となる。この課題を解決するため、非日本語ユーザーへ ID を通知する際の手法として、以下の2点を提案する。

- i. ログイン画面のキャプチャ画像を用いて「English User Login」の箇所を視覚的に強調した画像をメール本文内に挿入。
- ii. 多言語に対応したログイン方法の解説資料（PDF または URL）をメールに添付。

これらにより、IT リテラシーや言語の壁を問わず、誰もが円滑にアクセスできる案内体制を構築することが重要である（図4-1）。

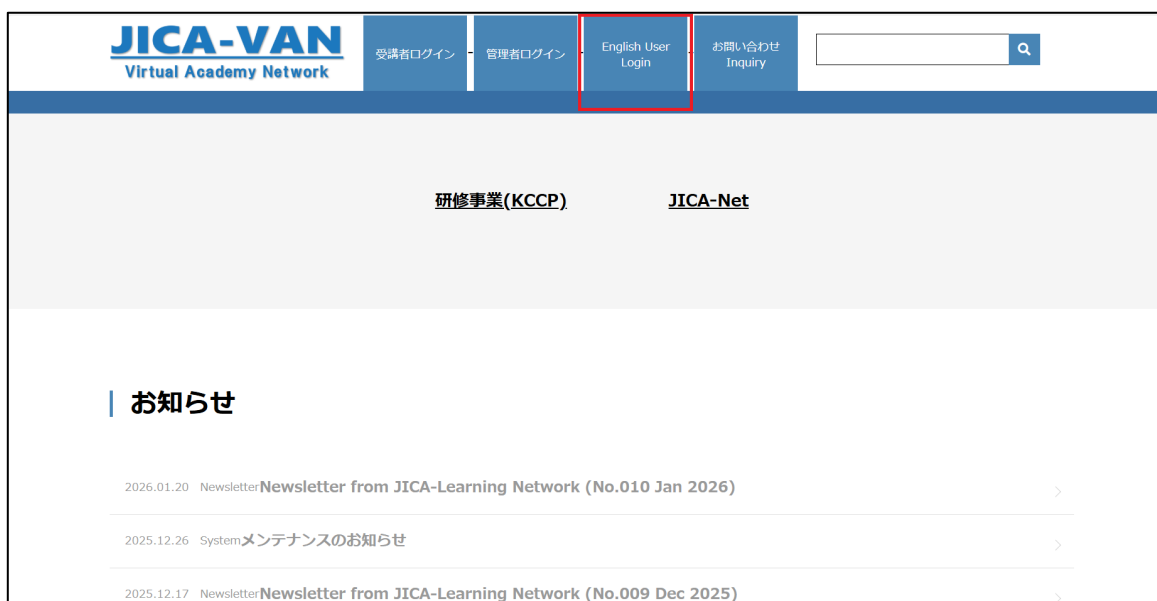


図4-1：JICA-VAN ログイン画面（日本語版インターフェース）

2) 投稿ボタン名称の最適化

「ディスカッションルーム」において、コメントを作成する際に「Send」と表記されている箇所をクリックするが、「Send」という表記により即時送信への不安が生じる。この不安を解消するため、より投稿内容に即した「Comment」や「Message」への名称変更を提案する（図4-2）。

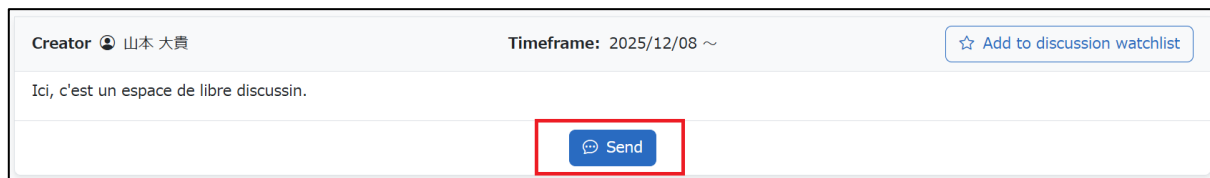


図 4-2 : JICA-VAN 「ディスカッションルーム」コメント作成時の画面

3) インターフェースにおける使用言語の完全統一

「ディスカッションルーム」においてファイルを添付する際、英語版インターフェースであるものの「ファイルの選択」等、一部に日本語表記が混在しており、利用者の混乱を招いている。操作上の戸惑いを排除し、利便性を向上させるため、システム内言語を完全に統一することを提案する（図4-3）。



図 4-3 : JICA-VAN 「ディスカッションルーム」にて資料添付時の画面

4.2 課題別研修「アフリカ地域 村落給水衛生管理」へのフィードバック

(1) パート別フィードバック

2026年度以降に実施される、課題別研修「アフリカ地域村落給水衛生管理」に対して、本案件を通じて得られた知見を元に、研修計画改善以下に示す4つのポイントに分類して提言する。

1) 研修の枠組み

- 多様なアクターの取り込み（詳細は後述）
- 帰国研修員へ日頃の悩み等を JICA-VAN に投稿するよう働きかける（課題別研修開始前から）
- 研修参加者のクライテリアに関して協議（クライテリアの優先順位が高いものとしては、①ジェンダー配慮、②専門バランス”水、衛生”、③一定の予算采配権限を有する地方行政官、④地方行政官と水・衛生専門家のセット派遣”配属エリアも留意”

2) 研修計画改善

- 優良コンテンツ、最新情報の提供は有用（常に更新していく意識を持つことが重要）
：帰国研修員も興味を持つポイント
- JICA-VAN へのアクセス機会を最大限高める
：丁寧な実技指導と課題別研修中、繰り返しアクセスする機会を設けることで習熟を促す
- 研修員の多くは、その国の水・衛生セクターの将来を担う立場にあることから、AP の立案も重視される一方で現在、各研修員の国で実施されている事業に対する「モニタリング・評価」の視点を加えることも有用な視点である
- 帰国研修員の学びのニーズに沿ったプログラムの設定
- オンライン参加で帰国研修員を招へいし、経験談を話してもらう（リユニオンイベント）
- JICA-VAN を活用する機会を増やす

3) 研修実施時

- 身の丈にあった AP 作成を指導
- 研修毎にリユニオン班長を数名任命して同期帰国研修員に対して定期的な声掛けを期待
- JICA-VAN を日常的に活用
- 同じ国から派遣されているペアで AP を立案
- 参加中の研修員と帰国研修員とのネットワーク強化（帰国後も当該国で連携を期待）
- 研修実施後のフォローアップや AP 支援
- JICA-VAN へのアクセス状況の検証（場合によっては次年度課題別研修時）
- 研修員帰国後、AP 実施に向けた支援方法としては、JICA 在外事務所・支所のナショナルスタッフを活用

(2) アクターによるマルチセクトラルアプローチポイント

本調査では、多様なアクターの支援を受けつつ調査は実施してきたが、それら機会を通じて、様々な気づき、教訓を得たことから特に「日本企業との連携」、「アクター間マルチセクトラルアプローチアイデア」に分類して整理する。

1) 日本企業との連携

リユニオンイベントでは、帰国研修員が日本製品を自国でコーディネートできる役割も担うことができるのではないか、という意見も聞かれた。コーディネーションの形としては、帰国研修員が現場で活動する NGO と本邦民間企業を繋ぐ、というイメージである。今回のリユニオンイベントに参加された Yamaha や LIXIL の他にも仏語圏アフリカで既に展開されている企業も存在する、と推測される。そこで、年に一度、WASH 分野で興味関心を持たれている日本企業と幅広く研修員が関係性を持てる機会は有効である、と考える。

2) アクター間マルチセクトラルアプローチアイデア

- 本調査では、JICA セネガル事務所に加えて、北海道センター、JICA-VAN 担当、中小企業支援部署（実質的な連携企業は無し）の協力を得た
- JOCV の参加に関しても日本企業との連携アイデアの創出、水衛生省の任地担当とを繋ぐなど、一定の成果が確認されたことから、JOCV 事務局の参画も期待できる
- 上記、JICA 関係部署を地球環境部が中心となって取りまとめることで、地球環境部を軸としたマルチセクトラルアプローチの実現を提案する
- 対面会場とオンライン参加のハイブリッド形式にてイベントを実施する場合は、運営をスムーズにするため、専任のデジタル技術者を投入することを提案する

なお、本調査を通じて、複数のアクターが関わったが、調整役の重要性、相互理解には時間を必要とする、などの教訓を得た。

- 研修参加者の選定に当たってジェンダー配慮を相手国政府に依頼
- 研修参加者の選定に当たって専門バランス（水、衛生）に対する配慮を相手国政府に依頼
- AP の実施率向上と予算確保を確実にするため、資金決定権を持つ地方議員と、同一・類似地域の技術者をセットで選定する

ただ、予算の制約も十分に考えられることから、一例として、過去の優良事例を参加予定の研修員に対して紹介して、研修前に地元の地方行政官と連絡を取り、予算獲得の可能性等について情報を得た上で研修に参加できれば AP の実現の可能性は高まる、と推察する。

4.3 クラスタ事業戦略「サヘル地域の平和と安定」に資する水・衛生セクターの取組みアイデア

(1) JICA を取り巻く環境

JICA は課題別事業戦略「平和構築」の下、クラスタ事業戦略「サヘル地域の平和と安定」を推進しており、暴力的紛争を発生・再発させない強靱な国・社会づくりを目指し、政府の能力強化、**住民から政府に対する信頼醸成、社会・コミュニティの強靱性向上**や国際協調の促進」を目的としている。

そして、今回のリユニオンイベントに参加した国には、現在 JICA の活動が大きく制限されている国も含まれていた。

- 当該セクターにかかる JICA の予算は限定的な状況
- 国や地域の実情から JICA が直ぐに支援を実現できる国とできない国に分類される
：地域全体を見極めつつ、各国、地域の実情に応じて支援していく国、地域の優先順位付けを行うことを提案する（選択と集中）

(2) ソフト支援、日本の民間企業との共創の提案

- 当該セクターに支出可能な予算を最大限有効に活用する

- 広く、浅く支援を実現したい、ということであれば、ソフト支援を提案する
- 住民の信頼を得る、社会・コミュニティの強靱性向上のため効果的なアプローチとして、ボランティアの活用を提案する（ブルキナファソではナショナルボランティアの活用実績有）
JOCV（JOCV 事務局との連携）、ナショナルボランティア、ピースコー、NGO 連携、その他ボランティア
大規模な投入で信頼を得るのは相手国政府および投入が行われた周辺の住民のみに限定されるが、投入規模は小さくても住民に直接声が届く、支援も有益と考える（現在の JICA 予算規模を考えると後者の方が妥当と推察）
- ボランティア以外にも水・衛生セクターに関係する日本の民間企業との共創も一考である
*直近の TICAD9 で示された潮流は、アフリカの自律的な発展に向けた「民間投資の促進」と「社会課題解決型ビジネス（インパクトビジネス）」の創出が中心課題となっている。
予算が限定的な中、日本の民間企業が持つ革新的な水管理技術やデジタル技術を導入することで、JICA のソフト支援（技術協力）と民間企業の事業展開を掛け合わせた、持続性の高い支援モデルを構築する。

(3) 具体的施策

ここでは、上述したアイデアの実現させる場合のイメージを提示する。

1) ナショナルボランティアの活動（JOCV も含む）

- 必要予算やリソースの想定
予算に関しては、草の根無償、JOCV と連携する事で JOCV の活動予算の一部を活用、国際機関や現地 NGO からの寄付が想定される。
- 優先的に実施すべき活動
多額な予算は期待できないことから、あくまで衛生にかかる活動がメインとなる、と推察される。
- ボランティアに求められる職制
ボランティアに求められる職制としては、将来、教員や医療現場での従事を目指す人材が妥当と判断する。
- 各国担当機関との協議～募集
日頃から、水・衛生に関心を持っている国際機関や NGO 等をターゲットとして挙げられる。
- 研修の実施
研修の実施に際しては、JICA や現地行政機関、NGO 等が所有する教材を活用することを提案する、また、治安に不安がある地域を対象とする場合は、現場の若者を安全に研修を実施できるエリアに招へいし、研修を行うことを提案する、講師としては、各種教材を提供する組織が理想的であり、場合によってはオンラインでの講義もありうる。
- 現地活動のフォローアップ
ナショナルボランティアの現地活動のフォローアップに関しては、ナショナルボランティア派遣組織や水・衛生に関わる省庁（地方支部）が中心となって検証を行い、その報告書は予算を提供した組織、研修実施を支援した組織に対して提示されるべきである。
- JICA が協力できる役割
JICA が協力できる役割としては、教材の提供、研修講師の派遣（オンライン）、JOCV の紹介、大使館草の根担当の紹介、JOCV の経験値の共有等が挙げられる。

2) 民間企業との共創

- 必要予算やリソースの想定
予算、リソースに関しては、上述した想定に加えて民間企業独自の予算拠出も期待できる（サンプル提供）。
- 優先的に実施すべき活動
共創する民間企業が売り込みたい商品によって優先順位は決定される。
- 各国担当機関との協議～募集
民間企業が売り込みたい商品に関連するセクターに日頃から興味を持っている諸機関が対象となる。
- 研修の実施、現地活動のフォローアップ
民間企業が実施することになる。

付属資料

- 付属資料 1 : 人物台帳
- 付属資料 2 : 第 1 回アンケート質問内容
- 付属資料 3 : 第 2 回アンケート質問内容
- 付属資料 4 : 面会者リスト
- 付属資料 5 : 現地調査日程
- 付属資料 6 : 第 1 回アンケート全回答・整理データ
- 付属資料 7 : 第 2 回アンケート全回答・整理データ
- 付属資料 8 : アルumniリユニオンイベントへの招へい者リスト
- 付属資料 9 : グループ協議メモ（原文）
- 付属資料 10 : 終了後アンケートの質問詳細
- 付属資料 11 : 終了後アンケートへの回答詳細

付属資料 1

人物台帳

付属資料 2
第 1 回アンケート質問内容

アンケート第1回アンケート質問内容

(*印は必須回答項目)

1. Votre organisation actuelle et le contenu de votre travail

- 1-1. Votre nom * : (入力回答)
- 1-2. Votre adresse e-mail * : (入力回答)
- 1-3. Votre nationalité * : (入力回答)
- 1-4. À quelle organisation appartenez-vous actuellement ?*
: (選択回答) Fonctionnaire / ONG / Secteur privé ou Entreprise privée / Organisation internationale / Retraité(e), sans organisation / Autre
- 1-5. Si vous appartenez à une organisation, veuillez nous indiquer (dans la mesure du possible) le nom de votre organisation, votre profession et vos responsabilités.
: (入力回答)
- 1-6. Occupez-vous des fonctions liées au secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural ou de l'assainissement (WASH) ?*
: (選択回答) Oui. / Non.
- 1-7. Si vous êtes fonctionnaire et que vous travaillez dans le secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural ou de l'assainissement, veuillez indiquer votre organisme et votre poste.
: (入力回答)

2. État d'avancement de votre plan d'action et situation de la collaboration avec la JICA.

- 2-1. Veuillez indiquer le titre du plan d'action (AP) que vous avez élaboré lors de la formation.
(Si le titre ne vous revient pas, vous pouvez décrire le contenu des activités que vous avez planifiées.)
: (入力回答)
- 2-2. Si vous avez élaboré un nouveau plan d'action (AP) après votre retour de formation, veuillez en indiquer le titre.
: (入力回答)
- 2-3. Après votre retour au pays, avez-vous mis en œuvre votre plan d'action ?*
: (選択回答) Oui. / Non.
- 2-4. Si votre plan d'action a pu être réalisé/mis en œuvre, veuillez décrire le processus de mise en œuvre, les résultats obtenus et la situation actuelle.
Si le plan d'action n'a pas été mis en œuvre, veuillez écrire "Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre".
: (入力回答)
- 2-5. Si le plan d'action n'a pas été réalisé, veuillez en expliquer les raisons. (Plusieurs réponses possibles)
: (選択回答、Autre を選択時は自由に記載可能) Manque de compétences techniques / Manque d'informations utiles / Manque de financement / Manque de soutien institutionnel / Faiblesse organisationnelle / Manque d'équipements et de matériels / Détérioration de la situation (sécurité, etc.) / Autre.
- 2-6. La JICA souhaite maintenir des collaborations continues avec ses stagiaires après leur retour. À votre avis, quelles approches seraient nécessaires pour maintenir ces collaborations ?(Plusieurs réponses possibles)*
: (選択回答、Autre を選択時は自由に記載可能) Plateforme d'échange et de partage de connaissances / Fournir des informations qui intéressent les anciens stagiaires. / Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA. / Autre
- 2-7. Quelle est, selon vous, la nature des informations qui intéressent pour les anciens stagiaires ?
(Plusieurs réponses possibles) *
: (選択回答、Autre を選択時は自由に記載可能) Moyen d'obtention de budget / Technologies déjà existantes en Afrique / Technologies de pointe du Japon / Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement. / Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement. / Autre

- 2-8. Souhaitez-vous participer à une rencontre en ligne (webinaire, échange d'informations, réunion d'anciens participants, etc.) si nous en organisons une ?
: (入力回答)

3. État des contacts avec les anciens stagiaires des autres pays.

- 3-1. Continents-vous de rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ?*
: (選択回答) Oui. / Non.

- 3-1-1. Pour ceux qui ont répondu "Oui" à la question précédente (Je suis resté en contact avec d'anciens stagiaires) : sur quels sujets échangez-vous ?

: (選択回答、Autre を選択時は自由に記載可能)

Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène

Les défis et les réussites rencontrés dans vos projets

Les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle

De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets

Autre

- 3-2. Queles sont les raisons pour lesquelles vous continuez de rester en contact avec les stagiaires des autres pays ?
(Plusieurs réponses possibles)*

: (選択回答、Autre を選択時は自由に記載可能) Parce qu'ils ont des expériences utiles. / Parce qu'ils fournissent des informations précieuses. / En tant qu'ami. / Je ne suis pas en contact. / Autre

- 3-3. Quels outils utilisez-vous pour rester en contact ?

(Plusieurs réponses possibles)*

: (選択回答、Autre を選択時は自由に記載可能) e - mail / WhatsApp / Facebook / Instagram / X (Twitter) / Autre

Voici la fin du questionnaire. Merci de votre coopération.

以上

付属資料 3
第 2 回アンケート質問内容

第2回アンケート質問内容

Enquête de suivi auprès des anciens participants de la formation thématique pour l'Afrique de l'Ouest ((KCCP-JICA : Gestion participative de l'eau, de l'assainissement et de l'hygiène en milieu rural dans les pays africains) : 2ème questionnaire

アンケート名：JICAによる日本での課題別研修フォローアップ：第2回アンケート<アクションプランに関する追加アンケートのお願い>

Titre de l'enquête : Suivi de la formation thématique de la JICA au Japon : 2ème questionnaire Demande de questionnaire complémentaire sur le plan d'action

ご多忙の中、恐縮ですが 10月24日(金)までに、このアンケートにご回答いただけますよう、よろしくお願いいたします。

Nous sommes désolés de vous déranger en ces temps chargés, mais nous vous serions reconnaissants de bien vouloir répondre à ce questionnaire d'ici le vendredi 24 octobre.

説明文：

Description：

親愛なる参加者の皆様、

第1回目のアンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。

本アンケートは、前回のアクションプラン（AP）に関する設問で『実施した』とご回答くださった皆様を対象にお送りしております。

アクションプランを実施された皆様の貴重なご経験は、今後研修に参加される方々にとって、大変参考になる好事例となります。

そこで、皆様がどのようにアクションプラン（AP）を進められたのか、その詳細についてお伺いしたく存じます。

今回のアンケートでは、詳細な状況を把握するために多くの質問にて「回答必須」としておりますが、「わからない」あるいは「不明」の場合は、その旨をご記入ください。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、本アンケートにご協力いただけますと幸いです。

また、今回のアンケートは各セッションごとに数ページに分かれております。進行状況につきましては、「進行状況バナー」をご参照ください。

* 回答にかかる所要時間は約 20～30 分です。

Chers participants,

Nous vous remercions sincèrement d'avoir répondu à notre premier questionnaire.

Ce second questionnaire est destiné exclusivement aux participants qui ont indiqué avoir mis en œuvre leur plan d'action (PA) lors de la précédente enquête.

Votre expérience inestimable dans la mise en œuvre de votre plan d'action servira de bon pratique et de référence précieuse pour les futurs participants à la formation.

C'est pourquoi nous souhaiterions obtenir plus de détails sur la manière dont vous avez mené à bien votre plan d'action (PA).

Afin de mieux comprendre la situation, la plupart des questions de ce questionnaire sont obligatoires. Toutefois, si vous ne savez pas ou si l'information n'est pas claire, veuillez l'indiquer dans votre réponse.

Nous sommes conscients que vous êtes très chargé et nous vous serions reconnaissants de votre coopération pour répondre à ce questionnaire.

Veuillez noter que ce questionnaire est divisé en plusieurs pages par section. Vous pouvez suivre votre progression à l'aide de la « barre de progression » située en haut.

* Le temps estimé pour répondre à ce questionnaire est de 20 à 30 minutes.

【セクション 1、アンケート 1 ページ目】

・氏名を記入してください。(必須)

Veuillez indiquer votre nom et prénom complet. (Obligatoire)

・あなたの住んでいる国を教えてください。(必須)

Veuillez indiquer votre pays de résidence. (Obligatoire)

【セクション 2、アンケート 2 ページ目】

1 実践したアクションプラン (AP) の詳細について教えてください。

1 - 1 AP の実施期間を教えてください。(必須)

1 - 2 AP の対象地域・対象者を教えてください。(必須)

1 - 3 実施者 (例; 本人、上司・部下、協力機関等)、および、活動に関わったおおよその人数を教えてください。ま

た、他者からの協力を得ることができた場合、その方法についても教えてください。(必須)

1-4 APの目標について教えてください。(必須)

1-5 APの計画内容と実施内容について教えてください。(元々どのような課題があったか、AP作成の背景も含めて記載してください。)(必須)

1-6 APの成果について、おおよその受益者の人数または対象地域数について教えてください。(必須)

1-7 AP実施に要した活動費について、おおよその額を教えてください。(必須)

1-8 資金提供者がいる場合、差し支えない範囲で提供者の組織名など、おおよその獲得方法について教えてください。(必須)

1-9 実施に際して、工夫した点や大変だった点について教えてください(任意)。

1-10 APを実施して得た教訓や、今後研修に参加する方々へアドバイスがあれば教えてください。(任意)

1. Veuillez nous donner des détails sur votre plan d'action (PA) que vous avez mis en œuvre.

1-1. Veuillez nous indiquer la période de mise en œuvre de votre PA. (Obligatoire)

1-2. Veuillez nous indiquer la zone ciblée et les bénéficiaires de votre PA. (Obligatoire)

1-3. Veuillez indiquer les personnes impliquées dans la mise en œuvre (ex. : vous-même, votre supérieur, vos subordonnés, des organisations partenaires, etc.) et le nombre approximatif de personnes qui ont participé aux activités. Si vous avez bénéficié de la coopération d'autres personnes, veuillez également en préciser les modalités. (Obligatoire)

1-4. Veuillez nous décrire les objectifs de votre PA. (Obligatoire)

1-5. Veuillez nous décrire le contenu planifié et le contenu réel (réalisation) de la mise en œuvre du PA. (Veuillez également inclure la nature des défis initiaux et le contexte de la création du PA.) (Obligatoire)

1-6. Concernant les résultats de votre PA, veuillez indiquer le nombre approximatif de bénéficiaires ou le nombre de zones ciblées. (Obligatoire)

1-7. Veuillez nous donner une estimation des coûts d'activité engagés pour la mise en œuvre de votre PA. (Obligatoire)

1-8. S'il y a un bailleur de fonds (PTF) pour la mise en œuvre de votre PA, veuillez nous indiquer le nom de l'organisation et comment vous avez obtenu ce financement, si cela est possible. (Obligatoire)

1-9. Veuillez nous faire part des points créatifs ou des défis que vous avez rencontrés lors de la mise en œuvre de votre PA. (Facultatif)

1-10. Veuillez nous faire part des leçons que vous avez tirées de la mise en œuvre de votre PA et des conseils que vous pourriez donner aux futurs participants. (Facultatif)

【セクション3、アンケート3ページ目】

2 ご自身のアクションプラン（AP）とプロジェクトの連動について教えてください。

2-1 ご自身の AP を何かのプロジェクトと連動させましたか。(必須) 【選択】(Oui / Non/ わからない)

2. Veuillez nous parler du lien entre votre plan d'action (PA) et un projet existant.

2-1. Avez-vous lié votre PA à un projet existant ? (Obligatoire)

(Oui / Non / Ne sais pas)

【この質問で Oui と答えた方は自動的に以下セクション4の2-2~4の質問へ移行します。Non と答えた場合は自動的にセクション5の3の質問へ移動します。】

【セクション4、アンケート4ページ目：セクション3で Oui と答えた場合に自動で以降】

2-1の質問で「はい」と答えた方へ質問です。

2-2 連動させたプロジェクトの内容を大まかに教えてください。(必須)

2-3 APを作成する時点で、そのプロジェクトは始まっていましたか。(任意)

2-4 自身の AP として、そのプロジェクトに付加した活動があれば、具体的に教えてください。(任意)

Questions pour ceux qui ont répondu « Oui » à la question 2-1 :

2-2. Veuillez décrire brièvement le projet auquel votre PA a été lié. (Obligatoire)

2-3. Ce projet avait-il déjà commencé au moment où vous avez créé votre PA ? (Facultatif)

2-4. Si vous avez ajouté des activités spécifiques à ce projet dans le cadre de votre PA, veuillez les décrire en détail.

(Facultatif)

【セクション5、アンケート5ページ目】

3 課題別研修の内容とアクションプラン（AP）の立案・実施の関連について教えてください。

3-1 当時 AP を立案した際、特に参考になった研修プログラムを教えてください。(任意)

3-2 AP を実行した際、特に参考になった研修プログラムを教えてください。(任意)

Lien entre la formation thématique (KCCP-JICA) et le plan d'action (PA)

3. Veuillez nous expliquer du lien entre le contenu de la formation thématique (KCCP-JICA) que vous avez participé et la conception/mise en œuvre de votre plan d'action (PA).

3-1. Quel programme de formation vous a été particulièrement utile lors de la conception de votre PA ? (Facultatif)

3-2. Quel programme de formation vous a été particulièrement utile lors de la mise en œuvre de votre PA ? (Facultatif)

【セクション6、アンケート6ページ目】

4 今後の課題別研修や支援の方針の参考のために、あなたの国における国家政策の方針について、分かる範囲で教えてください。

4-1 給水分野の国家政策において、注力している給水施設の規模について教えてください。(必須)

【選択(複数選択可)】(レベル1(人力ポンプ付き井戸) / レベル2(公共水栓型管路給水施設) / レベル3(管路給水により配水され各宅内に給水栓が設置されている施設) / 不明 / その他:自由入力)

4-2 国家政策において注力する給水施設のレベルに地域差がある場合は、それらの地域を教えてください。(任意)

4-3 国家政策において給水分野と衛生分野、どちらにより注力しているか、教えてください。(必須)

【選択(複数選択可)】(給水 / 衛生 / 不明 / その他:自由入力)

4. Pour nous aider à orienter les futures formations thématiques (KCCP-JICA) et la coopération japonaise pour le développement du secteur WASH, veuillez nous décrire, dans la mesure de vos connaissances, les politiques/stratégies nationales en vigueur dans votre pays.

4-1. Quelle est le type des installations d'approvisionnement en eau sur lesquelles la politique nationale du secteur de l'eau se concentre ? (Obligatoire)

(plusieurs réponses possibles)

- Niveau 1 (Forages équipés de pompes à motricité humaine)
- Niveau 2 (Installations de distribution d'eau par canalisation avec bornes fontaines publics)
- Niveau 3 (Installations de distribution d'eau par canalisation avec blanchements particulières)
- Ne sais pas
- Autre (Veuillez préciser)

4-2. S'il existe des différences zones dans les niveaux des installations d'approvisionnement en eau sur lesquelles la politique nationale se concentre, veuillez nous indiquer ces zones. (Facultatif)

4-3. Dans les politiques nationales, sur quel sous-secteur l'accent est-il mis le plus : l'eau ou l'assainissement ? (Obligatoire)

(plusieurs réponses possibles)

- Eau
- Assainissement
- Ne sais pas

- Autre (Veuillez préciser)

本アンケートの質問は以上となります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

Ce sont toutes les questions de cette enquête. Merci beaucoup pour votre coopération.

次のページ以降に個別質問があります。

個別質問

(通し番号/リスト番号/氏名/メールアドレス/質問項目/内容)

A) 1/①/

1-5

- a. 最初のアンケート回答時に「AP は部分的に実施された」と回答いただきましたが、実施できなかったことについても、おおまかに教えてください。
- a. Lors de votre première réponse au questionnaire, vous avez indiqué que votre PA (Plan d'action) avait été "partiellement mis en œuvre". Pourriez-vous nous donner une idée générale des aspects que vous n'avez pas pu mettre en œuvre ?

B) 2/②/

1-5

- a. 最初のアンケート回答時に「部分的に実施されました」と回答いただきましたが、実施できたこと、実施できなかったことについて、具体的に教えてください。また、それぞれの理由についても教えてください。
- a. Lors de votre première réponse au questionnaire, vous avez indiqué que votre plan d'action avait été "partiellement mis en œuvre". Pourriez-vous nous donner des détails sur ce qui a pu être réalisé et sur ce qui ne l'a pas été ? Veuillez également nous en expliquer les raisons.

C) 3/③/

1-6

- a. 最初のアンケート回答時に「当初の目標であった4自治体を上回る結果となった」と回答いただきましたが、4自治体から37自治体へ大きく上回った要因について、あなたの見解を教えてください。
- b. 給水施設委託管理者（Fermier、通常は民間オペレーター会社）に管理委託したことで、管理状況がどのように変化したか教えてください。
- c. 2018年～現在に至るまで、37自治体すべてにおいて管理契約が継続していますか。また、継続できている場合、その理由についてあなたの見解を教えてください。
 - a. Lors de votre première réponse au questionnaire, vous avez indiqué que vous aviez "dépassé l'objectif initial de 4 municipalités". Pourriez-vous nous donner votre point de vue sur les facteurs qui ont permis d'atteindre 37 municipalités, soit un nombre largement supérieur à l'objectif de 4 ?
 - b. En confiant la gestion aux fermiers, comment la situation de la gestion a-t-elle évolué ?
 - c. De 2018 à aujourd'hui, les contrats d'affermage sur la gestion sont-ils toujours en cours dans l'ensemble des 37 municipalités ? Si c'est le cas, pourriez-vous nous donner votre point de vue sur les raisons de cette continuité ?

D) 4/⑥

1-6

- a. 給水施設を利用する住民への EHA に関する啓発活動実施後の利用方法の変化の有無や、影響について、あなたの評価を教えてください。
- b. 交換部品の供給業者に対して、部品の在庫確保を促す啓発活動を実施後の変化の有無や、影響について、あなたの評価を教えてください。
 - a. Veuillez nous donner votre évaluation de l'impact et des changements dans les habitudes d'utilisation des installations d'approvisionnement en eau par les habitants, suite aux activités de sensibilisation à l'EHA (Eau, Hygiène et Assainissement).
 - b. Suite à vos activités de sensibilisation pour encourager les fournisseurs à maintenir un stock de pièces de rechange, veuillez nous donner votre évaluation de l'impact et des éventuels changements qui en ont résulté.

E) 5/⑩

1-3

- a. 最初のアンケート時に回答いただいた「パートナー各社」とは具体的にどのような機関か教えてください。
 - a. Dans votre première réponse au questionnaire, vous avez mentionné "les organisations partenaires". Pourriez-vous nous dire de quelles organisations il s'agit spécifiquement ?

1-6

- a. 管理体制は活動終了後も維持されているか、教えてください。
 - a. Le système de gestion a-t-il été maintenu après la fin des activités ?

F) 9/㉓

1-3

- a. 最初のアンケート時にあなた自身の AP が「大規模な地域行動計画に組み込まれた」と回答いただきましたが、「大規模な地域行動計画」を主導していたのはどのような機関ですか。また、その計画に組み込まれた経緯について、教えてください。
 - a. Lors de votre première réponse au questionnaire, vous avez indiqué que votre propre plan d'action (PA) avait été "intégré à un plan d'action régional de grande envergure". Quelle organisation a mis en œuvre ce "plan d'action régional de grande envergure" ? Et pourriez-vous nous expliquer comment votre plan d'action y a été intégré ?

3

- a. 「大規模な地域行動計画」に組み込まれた後、あなたの AP で実施したことがあれば、教えてください。

- a. Après l'intégration dans le "plan d'action régional de grande envergure", si vous avez mis en œuvre des activités dans le cadre de votre PA, veuillez nous les décrire les détails.

G) 10/③/ [REDACTED]

1-6

- a. 最初のアンケートにて「専門的で恒久的な有給スタッフを雇用した」と回答いただきましたが、その雇用は現在も継続していますか。
- a. Dans votre première réponse au questionnaire, vous avez indiqué avoir "embauché du personnel rémunéré, spécialisé et permanent". Cet emploi se poursuit-il actuellement ?

1-8

- a. 「専門的で恒久的な有給スタッフの雇用」が継続している場合、雇用を継続するための財源について教えてください。
- a. Si le recrutement de "personnel rémunéré, spécialisé et permanent" se poursuit, veuillez nous indiquer la source de financement qui permet de maintenir ces emplois.

H) 11/③/ [REDACTED]

1-5

- a. 初回アンケートにて記載いただいた「サービスの特権」とは何ですか。
- b. 「コミュニティ主導による完全衛生化」とは、具体的にどういったものか、教えてください。(野外排泄がなくなるなど?)
- a. Que sont les "privileges de service" que vous avez mentionnés dans le premier questionnaire ?
- b. Pourriez-vous nous expliquer ce qu'est concrètement la "santé et l'hygiène complètes dirigées par la communauté" ? (Par exemple, l'élimination de la défécation en plein air ?)

1-6

- a. 現在も逆戻りせず、「完全衛生化」の状態が継続していますか？
- a. L'état de "santé et d'hygiène complètes" est-il toujours maintenu sans retour en arrière ?

I) 12/④/ [REDACTED]

1-5

- a. 最初のアンケートにて、「あるコミューンの17校で実施された」と記載がありましたが、その対象の選定はどのように決めましたか。
- a. Dans le premier questionnaire, vous avez mentionné que la mise en œuvre a eu lieu dans "17 écoles d'une certaine commune". Comment la sélection de ces écoles a-t-elle été décidée ?

J) 13/④/ [REDACTED]

1-6

- a. 最初のアンケートにて「アフェルマージュについて発表する」と記載がありましたが、紹介後、導入に至った例はありますか。
 - a. Lors du premier questionnaire, vous avez indiqué que vous alliez "faire une présentation sur l'affermage". Après cette présentation, y a-t-il eu des cas de mise en œuvre de ce modèle ?

K) 15/⑨/ [REDACTED]

1-5

- a. 最初のアンケート回答にて「飲料水をより飲みやすくする」と記載がありましたが、具体的にどういうことですか。(安全性の向上、アクセスの改善など?)
 - a. Dans votre première réponse au questionnaire, vous avez mentionné que vous rendriez "l'eau potable plus facile à boire". Pourriez-vous nous dire ce que cela signifie concrètement ? (Par exemple, l'amélioration de la sécurité, l'amélioration de l'accès, etc.)

1-6

- a. 水をろ過する技術の啓発活動を実施後、普及に成功しましたか。また、成功した場合、継続されていますか。
- b. 水系感染症のリスクについて、改善はみられましたか。
 - a. Après avoir mené des activités de sensibilisation aux techniques de filtration de l'eau, avez-vous réussi à les diffuser ? Si oui, cette diffusion est-elle toujours d'actualité ?
 - b. Avez-vous constaté une amélioration concernant le risque de maladies d'origine hydrique ?

L) 19/(69) [REDACTED]

1-6

- a. 最初のアンケートにて「ダルサラーム村の飲料水の供給状況が改善した」と回答いただきましたが、ダルサラーム村の地域住民は何人くらいですか。
- b. AP タイトルに、ダルサラーム村における活動が「パイロット事例」と記載がありますが、その後他の地域でも展開されましたか。
 - a. Lors de votre première réponse au questionnaire, vous avez indiqué que "la situation de l'approvisionnement en eau potable dans le village de Dar es Salaam s'est améliorée". Combien d'habitants compte le village de Dar es Salaam ?
 - b. Dans le titre de votre PA (Plan d'action), il est mentionné que l'activité dans le village de Dar es Salaam est un "projet pilote". A-t-elle été déployée dans d'autres régions par la suite ?

付属資料 4 面会者リスト

面会者リスト（現地調査）

氏名	所属先
[Redacted Content]	

付属資料 5
現地調査日程

現地調査日程（第1回目、2回目）

第1回目現地調査

日時	目的	宿泊先
2025年10月19日（日）	出国	機内
2025年10月20日（月）	ダカール着	ダカール
2025年10月21日（火）	JICA表敬、OFOR表敬	ダカール
2025年10月22日（水）	ヤマハ打合せ、帰国研修生協議	ダカール
2025年10月23日（木）	リクシル打合せ、帰国研修生協議	ダカール
2025年10月24日（金）	日本大使館草の根担当と協議 、帰国研修生協議	ダカール
2025年10月25日（土）	サンレイへ移動	サンレイ
2025年10月26日（日）	ヤマハサイト視察、ダカールへ移動	ダカール
2025年10月27日（月）	水衛生省表敬。帰国研修生協議	ダカール
2025年10月28日（火）	ティエス会場視察、セネガル出国	機内
2025年10月29日（水）	移動	機内
2025年10月30日（木）	日本帰国	

第2回目現地調査：

2025年12月10日（水）	出国	機内
2025年12月11日（木）	ダカール着	ダカール
2025年12月12日（金）	JICA表敬、OFORでリユニオンイベントにかかる協議	ダカール
2025年12月13日（土）	ティエスへ移動、会場設定準備	ティエス
2025年12月14日（日）	帰国研修生受け入れ、リユニオンイベント準備	ティエス
2025年12月15日（月）	リユニオンイベント開催	ティエス
2025年12月16日（火）	リユニオンイベント開催	ティエス
2025年12月17日（水）	帰国研修生出国、ダカールへ移動	ダカール
2025年12月18日（木）	OFOR表敬、出国	ダカール
2025年12月19日（金）	移動	
2025年12月20日（土）	帰国	

付属資料 6

第 1 回アンケート全回答・整理データ

No.	国名	1-1. Votre nom	1-2. Votre adresse e-mail	性別	年齢 2024年現在 の年齢(歳)	1-3. Votre profession	1-4. Quelle organisation représentez-vous actuellement ?	1-5. Si vous appartenez à une organisation, veuillez nous indiquer (dans la mesure du possible) le nom de votre organisation, votre profession et vos responsabilités.	1-6. Dressez-vous des fonctions liées au secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural ou de l'assainissement ?	1-7. Si vous êtes fonctionnaire et que vous travaillez dans le secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural ou de l'assainissement, veuillez indiquer votre organisme et votre poste.	1-8. Veuillez indiquer la date du plan d'action (AP) que vous avez élaboré lors de la formation. (Si la date ne vous revient pas, nous pouvons décrire le contenu des activités que vous avez planifiées.)	1-9. Si vous avez élaboré un nouveau plan d'action (AP) après votre retour de formation, veuillez indiquer la date.	2-1. Après votre retour au pays, avez-vous mis en œuvre votre plan d'action ?	2-2. Si votre plan d'action n'a pas été réalisé, veuillez décrire le processus de mise en œuvre, les défis rencontrés et la situation actuelle. (Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre, veuillez le décrire.)	2-3. Si le plan d'action n'a pas été réalisé, veuillez expliquer les raisons. (Plusieurs réponses possibles)	2-4. Le JICA souhaite maintenir des collaborations continues avec ses stagiaires après leur retour. À votre avis, quelles activités seraient nécessaires pour maintenir ces collaborations ? (Plusieurs réponses possibles)	2-5. Quelles est, selon vous, la nature des informations qui intéressent le plus les anciens stagiaires ? (Plusieurs réponses possibles)	2-6. Veuillez-vous participer à une rencontre en ligne technique, échange d'informations, réunion d'anciens stagiaires, etc.) si vous en avez l'opportunité ?	2-7. Contentez-vous de rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ?	2-8. Pour ceux qui ont répondu "Oui" à la question précédente (la soit resté en contact avec d'anciens stagiaires) : sur quels sujets échangez-vous ? (Plusieurs réponses possibles)	2-9. Quels sont les raisons pour lesquelles vous préférez de rester en contact avec les stagiaires des autres pays ? (Plusieurs réponses possibles)	2-10. Quels outils utilisez-vous pour rester en contact ? (Plusieurs réponses possibles)
19	2015											Non	Tout le plan	Manque de financement, Manque de soutien institutionnel, Faiblesse organisationnelle, mise en œuvre à 60% depuis après un renforcement ministériel		Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non		Je ne suis pas en contact.	e-mail	
20	2016											Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre.	Manque de soutien institutionnel	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Parce qu'ils ont des expériences utiles, Parce qu'ils fournissent des informations précieuses, En tant qu'am.	e-mail, WhatsApp, Facebook	
21	2020											Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement, Manque d'équipements et de matériels	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle.	e-mail, WhatsApp	
22	2017											Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement, Manque de soutien institutionnel	Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle.	e-mail, WhatsApp, Facebook	
23	2019											Oui	Notre plan d'action a été repris dans un large plan d'action régional de réparation de toutes les pompes manuelles de pannes dans les 7 communes de la région des savanes au début principalement en service en 2020 et de la mise en stock de pièces de rechange.		Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Parce qu'ils ont des expériences utiles, Parce qu'ils fournissent des informations précieuses, En tant qu'am.	WhatsApp	
24	2019											Non	Élaboration d'une stratégie de mise en œuvre de la gestion des PPM axée sur la mutualisation	Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle, De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets.	WhatsApp	
25	2016											Non	Formation des femmes dans la maintenance et la réparation des points d'eau.	Manque d'informations utiles, Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement, Mobilisation financière et appui aux institutions	Non	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle.	e-mail, WhatsApp, Facebook	
26	2016												Men thème de la formation portant sur "l'administration des services précoces et village péri-urbains de la ville d'Alger et des villes de l'intérieur" Aider l'Etat Chef du Projet : mon plan d'action porte sur le projet "Système" PROJET DE CONTRÔLE, DE GESTION INCLUSIVE ET DE RACCORDEMENT EN EAU POTABLE DES QUARTIERS PRÉCAIRES ET VILLAGES PÉRI-URBAINS (DISTANTS DE 15 KM DES VILLES ET COMMUNES DE COTE OUVRIÈRE).			Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets.	e-mail, WhatsApp
27	2014												Amélioration de la qualité de service d'eau potable dans la commune rurale Babouatna, Région M'El Djazair		Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle.	WhatsApp, Facebook	
28	2020												L'absence de la formation, un plan d'action sera mis en œuvre pour permettre à court et à long terme d'améliorer la gestion des ouvrages hydrauliques dans la Province de la Saïla et portant dans la Région du Centre-Ouest		Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des informations qui intéressent les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA, Pour de futures améliorations de capacités dans le phase pratique	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle, De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets.	e-mail, WhatsApp, Facebook	
29	2025											Non	Le plan d'action a été approuvé par la Direction Générale et sera mis en œuvre à partir de 2027		Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle	WhatsApp	
30	2024											Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre.	Manque de financement, Manque d'équipements et de matériels	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des informations qui intéressent les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle.	WhatsApp	
31	2022											Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque d'informations utiles, Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des informations qui intéressent les anciens stagiaires.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non		Je ne suis pas en contact.	WhatsApp	
32	2016											Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle, De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets.	e-mail, WhatsApp, Facebook, Contact téléphonique	
33	2007											Oui	La professionnalisation du Service Public de l'eau potable et Assainissement	Manque de compétences techniques, Manque d'informations utiles, Manque de financement, Manque d'équipements et de matériels, Manque d'expertise locale, On devrait faire recours aux consultants internationaux	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des informations qui intéressent les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA, Organisation des stages de recyclage en appui des stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA, D'organiser des ateliers de travail de suivi de l'assainissement à court.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle, De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets, Le système de planification de nos pays en moyen d'urgence	e-mail, WhatsApp	
34	2019											Non	Amélioration du système de gestion de service public de l'eau en milieu rural dans la région de Centre-Ouest/ Définition et mise en place d'un dispositif régional de suivi des contrats de gestion par affranchissement des ASP/SEA		Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'établissement de budget, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, Les activités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle, De possibles collaborations futures ou de nouveaux projets.	WhatsApp
35	2022											Non	Élaboration d'une base de données exhaustive des ouvrages réalisés dans les 22 villages encadrés par l'ONG pour réguler les problèmes et sur les défis		Manque de financement, Manque de soutien institutionnel	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des informations qui intéressent les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'établissement de budget, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'approvisionnement en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui		Parce qu'ils ont des expériences utiles, Parce qu'ils fournissent des informations précieuses, En tant qu'am, Je ne suis pas en contact.	e-mail, WhatsApp, Facebook

No.	国名	1-1. Votre nom	1-2. Votre adresse e-mail	性別	年齢 2024年現在 20-29歳 30-39歳 40-49歳 50-59歳 60-69歳 70-79歳 80歳以上	1-3. Votre profession	1-4. Quelle organisation appartenez-vous actuellement ?	1-5. Si vous appartenez à une organisation, veuillez nous indiquer (dans la mesure du possible) le nom de votre organisation, votre profession et vos responsabilités.	1-6. Connaissez-vous des personnes travaillant dans le secteur de l'appropriation en eau en milieu rural ou de l'assainissement (WASH) ?	1-7. Si vous êtes fonctionnaire et que vous travaillez dans le secteur de l'appropriation en eau en milieu rural ou de l'assainissement, veuillez indiquer votre organisme et votre poste.	1-8. Veuillez indiquer la date du plan d'action (AP) que vous avez élaboré lors de la formation. Si le plan n'a pas été mis en œuvre, veuillez décrire le contenu des activités que vous avez planifiées.	1-9. Si vous avez élaboré un nouveau plan d'action (AP) après votre retour de formation, indiquez le nom de votre organisme et votre poste.	1-10. Après votre retour en pays, avez-vous mis en œuvre votre plan d'action ?	1-11. Si le plan d'action a été élaboré en tenant compte des prérogatives de service et des moyens mis à la disposition. Le plan d'action a-t-il été mis en œuvre, veuillez décrire le processus de mise en œuvre, les défis rencontrés et la situation actuelle.	1-12. Si le plan d'action n'a pas été mis en œuvre, veuillez décrire "Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre" (Plusieurs réponses possibles)	1-13. Le JICA souhaite maintenir des collaborations continues avec ses stagiaires après leur retour. À votre avis, quelles approches seraient nécessaires pour maintenir ces collaborations ? (Plusieurs réponses possibles)	1-14. Quelle est, selon vous, la nature des informations les plus intéressantes pour les anciens stagiaires japonais ? (Plusieurs réponses possibles)	1-15. Souhaiteriez-vous participer à une rencontre en ligne technique, échange d'informations, réunion d'anciens stagiaires, etc.) si nous en organisons une ?	1-16. Commentaires vous de rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ?	1-17. Pour ceux qui ont répondu "Oui" à la question précédente (la suite restera en contact avec d'anciens stagiaires) : sur quels sujets souhaitez-vous échanger ? (Plusieurs réponses possibles)	1-18. Quels sont les raisons pour lesquelles vous préférez de rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ? (Plusieurs réponses possibles)	1-19. Quels outils utilisez-vous pour rester en contact ? (Plusieurs réponses possibles)
36	2023										réhabilitation et régularisation des ouvrages d'assainissement dans la région du Centre-Sud du Burkina Faso		Oui	Le plan d'action a été élaboré en tenant compte des prérogatives de service et des moyens mis à la disposition. Le plan d'action a-t-il été mis en œuvre, veuillez décrire le processus de mise en œuvre, les défis rencontrés et la situation actuelle.	Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Moyen d'obtention de budget, Technologies clés existantes en Afrique, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui	Je souhaite rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ?	Parce qu'ils ont des expériences utiles. En tant qu'em	e-mail, WhatsApp	
37	2025										PLAN D'ACTION POUR UN ACCES SECURISE A L'EAU POTABLE DES POPULATIONS DES ZONES DEPLACES ET LA CASAMANCE		Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre. Mais va être présenté bientôt	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA, Implémenter des ateliers de planification des projets financés par la JICA dans le pays	Moyen d'obtention de budget, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement, Partager le dépôt de projet pour financement	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les défis et les résultats rencontrés dans vos projets. Les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle. Des possibilités de collaborations futures ou de nouveaux projets	Parce qu'ils ont des expériences utiles. Parce qu'ils fournissent des informations précieuses.	WhatsApp	
38	2023										Mise en d'un système de gestion de l'eau	Amélioration de la gouvernance de l'eau en milieu rural	Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'obtention de budget, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle. Des possibilités de collaborations futures ou de nouveaux projets	Parce qu'ils ont des expériences utiles. Parce qu'ils fournissent des informations précieuses.	e-mail, WhatsApp
39	2020												Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Le plan d'action que nous avions prévu d'élaborer n'a pas abouti car notre stage au Japon n'a pas eu lieu du fait de la pandémie COVID-19. Seulement une formation en ligne avec des experts pour nous, si nos leaders étaient de passer à effectuer un stage au Japon pour compléter une formation	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'obtention de budget, Technologies clés existantes en Afrique, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle. Des possibilités de collaborations futures ou de nouveaux projets	Parce qu'ils ont des expériences utiles. Parce qu'ils fournissent des informations précieuses.	Accès
40	2009												Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de soutien institutionnel, Faiblesse organisationnelle	Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non			e-mail	
41	2024										Le Plan d'action Amélioration des conditions d'hygiène des appartements et de la qualité des services dans les établissements scolaires		Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires, mettre en place un programme axé sur le soutien technique de l'assainissement en matière de gestion et d'appropriation en eau potable	Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement, transfert de connaissances technologiques dans la gestion et l'appropriation en eau potable	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle, suite d'un stage	Parce qu'ils ont des expériences utiles. En tant qu'em	WhatsApp, Facebook
42	2022										Assainissement total piloté par les écoles (ATPE)	Notre promotion n'a pas affecté le voyage. La formation était en ligne.	Oui	Le plan d'action a été mis en œuvre dans 17 écoles dans une commune de la région du centre-est. La mise en œuvre du plan d'action n'a pas été financée par l'Etat.	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA. Assés en contact régulier le voyage des promotions qui n'ont pas pu l'effectuer.	Moyen d'obtention de budget, Technologies clés existantes en Afrique, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non			e-mail, WhatsApp	
43	2022										La gestion des ouvrages hydrauliques en milieu rural	Nous avons commencé à répertorier les ouvrages (SENS, PEA) dans la province de la Lomé avec les mises de gestion de ces ouvrages. Tenir un atelier avec les représentants des communes pour présenter les différents modes de gestion des ouvrages hydrauliques et le mode de gestion recommandé qui est l'effacement. Mise à la disposition des communes des contrats type d'effacement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Moyen d'obtention de budget, Technologies clés existantes en Afrique, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non			e-mail, WhatsApp			
44	2019										Mis plan d'action portant l'amélioration du dispositif de gestion de l'eau potable en milieu rural	Je n'ai élaboré un nouveau plan d'action	Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement, Faiblesse organisationnelle, Man plan d'action portant sur la gestion de l'eau potable, et l'état de l'état de service Assainissement de la région, j'ai rencontré des difficultés pour évaluer les activités avec les services appropriement en eau potable qui était le porteur de l'activité. En plus j'ai été affecté en février 2022, donc je n'ai plus de perspective pour la mise en œuvre de mon plan d'action.	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires.	Moyen d'obtention de budget, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle	Parce qu'ils fournissent des informations précieuses. En tant qu'em	WhatsApp, Facebook
45	2016										Projet de développement du service public de l'eau par le renforcement de la maintenance des systèmes d'arrosage en eau potable de la région de Karim		Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement, Manque de soutien institutionnel	Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène	Parce qu'ils ont des expériences utiles. En tant qu'em	e-mail, WhatsApp
46	2019										AMLIORATION DU SERVICE PUBLIC DE L'EAU DANS LE VILLAGE DE BENO YOURE		Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Moyen d'obtention de budget, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les actualités dans vos pays respectifs ou la situation professionnelle. Des possibilités de collaborations futures ou de nouveaux projets	Parce qu'ils ont des expériences utiles. Parce qu'ils fournissent des informations précieuses. En tant qu'em	e-mail, WhatsApp, Facebook
47	2025										Amélioration de la gestion des services d'eau, d'hygiène et d'assainissement dans les écoles en vue d'une amélioration des services : Cas de la commune de Ferkessidougou		Non	Le plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement, Faiblesse organisationnelle	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement, Opportunités de Co-création de compétences / de collaboration sur des projets / de financement et de collaboration	Oui	Oui	Je souhaite rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ?	Parce qu'ils ont des expériences utiles. Parce qu'ils fournissent des informations précieuses. En tant qu'em	e-mail, WhatsApp	
48	2009										Installation en eau potable et assainissement de 02 (deux) villages ruraux de la zone de Dandja, cercle de Yatunko, Région de Tambouctou	Programme d'urgence sociale d'accès à l'eau potable. Réalisation de 42 unités d'hygiène villageoise sans toilettes (SHVA) dans les quartiers de Bamako et environnements (PCA)	Oui	Des missions de supervision des travaux ont été réalisées. Des réunions de chantier ont été tenues dans le cadre du suivi et de l'évaluation des travaux suivant les règles de l'art. La réalisation des SHVA a permis d'améliorer les conditions d'assainissement en eau potable à 54 000 habitants au niveau des quartiers périphériques de Bamako et environnements. Le montant versé dans le compte du projet est de 1 774 000 000 FCF et a servi pour la réalisation de 40 SHVA et acquisition de 02 véhicules PCC KUP	Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement.	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène	Parce qu'ils fournissent des informations précieuses.	e-mail	
49	2012										Amélioration de la qualité de l'eau dans les mangroves / R gion de l'Atacora Central		Oui	Le plan d'action a été mis en œuvre. L'Etat agit à la Direction en charge de l'eau et d'assainissement au Plateau Central et j'ai eu à mener des actions de sensibilisation auprès des ménages sur les techniques de filtration de l'eau de surface pour le rendre plus potable et réduire les risques de maladie hydrique	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires.	Moyen d'obtention de budget, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non	Je ne suis pas en contact.	Facebook		
50	2014										Titre : Planification du réseau d'eau potable en milieu rural (cas de Mikala II (Novembre 2014)	vacance	Non	En réalité, le plan d'action était partiellement mis en œuvre.	Manque de financement, Faiblesse organisationnelle, Impression des ouvrages et répétition des pannes.	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires.	Technologies clés existantes en Afrique, Technologies de pointe du Japon, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Non			e-mail
51	2007										Installation des deux unités domestiques de la potabilisation de Bamako pour un mariage durable et sécurisé	Plan d'action élaboré	Non	PS non réalisé	Manque de compétences techniques, Manque de financement	Plateforme d'échange et de partage de connaissances	Technologies de pointe du Japon	Oui	Oui	Je souhaite rester en contact avec les anciens stagiaires des autres pays ?	Parce qu'ils ont des expériences utiles. Parce qu'ils fournissent des informations précieuses. En tant qu'em	WhatsApp
52	2022										AMLIORATION DE LA GESTION DE L'EAU POTABLE EN MILIEU RURAL. Cas de la région de Ouahg		Non	Nous plan d'action n'a été mis en œuvre à cause de contraintes administratives	Manque de financement, Manque de soutien institutionnel, Manque d'investissement et de matériel	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Fournir des informations qui ont été reçues les anciens stagiaires.	Moyen d'obtention de budget, Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement.	Oui	Non			e-mail, WhatsApp, X (Twitter)
53	2009												Non	Plan d'action n'a pas été mis en œuvre	Manque de financement, Manque de soutien institutionnel	Plateforme d'échange et de partage de connaissances, Établir des contacts continus et des séances de questions-réponses avec la JICA.	Technologies de pointe du Japon, Politiques du secteur de l'appropriation en eau en milieu rural et de l'assainissement, Bonnes pratiques en matière de gestion de l'appropriation en eau en milieu rural et de promotion de l'assainissement.	Oui	Oui	Le partage d'informations techniques ou de bonnes pratiques liées à l'eau et à l'hygiène, les défis et les résultats rencontrés dans vos projets	Parce qu'ils ont des expériences utiles. En tant qu'em	e-mail, WhatsApp, Facebook

第1回アンケート（表まとめ）

表 -1

	全体	男	女
受講者数	198	152	46
受講者全体に対する比率		77%	23%
送付者数	143	107	36
送付者全体に対する比率		75%	25%
回答者数	73	58	15
回答者全体に対する比率		79%	21%
AP実施者数	21	16	5
回答者数に対する比率	29%		
AP実施者に対する比率		76%	24%

表 -2

回答者年度	人数	参加年度別回答率
2007	4	40.0%
2008	0	0.0%
2009	4	33.3%
2010	1	9.1%
2011	0	0.0%
2012	3	20.0%
2013	2	16.7%
2014	4	33.3%
2015	3	23.1%
2016	8	61.5%
2017	3	30.0%
2018	1	14.3%
2019	8	72.7%
2020	5	83.3%
2021	3	50.0%
2022	7	63.6%
2023	2	40.0%
2024	9	100.0%
2025	6	100.0%
合計	73	

表 -3

回答国	回答数	AP 実施 人数	課題別研修参加人数 (07~25年度)	回答数/参加人数	(参考) 16年度以降、課題別 研修参加人数
マリ	9	2	16	56%	8
ブルキナファソ	25	11	42	60%	21
ニジェール	5	0	16	31%	6
ギニア	3	1	6	50%	6
チャド	2	0	10	20%	4
マダガスカル	3	1	6	50%	2
セネガル	6	0	22	27%	11
トーゴ	4	1	8	50%	3
コートジボワール	8	1	15	53%	11
中央アフリカ共和国	1	0	1	100%	1
ブルンジ	1	1	1	100%	0
コンゴ民主共和国	2	1	12	17%	0
ジブチ	3	1	10	30%	4
ベナン	1	1	10	10%	5
合計	73	21	175		74

表 -4

2-5.行動計画が実施されなかった場合、その理由を説明してください。(複数回答可)			
1	資金不足	43	59%
2	技術力(専門技能)の不足	3	4%
3	設備および資機材の不足	12	16%
4	制度的・組織的支援の不足	19	26%
5	有益な情報の不足	5	7%
6	組織体制の脆弱さ(組織力の弱さ)	9	12%
7	(治安等)情勢の悪化	4	5%
9	その他	7	10%
0	回答なし又は質問の趣旨とずれるためノーカウント	24	33%
その他の具体例			
	制度変更 / 組織改編 (ブルキナファソ)		
	閣僚交代 (内閣改造) に伴う組織改編により、私たちの組織は解散されました。(コートジボワール)		
	私のアクションプランは飲料水管理に関するものでしたが、当時、私は地域の衛生 (アサニテーション) 部門の責任者でした。そのため、活動の主体である飲料水供給部門との調整や活動の実施に困難を感じていました。さらに、2022年2月に異動となったため、私のアクションプランを実施する見通しが立たなくなってしまいました。(ブルキナファソ)		
	施設管理への不当な介入、および故障の頻発 (コンゴ民主共和国)		
	アビジャンへの昇進異動、およびヤムスクロでの専門修士課程 (プロフェッショナル・マスター) への入学が決まりました		
	1. 大臣が予算にこの活動を盛り込んでいませんでした。 2. 省が2つに分割されました。「水・衛生」と「環境・水産」です。私は「環境・水産」の方に留まることになりました。 (APは「人間と家畜の消費のための飲料水掘削井戸の建設」)(チャド)		

表 -5

2-6. JICA は、帰国した研修員との継続的な連携を維持したいと考えています。どのようなアプローチが必要と考えますか。 (複数回答可)			
1	知識交換・共有プラットフォーム	69	95%
2	帰国研修員が関心を持つ情報の提供	38	52%
3	JICA との継続的な連絡窓口の確立および質疑応答セッションの実施	44	60%
9	その他	16	22%
<p>特にモニタリング（監視）、マネジメント（管理）、災害対応、気候変動へのレジリエンス（強靱性）、および EHA（水・衛生・衛生習慣）分野の資金調達といった枠組みにおいて、帰国研修員が日本で EHA 分野の研修に参加できるようにすること。</p> <p>彼ら（帰国研修員）の母国で、交流の場を設けること</p> <p>研修員を、現地または日本国内で開催される JICA の他のイベントに参加させること</p> <p>研修員に対し、「日本政府奨学金経験者の同窓会組織（Amicale des anciens bénéficiaires de bourses japonaises）」への加入を促し、継続的に活動するよう奨励すること。</p> <p>将来の実践的な段階（実務フェーズ）に向けた、能力強化のために</p> <p>最新の知識を得るために、日本での再研修（リフレッシュ研修）を実施すること</p> <p>当該セクターの全ての関係者に対する能力向上（レベルアップ）</p> <p>JICA がその国で資金提供するプロジェクトの実施に、帰国研修員を関与させること</p> <p>研修員のキャリアプランに合わせた、個別の能力強化ニーズに対応するプログラムを導入すること</p> <p>また、参加できなかった研修修了者（期）のために、どのように旅行を企画できるか検討すること</p> <p>研修後の個別化されたフォローアップ（個別支援）を保証すること</p> <p>統合型プロジェクトにおける連携機会を創出すること</p> <p>複数の国のアクションプランの連携・情報交換を促進すること</p> <p>可能であれば、アフリカの国で対面式の知識共有研修（トレーニング）を実施すること</p> <p>年 2 回、オンライン会議を立ち上げること</p> <p>組織管理および水質モニタリング（監視・追跡）のための能力強化を目的とした、日本での追加の研修</p> <p>日本企業による JICA プロジェクトの実施形態をとり、研修員をプロジェクト・マネージャー（プロジェクト責任者）として、研修員のプロジェクトを直接支援すること</p>			

表 -6

2-7. 帰国研修員にとって関心のある情報の性質とは何ですか？（複数回答可）			
1	資金調達的手段	54	74%
2	農村部の水供給と衛生分野の政策	42	58%
3	農村部における水供給管理と衛生推進に関する優良事例	60	82%
4	日本の最先端技術	54	74%
5	アフリカに既に存在する技術	28	38%
9	その他	8	11%
水（ウォーター）分野における博士論文のための奨学金探し 帰国研修員が日本で EHA（水・衛生）分野の研修を受講できるようにすること。特に、モニタリング（追跡調査）、マネジメント、災害対応、気候変動に対する強靱性（レジリエンス）、EHA 分野の資金調達といった枠組みでの研修を可能にすること 資金動員と組織（機関）への支援 水道・衛生サービス管理システムが成功を収めているセクターの様々なパートナーとの交流ワークショップ 資金援助を求めるプロジェクトの申請を許可すること 飲料水供給と管理における技術的スキルの移転 能力の共創（Co-creation）の機会 / プロジェクトにおける連携の機会 / 資金調達と共同作業の機会 水質モニタリング			

表 -7

2-8. オンラインで交流（ウェビナー、情報交換会、同窓会など）を企画した場合、参加したいですか？		回答率
Oui	70	96%
Non	3	4%

表 -8

3-1. あなたは、他の国の元研修員たちと連絡を取り続けていますか？		回答率
Oui	58	79%
Non	15	21%

表 -9

3-1-1. 前の質問（元研修員と連絡を取り続けている）に『はい』と答えた方へ： どのような話題について情報交換をしていますか？（複数回答可）		
1	水と衛生に関する技術情報やグッドプラクティス（優良事例）の共有	46 63%
2	プロジェクトで直面した課題や成功事例	23 32%
3	各国における最新状況や、皆様の仕事上の近況	40 55%
4	将来的な連携の可能性や、新規プロジェクトについて	30 41%
9	その他	6 8%
個人的な話題 / プライベートな事柄		
自国における揚水設備（給水設備）の供給体制		
冠婚葬祭や社交に関する話題（挨拶・お祝い事など）		
現時点での単発的な連絡 / 必要に応じた一時的な連絡		
現時点では、単なる挨拶（のみのやり取り）に留まっている		
他国へ出張や渡航をする際、研修同窓生同士で頻繁に会おうと試みてはいるが、滞在期間が短かったり、都市間の距離が離れていたりするため、実際に会うのは必ずしも容易ではない。		

表 -10

3-2. 他の国の研修員たちと連絡を取り続ける理由は何ですか？（複数回答可）		
1	役立つ経験を持っているから	49 67%
2	貴重な情報を提供してくれるから	39 53%
3	友人として	48 66%
9	その他	4 5%
私たちは兄弟のような絆を築きました。私たち研修員（このプログラムの第一期生でした）は、非常に頻繁に情報交換を行う WhatsApp グループを作成しました。また、大規模な国際会議などで実際に会うこともあります。		
ブルキナファソの AEP（水供給）政策文書を、他の研修員と共有すること		
持続可能な水道サービス管理システムについて最新の情報を得るため、また、計画されている可能性のあるプロジェクトに資金提供できる技術および資金提供パートナーに関する知識を得るため		
経験と機会の共有		

表 -11

3-3. 連絡を取り合うために、どのようなツールを使用していますか？（複数回答可）		
1	e - mail	37 51%
2	WhatsApp	59 81%
3	Facebook	20 27%
4	特になし	3 4%
9	その他	3 4%

付属資料 7
第 2 回アンケート全回答・整理データ

第2回アンケート結果（表まとめ）

表 -1

【第2回アンケート対象者】国別人数 / 男女比(人数)		
国名	人数	男/女
ブルキナファソ	11	8/3
マリ	2	2/0
ギニア	1	1/0
マダガスカル	1	0/1
コートジボワール	1	1/0
ベナン	1	1/0
トーゴ	1	1/0
ブルンジ	1	0/1
ジブチ	1	1/0
コンゴ民主共和国	1	1/0
合計	21	16/5

表 -2

【第2回アンケート対象者】研修年度別人数	
研修年度	人数
2007	2
2008	0
2009	2
2010	0
2011	0
2012	1
2013	1
2014	2
2015	1
2016	2
2017	1
2018	0
2019	1
2020	1
2021	1
2022	4
2023	0
2024	2
合計	21

表 -3

【第2回アンケート回答者】 国別人数 / 男女比 / 国別回答率		
国別人数 [男女比(人数)]		回答率
ブルキナファソ	9 [6/3]	82%
マリ	0	0%
ギニア	1 [1/0]	100%
マダガスカル	1 [0/1]	100%
コートジボワール	1 [1/0]	100%
ベナン	0	0%
トーゴ	1 [1/0]	100%
ブルンジ	0	0%
ジブチ	0	0%
コンゴ民主共和国	0	0%
合計	13 [9/4]	62%

表 -4

【第2回アンケート回答者】男女別 人数 / 女性比				
	総数	男	女	女性比
対象者	21	16	5	24%
回答者	13	9	4	31%

表 -5

【第2回アンケート回答者】一覧					
通し番号	個別質問記号	氏名	参加年度	性別	国
1	B		2021		ブルキナファソ
2	D		2017		ギニア
3	E		2007		マダガスカル
4	E		2024		コートジボワール
5	E		2014		ブルキナファソ
6	F		2019		トーゴ
7	I		2022		ブルキナファソ
8	J		2022		ブルキナファソ
9	K		2022		ブルキナファソ
10	E		2020		ブルキナファソ
11	L		2012		ブルキナファソ
12			2009		ブルキナファソ
13	E		2024		ブルキナファソ

表 -6

研修参加後、AP 実施（開始）までの年数とその割合（AP 実施中含む）				
	実数	割合	うち、プロジェクトとの連動あり	実施時期別、「プロジェクトとの連動あり」の割合
1年以内	2	15%	0	0%
1年後	5	38%	5	100%
2年後	3	23%	3	100%
3～4年後	0	0%	/	/
5年後以降	2	15%	1	50%
不明	1	8%	1	100%
合計	13			

表 -7

プロジェクトとの連動の有無	実数	割合
あり	10	77%
なし	3	23%
回答数	13	100%

表 -8

工夫点/大変だった点	
1	主な課題は、職員の機動性（移動手段）、そして**財源（資金）**だと申し上げたいと思います。アクションプランが一度策定されると、それを実施に移すのは非常に困難です。
2	オレンジ・マネーによる支払い (Orange Money は、アフリカや中東などで広く利用されている、携帯電話を使ったモバイル送金・決済サービス。)
3	水利局の職員として、私はこの活動をうまく進める機会を得ましたが、コミューン（地方自治体）レベルの責任者に水道網の持続可能性の重要性を認識させることは、依然として困難でした。
4	資金の利用可能化（提供）における遅さ/緩慢さ
5	主要な課題（挑戦）は以下の通りでした： 1- 「ブルキナファソ農村部における飲料水公共サービス管理の枠組み文書」と称される、新しい施設管理のレファレンシャル（基準/指針）の精緻化（作成） 2- 県ごとの維持管理者（複数）の協会の創設 3- イペルセとゼッコのコミューン（自治体）における AUE（水利用者協会）の設置 4- 維持管理者（複数）の技術研修 5- 市長（複数）、事務局長（複数）、および市役所の会計担当者（複数）の研修 6- コミューン（自治体）のアクター（関係者）による行動計画の年間評価の精緻化（作成）
6	資金調達、受益者に対する教育・啓発活動の側面を考慮していなかった
7	創造的な点としては、慣習的な権威者、地方、県、コミューン（地方自治体）の当局を巻き込んで彼らの支援を得たこと、そして教師のコミットメントを得たことです。 また、衛生的な月経管理の部分は、意識を目覚めさせ、タブーの考えを一切取り除き、生徒の保護者の支援を求める必要があったため、真に革新的な取り組みでした。 最も力を入れたのは、『クリーン・スクール・コンテスト』の創設で、これが生徒たちを非常に奮起させました。
8	受託運営者（ファームエ）の監視を確実にを行うための、市役所（コミューン）における有資格職員の不足
9	主要な課題は、現場での活動による成果を実際に評価したり測定したりすることができたかどうかでした
10	—
11	創造的な点、あるいは課題は、アクションプランの活動を、県局チームの全体的な活動に組み込むことに成功したことです。例えば、現地での啓発活動のために出張がある際、私は職員にアクションプランのテーマに関連する啓発活動を組み込むように依頼しました。
12	公共飲料水サービス管理の制度的・組織的枠組みの強化 システム実施に関わる関係者のプロフェッショナルリズムのレベル向上 公共飲料水サービスのグッドガバナンス（良き統治）の促進
13	その主要な課題（挑戦）は、あまり知られていなかった KAIZEN アプローチの統合でした。

表 -9

得た教訓/今後の研修生へのアドバイス	
1	私なら、真の『実行力』を持てるようなアクションプランを準備することを勧めます。つまり、活動を実施できる組織であるか、あるいは必要な支援を得るための手段を持っているか、のどちらかです。
2	実行可能で実現性の高いアクションプラン（PA）を作成するとともに、そのPAに容易に資金提供してくれる技術・資金パートナー（PTF）を事前に確保すること
3	特定の分野でより多くの経験を積むためには、他国との交流を行うことは本当に重要です。この交流のおかげで、私はその分野の発展に貢献するために必要な能力を身につけることができました。
4	PAと、国家または地方自治体のビジョンとの間に、一貫性が必要です。
5	学ばれた教訓として： 1- 枠組み文書の最終決定前の、その実施における実践的かつ実験的な段階 2- コミューン（自治体）の責任者（複数）の関与が、明白な（目に見える）成果の達成を可能にする 3- 活動の実施における国家の地方分権化された技術サービス（部署）の関与が、一般的にスケジュールと財政に縛られている請負業者/調査会社とは異なり、より良い実践を可能にした 4- すべてのポンプのブランドに関する維持管理者（複数）の技術研修が、彼らの熟練度を高め、PMH（手押しポンプ）の質の高い修理を可能にした 5- コミューン全体を集めたアトリエ（ワークショップ）での行動計画の評価が、それらの間での競争を可能にした。なぜなら、どのコミュニティも自らの行動計画の実施において「最下位」として挙げられることを望まないという点において
6	物質的な活動（ハード面の整備）は最も重要であるが、社会的な実施管理（ソフト面の管理）も軽視されてはならない
7	得られた教訓は、当局が初期の段階から関与すれば、すでに成功の可能性が50%以上になるということです。プロジェクトを成功させたいなら、権威者たちを巻き込みなさい。特に社会的なプロジェクトであれば、伝統的な権威者（慣習的な権威者）は、その実施の成功または失敗を左右する決定的な手段（レバー）となるからです。
8	コミュニティ（地方自治体）による施設（オーヴラージュ）の非主体的な管理（または、コミュニティによる施設管理の不徹底）があり、一部の地域では、第三者が自分の都合の良いように施設を管理していました
9	今後の研修参加者は、アクションプランの承認と主体的な活用に、自国の政策決定者をより一層巻き込むべきであり、かつ、構造的なミニプロジェクトという形で実施するための資金調達の探索に注力すべきである
10	—
11	教訓（アドバイス）**は、アクションプランを実施するための財源を単年度で確保するのは難しい、ということです。予算を持つ自組織の類似活動をうまく利用し、そこに自身の活動を組み込んで同時並行で実施すべきです。
12	現実的で実行可能なアクションプランを策定すること 資金を確保すること アクションプランの実施にすべての関係者（ステークホルダー）を巻き込むこと
13	引き出された教訓という点で、生徒（複数）は持続可能な行動変容のための後継者（リレー）を構成し、すべての衛生と公衆衛生の活動において考慮に入れられるべきである、とすることができます。

表 -10

AP 立案時に参考になったプログラム	実行時に参考になったプログラム
給水分野	
<ul style="list-style-type: none"> 東川町における地下水利用とその管理 高山村の簡易水道施設（ミニ AEP） 運営の監視やコミュニケーションによる管理 水道プロジェクト管理 簡易会計 NISAKU ブランドのポンプの技術 岡本ポンプでの掘削井戸の機能診断と修繕方法の現地視察 藻岩の浄水場 飲料水の水質の管理 飲料水の処理技術の基礎 配管の接続の実習 水処理技術 処理に関するモジュール 質の高い水の利用に関する啓発活動 アフリカの乾燥地域における安全な水の管理 水と衛生分野の技術 	<ul style="list-style-type: none"> 農村地域における水理施設（複数）の管理、アフリカにおける飲料水サービス（複数）の管理 飲料水の水質の管理 飲料水の処理技術の基礎 配管の接続の実習 水処理技術 処理に関するモジュール 質の高い水の利用に関する啓発活動 アフリカの乾燥地域における安全な水の管理
衛生分野	
<ul style="list-style-type: none"> 衛生と公衆衛生の推進 SARAH-PHAST アプローチに関するプログラム 	<ul style="list-style-type: none"> SARAH-PHAST アプローチに関するプログラム JICA のアフリカにおける WASH と栄養に関する介入プログラム 衛生および公衆衛生の促進
その他	
<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの策定（問題の木、解決策の木） プロジェクトのサイクル PDM の精緻化（作成） 成果志向のプロジェクト管理研修（問題の木の作成およびプロジェクト管理マトリックス）に関連するプログラム 日本、参加国との経験交流 福安学校の訪問 	<ul style="list-style-type: none"> KAIZEN アプローチ セネガルなど他国との経験共有、および他国における管理の事例 プログラム全体 JICA の研修プログラム ありません

表 -11

注力している給水施設レベル	回答数	割合	給水・衛生どちらに注力	回答数	割合
レベル 3	1	8%	給水	9	69%
レベル 1・2	2	15%	衛生	3	23%
レベル 2・3	2	15%	両方	1	8%
レベル 1・2・3	8	62%	合計(=回答数)	13	
合計(=回答数)	13				

付属資料 8
アルムナイリユニオンイベント
への招へい者リスト

Nom de pays	No.	Sexe	Nom	Prénoms	Date de naissance (jour/ mois/ année)	Âge	Adresse e-mail	Organisation d'appartenance/ Fonction	参加年度	【AP】実施者○/未実施● 水 衛生	APタイトル	選定理由
Burkina Faso	1								2021			
	2								2014			
	3								2022			
	4								2012			
	5								2024			
	-								2017			
Sénégal	6								2025			
	7								2024			
	8								2019			
	9								2024			
	10								2023			
Mali	11								2025			
	-								2022			
Côte d'Ivoire	12								2024			
	13								2025			
Guinée	14								2017			
Togo	15								2019			
Bénin	-								2016			
Niger	16								2014			

付属資料 9
グループ協議メモ（原文）

Travaux de groupe : Thème 1

Points à prendre en considération pour la mise en œuvre du PA

*En raison du temps limité, seuls les groupes A et B ont mené des discussions.

Groupe A

1. La recherche de financement (à cet effet penser à faire coïncider les plans d'action avec les activités traditionnelles de nos structures)
2. Mettre en place un plan de communication efficace
3. Recherche de partenariat
4. Asseoir un mécanisme d'approvisionnement en pièces de rechange
5. Suppression des tracasseries administratives
6. Amélioration de la célérité dans le traitement des dossiers administratifs
7. Acceptabilité du projet (sensibiliser et faire des plaidoyers pour obtenir l'adhésion des bénéficiaires et des autorités)
8. Traiter la question du suivi évaluation
9. Prévoir dès le début la stratégie de la pérennité

Groupe B

1. Le thème choisi doit être en lien avec les objectifs des programmes d'activités, les programmes d'actualités au niveau national.
2. Le thème qu'on choisit soit en conformité avec ce qui est mis en œuvre dans le pays
3. La pertinence du PA avec la corrélation des besoins (la cohérence avec la stratégie nationale)
4. Associer les acteurs pour une bonne mise en œuvre et une appropriation par la population
5. Associer les partenaires pour éviter les doublons et connaître les réalités socio-économiques
6. L'implication d'autres acteurs : Présenter le PA à d'autres partenaires pour diversifier les sources de financement, ou dupliquer les projets
7. Tenir compte des réalisations antérieures. Capitaliser les expériences antérieures au niveau de la zone du projet

8. Apporter des innovations dans la mise en œuvre, par exemple l'introduction nouveaux produits (SATO)
9. Assurer une communication dans la mise en œuvre avec les populations pour qu'elles s'approprient les réalisations.
10. Veiller à la qualité des réalisations afin que les populations soient satisfaites du travail.
11. Le PA doit être réaliste.

Groupe en ligne

1. Responsabilité institutionnelle et approbation par la Direction
 Bien que les participants soient chargés d'élaborer et de soumettre les plans, la responsabilité finale de la prise de décision et de la recherche de financement incombe aux directions et aux institutions elles-mêmes.
2. Prise en compte du défi du financement
 Même si les plans sont bien élaborés, ils risquent de finir « dans les tiroirs » en l'absence de ressources financières. Le manque de financement doit être considéré comme le principal frein à la mise en œuvre.
3. Référence aux expériences réussies d'autres pays
 Il est essentiel de s'inspirer et de partager les expériences de pays ayant réussi à concrétiser leur PA, comme l'exemple du Burkina Faso cité au sein du groupe, pour faciliter la mise en œuvre dans son propre pays.

Fin du document

Travaux en groupe : Thème 2

Défis et Proposition d'amélioration du Programme de formation KCCP- JICA WASH

Groupe A

1. LES DÉFIS SUIVANTS SONT À SOULIGNER

1. Le défis de l'engagement communautaire, nous nous en sommes aperçu à travers le faible taux de fonctionnement des comités de gestion, aussi on a pu noter des résistances culturelles, les populations n'ayant par exemple pas l'habitude de cohabiter avec les toilettes. Obtenir les changements de comportement liés à l'observation des bonne pratiques WASH demeure donc un défi à surmonter.
2. le défi des ressources financières est aussi un handicap majeur
3. le défi des ressources humaines pour assurer la maintenance se pose également
4. le défi du système d'approvisionnement en pièce détachés des ouvrages WASH se pose aussi
5. la mise en œuvre d'un processus de suivi-évaluation demeure aussi problématique

2. PROPOSITIONS POUR AMÉLIORER LE PROGRAMME DE FORMATION KCCP

Nous proposons les modules de formation suivants :

1. L'importance du WASH pour la santé ;
2. Mise en place de système d'approvisionnement en pièces détachées ;
3. Qualité de l'eau et risque de contamination ;
4. Protection des points d'eau ;
5. Gestion communautaire de l'eau ;
6. Gestions des boues de vidange en milieu rural ;
7. Hygiène personnelle et collective ;

8. Approche de changement de comportement (Behavior Change Communication)
9. Rôles des leaders et relais communautaires ;
10. Maladies hydriques et féco orales ;
11. Besoins spécifiques des femmes et personnes vulnérables en matière WASH ;
12. Organisation des comités de gestion de l'eau
13. Maintenance préventive et curative
14. Recouvrement et durabilité financière ;
15. Planification des infrastructures WASH ;
16. Suivi évaluation des infrastructures WASH ;
17. Capitalisation et rapports ;
18. Impact des changements climatiques sur le WASH ;
19. Partenariats ONG-Etats-Partenaires techniques et financières-Communautés

Groupe B

1. Amélioration des thématiques en corrélation avec les thématiques des pays participants
2. Pratiquer des formation pratiques sur site au niveau des stations de traitement de MOYIMA et stations d'épuration de TOKYO
3. Faire des sessions pratiques de modélisation des réseaux d'approvisionnement en eau potable avec les logiciels
4. Faire des sessions pratiques de modélisation des réseaux d'assainissement des eaux usées et eaux pluviales avec les logiciels
5. Appuyer à l'obtention des financements APL pour la mise en œuvre des plans d'actions.

Groupe C

1. Défis majeurs identifiés

1. Durée trop courte de la formation.

2. Activités pratiques accélérées, laissant peu de temps à la manipulation.
3. Emploi du temps surchargé, limitant les échanges et les questions.
4. Difficulté d'accès aux financements pour la mise en œuvre des Plans d'Actions élaborés en fin de formation.

2. Recommandations

1. Allonger la durée de la formation, avec un accent sur les modules pratiques.
2. Améliorer le contenu en intégrant :
3. Les changements climatiques,
4. Les interventions en situation d'urgence,
5. Des techniques modernes de gestion.
6. Développer des outils de suivi et d'évaluation des ouvrages réalisés.

Groupe D

1. DEFIS

1. Manque du Financement pour la mise en œuvre des plans d'actions
2. Manque de pratique terrain lors de la formation
3. Augmentation du nombre de participants par an

2. PROPOSITION D'AMELIORATION

1. Intégrer des séances pratiques lors de la formation en fonction du profil des participants par ex une immersion dans des services techniques
2. Ajouter des modules sur le suivi et évaluation des projets et programmes
3. Ajouter des modules sur les mécanismes de mobilisation de financement (vert, CAS, etc)
4. Développer une stratégie de suivi rapprochée de mise en œuvre des plans d'action
5. Insérer des modules pour les projets WASH résilients (faire face au changement climatique)

Groupe en ligne

1. DEFIS

1. Difficultés de mobilisation des fonds : De nombreux participants peinent à trouver les budgets nécessaires pour exécuter leurs plans une fois de retour dans leur pays.
2. Manque d'appui durant la phase de mise en œuvre : Un manque de soutien et de plaidoyer auprès des institutions nationales est ressenti après la fin de la formation pour concrétiser les projets.

2. PROPOSITION D'AMELIORATION

1. Suivi direct de la JICA auprès des institutions nationales
Que la JICA effectue des suivis périodiques auprès des institutions des participants pour évaluer l'état d'avancement des plans d'action.
Une intervention directe de la JICA inciterait les directions à accorder plus d'importance et de priorité à l'exécution des PA.
2. Mise en place d'un système de recherche de financement
Développer des partenariats avec d'autres bailleurs de fonds pour créer un système de recherche de financement capable d'appuyer les projets des participants.
3. Financement direct de plans d'action sélectionnés
Sélectionner quelques plans d'action à la fin de chaque formation pour un financement direct par la JICA, servant ainsi de catalyseur pour inciter les institutions nationales à s'impliquer.
4. Mentorat et suivi rapproché
Instaurer un système de mentorat et de suivi rapproché pour accompagner techniquement et moralement les participants dans la phase de réalisation.
5. Pérennisation des rencontres d'échange d'expériences
Multiplier les rencontres de ce genre (en ligne) pour permettre aux participants de partager de manière continue leurs acquis et leurs savoir-faire pratiques, à l'instar du partage d'expérience du Burkina Faso.

Fin du document

Travaux en groupe : Thème 3

Possibilités de collaboration avec les acteurs (APL, YAMAHA, LIXIL, JOCV etc) présentés

Groupe A

APL

les alumni peuvent aider à faire passer l'information sur l'existence de cette modalité de financement de projet car l'existence des APL est très peu connue.

YAMAHA

Les alumni peuvent s'impliquer dans l'obtention d'une invitation à l'adresse de YAMAHA pour la présentation de ses offres. Cette première étape sera suivie de la mise à la disposition de YAMAHA de l'inventaire des besoins afin que YAMAHA se charge des démarches auprès du ministère Japonais compétent pour l'obtention du financement

LIXIL

Les alumni peuvent prospecter et mettre LEXIL en contact avec des ONG qui opère dans son domaine d'activité et aussi fournir à LEXIL toute information sur des appels d'offres susceptibles d'intéresser LEXIL

VOLONTAIRE JICA

Ils peuvent nous être d'un appui précieux pour adresser les problématiques d'accès à l'eau potable, les questions d'hygiène et d'assainissement dans les écoles et les établissements sanitaires et aussi sur le sujet de la gestion pérennes des points d'eau

De manière générale nous suggérons que la JICA communique plus sur les actions qu'elle réalise ainsi que sur l'ensemble de ses prestations et offres. communication pas assez efficace sur cette opportunité et les modalités de son octroi.

Groupe B

APL

Tout le monde est d'avis que c'est une opportunité réelle de financement qui s'offre à la société civile et aux collectivités territoriales.

Les anciens participants pourront ainsi faire porter leur PA par des structures éligibles et pouvoir ainsi lever des fonds pour le financement.

Au-delà, des micro-projets pourront être soumis pour financement.

LIXIL

- La collaboration pays existe déjà avec des pays comme le Burkina et d'autres, mais limitée par les lourdeurs administratives - (Réflexion)
- Accentuer les démarches au Sénégal pour promouvoir les produits SATO auprès des acteurs du sous-secteur de l'assainissement rural afin de tirer profit des potentialités.

YAMAHA

Beaucoup de Contraintes pour le coût

- Burkina : Le coût (120 000 €) est très élevé.
- Sénégal : Les unités YAMAHA sont déjà installées au Sénégal et donne beaucoup de satisfactions aux populations bénéficiaires.

VOLONTAIRE JICA

La collaboration pourrait porter sur l'organisation de campagnes de sensibilisation sur le lavage des mains.

L'organisateur Boot camp avec des activités d'enseignement sur les techniques de lavage des mains, d'hygiène corporelle. Apprendre les enfants à travers la sensibilisation à se laver correctement les mains.

Groupe C

APL

L'APL est un mécanisme financé par l'Ambassade du Japon.

- L'État peut accompagner les communes dans le montage de projets à soumettre pour financement.
- Ces projets peuvent concerner l'eau potable, les infrastructures sanitaires ou autres services socio de base.
- Cette collaboration offre une opportunité de financement structurant au niveau local dont le montant du projet ne dépasse pas 10 000 000 JPY

YAMAHA

YAMAHA propose de système d'approvisionnement en eau potable a travers l'eau de surface.

- Leur solution est particulièrement adaptée aux zones rurales reculées, peu exposées à la pollution.
- Elle peut contribuer à renforcer l'accès à l'eau potable dans les villages isolés, à travers des systèmes simples et efficaces de potabilisation de l'eau de surface.
- Une collaboration peut se faire dans l'identification de localités cibles et l'installation de leurs équipements.

LIXIL

LIXIL est actif dans la promotion des produits SATO a faible coût, utilisés dans les latrines améliorées.

- Les caractéristiques techniques des produits peuvent être intégrées dans les projets locaux sans mentionner la marque.
- Cela permet de diffuser des solutions d'assainissement durables, adaptées aux conditions locales.
- Un partenariat peut être envisagé pour la sensibilisation et la promotion de l'hygiène.

VOLONTAIRE JICA

Les volontaires japonais sont souvent déployés dans les communautés locales.

- Leur proximité avec les populations rend leur action très bénéfique.
- Leur contribution peut renforcer les efforts de l'État en matière de sensibilisation, formation et appui technique pour la durabilité des interventions.
- Une bonne collaboration avec les JOCV permettra un meilleur ancrage communautaire des projets.

Conclusion

Ces quatre acteurs offrent des leviers complémentaires pour améliorer durablement l'accès à l'eau et à l'assainissement contribuant ainsi de

manière significative à l'amélioration des conditions de vie des communautés à la base. Une collaboration bien structurée permettra de mobiliser des ressources, renforcer les capacités locales et toucher les populations les plus vulnérables.

Groupe D

APL/YAMAHA

- Accompagner/Appuyer les écoles, centres de santé, Collectivités territoriales etc. avec la formulation de projets d'amélioration des services WASH
- Mettre en œuvre des communications pour présenter l'opportunité « APL » aux possibles bénéficiaires
- Utiliser les alumni comme points focaux pour appuyer les associations et autres bénéficiaires pour une future collaboration par APL
- Vulgariser les formulaires de demande d'APL
- Participer aux différents fora/ exposition du secteur pour une meilleure visibilité
- Mettre en œuvre des projets pilotes par la JICA ou ses partenaires, de sorte à disposer d'un prototype fonctionnel pour attirer et convaincre les populations

LIXIL

- Participer aux différents fora/ exposition du secteur pour une meilleure visibilité
- Mettre en œuvre des projets pilotes par la JICA ou ses partenaires, de sorte à disposer d'un prototype fonctionnel pour attirer et convaincre les populations
- Utiliser les alumni ou autres créneaux comme points focaux pour vulgariser/conseiller les produits au vu de sa position pour le safely management sanitation

VOLONTAIRE JICA

- Recruter des volontaires nationaux qui seront former puis redéployer pour étoffer l'effectif
- Développer de l'assistance volontaire en ligne (pour les cadres qui seront ensuite des relais auprès des populations locales)
- Mieux faire connaître le programme de volontariat auprès des sectoriels

Fin du document

Travaux en groupe : Thème 4

Création de lieu et d'opportunité d'apprentissage entre les anciens stagiaires KCCP-JICA WASH-MR

Groupe A

Les formations ci-après peuvent s'avérer bénéfique pour nos pays respectifs :

- formation en gestion des ouvrages WASH en situation d'urgence ;
- adaptation et lutte contre les effets des changements climatiques à travers le WASH ;
- la gestion des eaux usées pour leur réutilisation ;
- la lutte contre la pollution anthropique occasionnée par les produits (intrants et pesticides) utilisés en agriculture ;
- formation sur le partenariat public-privé dans le cadre de la gestion de l'eau en milieu rural ;
- formation sur l'élaboration de plan de communication dans le cadre de la mise en œuvre des projet WASH ;
- formation sur l'élaboration de plan de gestion environnemental et social.

Groupe C

Objectif général

Créer un cadre dynamique permettant aux anciens stagiaires de :

- partager leurs expériences,
- renforcer leurs connaissances,
- et actualiser leurs compétences autour des enjeux WASH.

Points discutés / Thèmes identifiés

Les participants ont souligné les besoins de renforcement de capacités sur les axes suivants :

1. Amélioration des modules de formation en lien avec le WASH.

2. Exploitation et gestion des ouvrages (y compris les outils de gestion communautaire).
3. Maintenance préventive et corrective.
4. Suivi des ouvrages (technique et communautaire).
5. Installation de kits de latrines hygiéniques et sécurisées.
6. Construction d'ouvrages hydrauliques adaptés aux effets du changement climatique et à l'explosion démographique.
7. Méthodes de sensibilisation efficaces, notamment sur la volonté de paiement au volume.
8. Formation pratique sur les stations de traitement des eaux de surface (stage recommandé d'une semaine).
9. Renforcement des interventions WASH, y compris en contexte d'urgence.

Conclusion

Les participants ont convenu de la nécessité de formaliser ce réseau d'anciens stagiaires et de planifier des rencontres régulières (en présentiel ou virtuelles). Ce cadre renforcera la synergie entre les acteurs et contribuera à l'amélioration durable des services WASH en milieu rural.

Groupe D

PROPOSITION D'AMÉLIORATION ORGANISATIONNELLE

- Créé ou redynamisé un réseau d'alumni formel dans chaque pays avec un plan d'action budgétisé, des fréquences de rencontres et d'échanges et qui interagisse avec la JICA-PAYS,
- De même, que la JICA-PAYS transmette les informations de leurs interventions dans le pays au réseau de sorte que les stagiaires puissent apporter leur appui, renforcer leurs capacités etc.
- Rencontre tournante des alumni dans les autres pays au cours desquelles il y a des visites terrain portant sur les pratiques éducatives mises en œuvre dans le cadre des plans d'action
- Y Associer tous les anciens stagiaires du pays hôte
- Implication de la JICA-PAYS lors des rencontres d'alumni pour booster les échanges et la mise en œuvre des plans d'actions

CREATION DE LIEU ET D'OPPORTUNITES D'APPRENTISSAGE ENTRE LES ANCIENS

1. Opportunités de formation continue sur les thématiques transversales telles que :
 - le changement climatique,
 - l'assainissement géré en toute sécurité,
 - la maîtrise des volets énergétiques dans la fourniture des services WASH
2. Création des plateformes ou mécanismes de soumission de besoin de formation supplémentaire (cela peut se faire à travers le réseau d' alumni par ex) au profit d'anciens stagiaires. Par ex, immersion spécifique au Japon pour le traitement des eaux usées

Fin du document

Travaux en groupe : Thème 5

Échange d'idées entre les stagiaires et la JICA pour la co-création et l'intervention dans le domaine de WASH (eau, hygiène et assainissement)

Group A

LECONS A TIRER DES PRESENTATIONS ET RECOMMANDATIONS

- Il a été noté la difficulté de trouver des financements pour la mise en œuvre des plans d'action. À cet effet l'existence de l'Aide non remboursable des Petits projets Locaux (APL est à saluer. Il est cependant à déplorer une communication pas assez efficace sur cette opportunité et les modalités de son octroi.
- L'alternative consistant à faire coïncider les plans d'action avec les activités traditionnelles des structures des alumni a également été proposée en guise piste de solution au problème de manque de financement.
- La recherche de partenaire tels que les ONG a également été mentionnée
- La présentation du Burkina a fait ressortir la problématique du bon fonctionnement des comité de gestion des ouvrages WASH et l'incapacité des communes à jouer leur rôle de maitrise d'ouvrage faute de compétence technique.
- Le représentant de la Côte d'Ivoire ayant évoqué des pesanteur culturelles (refus de certaines populations à cohabiter avec les fosses septiques). Nous en avons déduit l'urgence de concevoir un plan de communication autour des plans d'action

Groupe C

Leçons apprises

- Les échanges entre pays permettent une meilleure compréhension :
- Des différents types d'ouvrages,
- Des modèles de gestion communautaire,
- Des pratiques efficaces de maintenance.
- Meilleure visibilité du rôle des acteurs clés du service public de l'eau (autorités locales, usagers, État, etc.).

Conclusion

Cette session a mis en lumière l'importance de renforcer le lien entre les bénéficiaires du programme KCCP-JICA et la JICA pour une amélioration continue des pratiques WASH. La co-création de solutions adaptées, durables et participatives est essentielle pour répondre efficacement aux défis d'accès à l'eau, à l'hygiène et à l'assainissement en milieu rural.

Groupe D

LECONS APPRISES

- Existence d'associations actives d' alumni dans des pays
- Existence d'APL, YAMAHA, SATO, JOVC qui peuvent appuyer techniquement humainement et matériellement les pays pour l'amélioration du WASH
- Participation des représentations de collectivités territoriales à la formation, ce qui peut inciter leurs pairs
- Création de confiance en soi même à travers la mise en capacité des populations locales
- Motivation des alumni à apporter un appui aux acteurs du WASH pour l'obtention des APL
- Volonté de la JICA à améliorer continuellement la qualité de la formation, afin de permettre aux agents techniques de s'adapter aux besoins
- L'expérience des autres promotions,
- Création de lien entre les alumni de plusieurs promotions,
- Connaissance de la plateforme d'échanges et de formation JICA-VAN

DIFFICULTES RENCONTRES

Insuffisance du financement pour le secteur WASH

- Insuffisance de la fonctionnalité de l'association des alumni
- Problèmes sécuritaires qui a suscité de personnes déplacées internes (PDI) qui nécessite le renforcement de capacité des agents pour les interventions en WASH urgence
- Insuffisance des formations techniques continues pour faire face aux besoins croissant en matière de WASH pour les agents étatiques
- vulnérabilité des ouvrages WASH aux effets changement climatiques
- Difficultés/ insuffisance de connaissances pour la communication de changement de comportement

RECOMMANDATIONS

- Prendre en compte les propositions d'amélioration des contenus de la formation
- besoin de formation sur les systèmes WASH résilients
- Fournir des modules de formations sur les techniques de communications pour le changement de comportement
- Offrir des Formations sur la mise en œuvre de projets sensibles au conflit (WASH urgence, l'intervention humanitaire)
- garder le contact entre alumni, participer aux rencontres des associations, partager les expériences au sein du pays ou entre pays
- Redynamiser les associations d'alumni dans les différents pays

Group en ligne

Acquis et enseignements tirés durant les deux jours d'événement

Au cours des sessions de ces deux jours, notre groupe a pu tirer des enseignements précieux, notamment à travers les présentations des différents pays et les discussions croisées sur les points suivants :

- Utilité des solutions techniques basées sur des cas concrets (Système Yamaha) :

À travers l'exemple du Sénégal et la présentation du système de potabilisation Yamaha, nous avons appris des solutions technologiques concrètes pour transformer des sources d'eau de qualité médiocre

(comme les retenues d'excavation au Nord-Ouest de Djibouti) en eau potable sécurisée.

Au-delà de la théorie, les échanges sur la maintenance et la durabilité des équipements face aux conditions climatiques extrêmes (telles que la chaleur) ont été extrêmement enrichissants.

- Redécouverte de la valeur du volet « Soft » pour la pérennisation des infrastructures :

Nous avons réaffirmé l'efficacité de la « gestion communautaire participative » prônée par la JICA. Les exemples cités ont montré que cet investissement dans le capital humain permet de prolonger la durée de vie des infrastructures de 15 à 20 ans.

Un enseignement clé partagé par le groupe est l'impact positif de l'approche genre : confier la gestion financière (trésorerie) aux femmes accroît radicalement la transparence et réduit les conflits liés à l'argent.

- Réinterprétation de l'expérience au Japon (Gestion des déchets et conscience environnementale) :

Le groupe a partagé une réflexion sur la manière dont le « tri des déchets », observé lors du séjour au Japon, peut avoir un impact majeur sur la protection de l'environnement et des ressources en eau dans nos pays respectifs.

Recommandations à la JICA

Sur la base des discussions de cet événement, nous formulons les deux recommandations suivantes pour les futures formations et le suivi des anciens stagiaires :

- Intégration formelle d'un module sur le « Tri et la Gestion des Déchets »
Contenu : Ajouter un module spécifique sur les techniques de tri et la gestion des déchets au Japon dans les prochains programmes de formation.

Justification : Il existe une forte volonté de transposer ces pratiques japonaises pour résoudre les problèmes environnementaux locaux. Les

participants souhaitent approfondir les méthodes de mise en œuvre concrètes.

- Institutionnalisation de sessions de partage de connaissances en ligne
Contenu : Organiser de manière régulière (tous les 3 ou 4 mois) des rencontres virtuelles entre anciens stagiaires, similaires à cet événement.
Justification : Cet événement a prouvé que découvrir les cas de succès d'autres pays est un puissant stimulant pour résoudre nos propres défis.
Nous sollicitons également un appui technique renforcé pour l'accès aux plateformes (comme JICA-Net) afin de dynamiser ce réseau.

Fin du document

付属資料 10
終了後アンケートの質問詳細

アルムナイリユニオンイベント後アンケート質問内容

アンケート名：KCCP-JICA WASH アルムナイイベント終了後アンケート

Questionnaire post-événement Alumni KCCP-JICA WASH

説明文：

参加者のみなさま

この度は、イベントにご参加いただき誠にありがとうございました。今回のイベントでの学びやインスピレーションを踏まえ、今後の活動や研修の改善のため、皆様からの率直なご意見・ご提案をお願いいたします。

Chères et chers participants,

Nous vous remercions sincèrement d'avoir participé à cet événement. Afin d'améliorer nos activités et nos formations futures, nous souhaiterions recueillir vos opinions et suggestions sincères, basées sur les apprentissages et l'inspiration que vous avez retirés de cet événement.

Ce questionnaire contient de nombreuses questions s'adressant principalement aux anciens(nes) participants(es).

Les participants non concernés, tels que ceux issus d'entreprises privées ou les JOCV (Volontaires japonais pour la coopération à l'étranger), pourraient trouver difficile de répondre à certaines questions ou n'avoir aucune expérience correspondante.

Dans ce cas, nous vous demandons de bien vouloir indiquer simplement « Sans objet » ou « Je ne sais pas ».

Nous vous remercions de votre coopération.

回答項目

氏名、メールアドレス、国名（個別に欄を作成）

Nom et prénom、Adresse e-mail、Pays

1. アクションプラン（AP）の実施と今後の計画について

今回のイベントで得られた学びやアイデアを踏まえ、今後のアクションプラン（AP）の実施に関するご意見やご提案、または具体的な計画をご記入ください。

1. Mise en œuvre du Plan d'Action (PA) et plans futurs

Veillez indiquer vos opinions, suggestions ou plans concrets concernant la mise en œuvre future de votre Plan d'Action (PA), en tenant compte des apprentissages et des idées obtenues lors de cet événement.

2. KCCP-JICA WASH 研修プログラムの改善について

来年度以降に実施される KCCP-JICA WASH 研修プログラム（本邦での次回研修を含む）について、よりよい内容とするために、あなたの視点からのご意見やご提案があれば、ご記入ください。

2. Amélioration du Programme de formation KCCP-JICA WASH

Concernant le Programme de formation KCCP-JICA WASH qui sera mis en œuvre l'année prochaine et au-delà (incluant la prochaine formation au Japon), veuillez indiquer librement vos opinions ou suggestions en vue de son amélioration et de son efficacité, de votre point de vue.

3. 草の根無償資金協力（APL）を活用した事業アイデアについて

草の根無償資金協力（APL）に関するプレゼンテーションや意見交換を踏まえ、貴機関・団体が APL を活用して実施可能な具体的な事業アイデアがありましたら、ご記入ください。

3. Idées de projets utilisant l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL)

Sur la base de la présentation et des échanges sur l'Aide Non-Remboursable des Petits Projets Locaux (APL), veuillez indiquer toutes les idées de projets concrets réalisables que votre organisation pourrait mettre en œuvre en utilisant le mécanisme APL.

4. YAMAHA（ヤマハ）との連携について

YAMAHA（ヤマハ）の活動に関するプレゼンテーションや意見交換を踏まえ、YAMAHA との連携に関する具体的なアイデアをご記入ください。

4. Partenariat avec YAMAHA

Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de YAMAHA, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec YAMAHA.

5. LIXIL（SATO）との連携について

LIXIL（SATO）の活動に関するプレゼンテーションや意見交換を踏まえ、LIXIL との連携に関する具体的なアイデアをご記入ください。

5. Partenariat avec LIXIL（SATO）

Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de LIXIL（SATO）, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec LIXIL.

6. ボランティア（JOCV 等）との連携について

JOCV（青年海外協力隊）の活動事例に関するプレゼンテーションや意見交換を踏まえ、貴機関・団体とボランティア（JOCV、ナショナルボランティア、NGO 等）との連携に関するアイデアをご記入ください。

6. Partenariat avec les Volontaires (JOCV, etc.)

Sur la base de la présentation et des échanges sur les études de cas des Volontaires Japonais (JOCV), veuillez indiquer des idées de partenariat entre votre organisation et les Volontaires (JOCV, Volontaires nationaux, NGO, etc.).

7. JICA-VAN の活用について

JICA-VAN（オンラインプラットフォーム）の紹介に関するプレゼンテーションや意見交換を踏まえ、これを活用した連携や情報共有のアイデアをご記入ください。

7. Utilisation de JICA-VAN

Sur la base de la présentation et des échanges sur la Plateforme en ligne JICA-VAN, veuillez indiquer des idées de collaboration et de partage d'informations utilisant cette plateforme.

8. 元研修員間のネットワーク構築について

KCCP-JICA WASH 元研修員どうしの継続的な学びの場や交流の機会を創出するための、具体的なアイデアをご記入ください。

8. Construction du réseau entre anciens stagiaires

Veuillez indiquer des idées concrètes pour créer des opportunités d'apprentissage et des lieux d'échange continus entre les anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH.

9. JICA との共創・介入アイデアについて

WASH（水・衛生・環境）分野における JICA との新たな共創や介入に向けたアイデアを、研修員としてのご視点からご記入ください。

9. Idées de co-création et d'intervention avec la JICA

Veuillez indiquer des idées, de votre point de vue en tant que stagiaire, pour une nouvelle co-création ou intervention avec la JICA dans le domaine WASH (eau, hygiène et assainissement).

10. イベント全体の感想について

今回のイベント全体（内容、運営、形式など）のご感想を自由にご記入ください。

10. Impressions générales sur l'événement

Veuillez indiquer librement vos impressions générales sur cet événement (contenu, organisation, format, etc.).

Ce sont toutes les questions de cette enquête. Merci beaucoup pour votre coopération.

以上

付属資料 11
終了後アンケートへの回答詳細

回答日時	Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	1. Mise en œuvre du Plan d'Action (PA) et plans futurs Veuillez indiquer vos opinions, suggestions ou plans concrets concernant la mise en œuvre future de votre Plan d'Action (PA), en tenant compte des apprentissages et des idées obtenues lors de cet évènement	2. Amélioration du Programme de formation KCCP-JICA WASH Concernant le Programme de formation KCCP-JICA WASH qui sera mis en œuvre l'année prochaine et au-delà (incluant la prochaine formation au Japon), veuillez indiquer librement vos opinions ou suggestions	3. Idées de projets utilisant l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL) Sur la base de la présentation et des échanges sur l'Aide Non-Remboursable des Petits Projets Locaux (APL), veuillez indiquer toutes les idées de projets concrets réalistes	4. Partenariat avec YAMAHA Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de YAMAHA, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec YAMAHA.	5. Partenariat avec LIXIL (SATO) Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de LIXIL (SATO), veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec LIXIL.
12/16/2025 22:08:20			Mali	Des opportunités pour la mise en œuvre du PA existent actuellement	- integration d'un module Suivi évaluation - integration d'un module ouvrages resilientes au changement climatique - instaurer une phase pratique	Pas d'idée pour le moment	Sans objet pour le moment	Mettre en relation LIXIL avec des entreprises locales pour la distribution
12/16/2025 22:13:14			Sénégal	face à la difficulté d'obtention de financement pour nos PA au sortir de cette rencontre 4 solutions ont été proposées à savoir : - une collaboration avec l'Ambassade du Japon à travers l'Aide Non Remboursable des petits projets locaux, - une collaboration avec la société YAMAHA - une collaboration avec LIXIL /SATO - une collaboration avec les volontaires de la JICA.		Pour les APL, les alumni peuvent aider à faire passer l'information sur l'existence de cette modalité de financement de projet car l'existence des APL est très peu connue. Et peuvent utiliser comme canal pour faire financer leurs PA	Les alumni peuvent s'impliquer dans l'obtention d'une invitation à l'adresse de YAMAHA pour la présentation de ses offres. Cette première étape sera suivie de la mise à la disposition de YAMAHA de l'inventaire des besoins afin que YAMAHA se charge des démarches auprès du ministère des affaires étrangères Japonais compétent pour l'obtention du financement	Les alumni peuvent prospecter et mettre LEXIL en contact avec des ONG qui opèrent dans son domaine d'activité et aussi fournir à LEXIL toute information sur des appels d'offres susceptibles d'intéresser LEXIL
12/16/2025 22:13:45			Côte d'Ivoire	Étant donné que la mise en œuvre de mon Plan d'Action est prévu sur la période 2025-2026-2027, les résultats déjà réalisés sont encourageants au niveau de secteur de l'eau potable. Au niveau de l'assainissement et de l'hygiène, nous avons quelques efforts encore à faire pour amener les populations à comprendre l'importance. Mais je pense que dans les années venir, les populations vont adhérer. Nous continuons d'expliquer aux autorités compétentes pour qu'elles s'en approprient et qu'elles nous accompagnent sur le plan politique et financier.	Je peux recommander : - Des travaux pratiques lors des visites sur les sites - Apprendre et mettre à disposition des logiciels dans le domaine du WASH - Accroître le réseau des Alumni pour le partage d'expériences - Accompagner et recommander les Alumni dans la soumission des APL pour les accompagner dans la mise en œuvre des Plans d'Action.	Je peux indiquer : - Les projets d'extension des forages équipés de pompes - L'installation de latrines communautaires et des latrines ménages	Vu le coût de l'équipement et avec la situation de notre région, il sera difficile pour nous d'accepter pour le moment les offres YAMAHA	Je propose à ces structures d'organiser de s'associer à notre pour organiser des campagnes de sensibilisation pour présenter leurs produits avec des offres promotionnelles pour que les populations puissent faire la découverte et puissent s'en approprier
12/16/2025 22:27:57			Burkina Faso	Pour la poursuite de mon plan d'action, grâce aux enseignements reçus de cette rencontre, je prévois tenir une rencontre d'échanges avec mes anciens collègues de la région des Cascades, afin qu'ils puissent poursuivre l'idée de la délégation intégrale de la gestion des ouvrages d'AEP.	Pour la prochaine cohorte, je suggère l'ajout des modules liés à l'assainissement géré en toute sécurité surtout le volet traitement des eaux usées et excréta, la mobilisation des financements, les techniques de suivi évaluation de projets et les techniques de communication.	Étant agent dans une structure étatique, ma structure ne peut pas bénéficier directement de l'APL mais, nous pourrions et nous appuierions les écoles et centres de santé qui ne disposent pas d'ouvrages d'AEP homologués à solliciter l'APL pour la réhabilitation/réalisation d'ouvrages adaptés.	Nous allons également avec l'appui d'une agence de l'eau proposer d'aider un comité des usagers de l'eau à solliciter la mise en place du système de potabilisation d'eau avec YAMAHA, nous prévoyons les inviter à présenter le système lors du prochain forum de l'eau au Burkina	Nous allons également approcher UNICEF pour la mise en œuvre d'un projet pilote de latrine équipées de cuvettes SATO.
12/16/2025 22:29:51			SN	Nous avons déjà démarré la mise en œuvre progressive de notre plan d'action avec quelques ajustements sur la partie formation et implication des acteurs locaux. Pour rappel, nous nous sommes inspirés du modèle de Furano pour l'identification et la cartographie des réseaux d'eau potable visant la réduction des pertes d'eau et la préservation de la qualité de l'eau et du service. Initialement, cet activité devait connaître la participation des étudiants et des équipes de gestion sur le terrain pour une meilleure implication et formation de ces derniers. Mais pour des raisons de budget nous étions obligés pour la phase teste de la faire directement sans autre implication. Suite à cette réunion, nous comptons essayer de profiter à travers les acteurs du PLA ou essayer à travers la coopération bilatérale - l'ambassade du Japon), travailler avec la commune de Furano sous forme de programme d'échange.	Nous suggérons que la formation soit taillée pour les allumés, histoire d'assurer leur mise à niveau et le renforcement du réseau des stagiaires. Aussi, renforcer le volet exploitation et maintenance dans le cadre de la formation.		IOFOR travaille déjà avec YAMAHA	
12/16/2025 22:58:48			Burkina Faso	Personnellement mon plan d'action a été financé partiellement par l'UNICEF donc ma suggestion est de proposer est de monter le PA en projet innovant et présenté aux partenaires techniques et financiers au niveau des pays et proposer des possibilités de collaboration.	Concernant la formation KCCP-JICA WASH est de voir augmenter le temps de formation car le délai était trop limité le travail était vraiment sous pression. pour le stage au Japon trouve une possibilité de compléter la formation de ceux qui ont participé en ligne. Cela permettra de mieux s'imprégner de la culture Japonaise dans le domaine du WASH pour appliquer dans nos différents pays. Aussi améliorer les thèmes de formations en intégrant des thèmes liés aux changements climatiques et les interventions d'urgences adaptés à la situation dans le sahel. Intégrés des modules du WASH en situation d'urgence.	Les idées de projet c'est par exemple la gestion des ouvrages pour leur durabilité par le renforcement de capacité des comités de gestion au niveau local, la réalisation des ouvrages hydraulique en milieu rural	Le système d'approvisionnement de YAMAHA présenté lors de la réunion est très bien mais si on pouvait l'adapter au climat sahélien confronter à une très grande évaporation. YAMAHA peut proposer une solution d'adduction d'eau climatique résilient adapté au climat sahélien.	Les produits SATO doivent être d'abord accessible aux populations depuis la base pour faciliter sa promotion dans nos pays. Ainsi chaque participant à son niveau pourra faire la promotion de SATO et en les incluant dans nos réalisations.
12/16/2025 23:21:09			TOGO	La JICA pourrait aider les stagiaires pour la recherche des financements soit par elle-même ou par l'intermédiaire d'autres partenaires. Un budget plafond pourrait être fixé pour l'élaboration des plans d'actions et la JICA pourrait garantir l'obtention du 1/3 du budget à condition que les états vote les 2/3 pour la mise en œuvre du Plan d'Action	le programme de formation JICA est déjà assez fourni, peut-être l'adapter en fonction de l'évolution des défis mondial. Augmenter le temps de sortie pratique sur le terrain. introduire des modules des outils de suivi des ouvrages d'eau et indicateurs .;	Un projet de réhabilitation de 20 ouvrages d'eau par an un projet de fournitures et d'approvisionnement en pièces de rechanges des forages par an	créer des points d'eau à travers la technologie YAHAMA dans 2 deux localités enclavées dans la région la moins développée du pays	créer des ouvrages d'assainissement à travers la technologie SATO dans 5 cinq localités enclavées dans la région la moins développée du pays

回答日時	Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	1. Mise en œuvre du Plan d'Action (PA) et plans futurs Veuillez indiquer vos opinions, suggestions ou plans concrets concernant la mise en œuvre future de votre Plan d'Action (PA), en tenant compte des apprentissages et des idées obtenues lors de cet événement	2. Amélioration du Programme de formation KCCP-JICA WASH Concernant le Programme de formation KCCP-JICA WASH qui sera mis en œuvre l'année prochaine et au-delà (incluant la prochaine formation au Japon), veuillez indiquer librement vos opinions ou suggestions	3. Idées de projets utilisant l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL) Sur la base de la présentation et des échanges sur l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL), veuillez indiquer toutes les idées de projets concrets réalisées	4. Partenariat avec YAMAHA Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de YAMAHA, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec YAMAHA.	5. Partenariat avec LIXIL (SATO) Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de LIXIL (SATO), veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec LIXIL.
12/17/2025 0:02:34			Mali	Faciliter les recherches de financement à travers le développement de partenariats entre JICA et les bailleurs de fonds ; Effectuer de suivi de mentorat auprès des participants ; Effectuer de suivi auprès des institutions pour la mise en œuvre des plans d'actions ; Multiplier les rencontres entre les participants et les responsables JICA pour le partage des expériences et explorer de solutions pouvant faciliter la mise en œuvre des plans.	Suivi après le retour des stagiaires ; Associer les participants aux projets de JICA trouvant dans les pays respectifs.	La réalisation des ouvrages d'assainissement ; La valorisation des sous produits d'assainissement ; Le marketing d'assainissement.	Partenariat gagnant gagnant, transfert de compétences et de technologie.	Partenariat gagnant gagnant et transfert de compétences et de technologie.
12/17/2025 7:41:01			GUINEE	Pour la mise en oeuvre des plans d'actions futurs, je propose que les stagiaires alignent le PA dans le Plan de Travail Annuel du programme de Coopération avec l'UNICEF ou d'autres PTF et surtout dans le Plan de Travail Annuel budgétisé (PTBA) des services	Je pense qu'il faut juste améliorer les thèmes de formation en prenant en compte l'aspect de changement climatique, les catastrophes naturelles(inondations par exemple), le développement des outils de suivi des ouvrages, des méthodes adaptées de sensibilisation pour le changement de comportement et surtout augmenter le temps de formation(Pratique).	Dans son rôle d'appui conseil, le SNAPE aidera les communes dans le montage des projets structurants qui répondent aux petits projets locaux pour les écoles, les centres de santé et les communautés	Le système d'approvisionnement en eau de YAMAHA nous intéresse dans la mesure où le système réponds au besoins de la communauté	Le produit SATO est déjà présent en Guinée et les produits présentés dans plusieurs services du pays ouvrant dans le WASH. Nous ferons sorte que les produits SATO soient intégrés dans nos projets et programmes pour les vulgariser au niveau national
12/17/2025 8:48:44			JAPAN/SÉNÉGAL	不明	隊員として参加させてもらって、研修生とのつながりができたり、研修生の現在の仕事を知る良い機会になった。隊員の参加もこれからも募ってほしい。	不明	不明	不明
12/17/2025 16:28:10			BURKINA FASO	Le plan d'action a été mis en oeuvre en se basant sur un projet allant dans le même sens. Pour plus de facilité dans la mise en oeuvre des plans d'action, il est possible d'étaler dans le temps les activités tout en profitant des panifications de l'Etat afin d'obtenir des résultats	Il serait intéressant de prendre en compte le contexte actuel marqué par l'insécurité dans les pays du sahel. A cet effet, on pourrait intégrer les Notions d'urgence dans le Wash qui intègre aussi la gestion des ouvrage d'AEP en situation d'urgence. Il faut aussi introduire des thèmes relatifs aux changements climatiques qui impactent négativement sur la disponibilité de la ressource en eau dans nos pays.	- La réalisation des ouvrages d'eau potable - le renforcement de capacité et la dotation en matériel de réparation de maintenanciers de PMH - Le renforcement des capacités des Communes qui sont les maîtres d'ouvrages - L'Appui à la mise en place / renouvellement des structures de gestion des ouvrages	- Que YAMAHA fasse une communication sur ses activités en lien avec l'AEP - Que YAMAHA fasse un déplacement dans nos pays pour communiquer avec nos autorités sur ses actions - YAMAHA peut aussi à travers la JICA dans nos pays envoyer du courrier au Ministère de l'eau pour présenter ses activités et faire un appel à projet - YAMAHA peut s'appuyer sur les Alumnis pour entrer en contact avec les autorités du pays et entamer un partenariat	- Les Alumnis peuvent faire connaître cette structure auprès des ONG/Associations intervenant dans le domaine de l'eau l'assainissement - Faciliter la prise en compte de ses produits dans les avis d'appel d'offre à travers les spécifications techniques
12/17/2025 20:43:06			日本	もし自分がアクションプランを作る場合は、気候変動問題も盛り込んだ内容にしてみたいとディスカッションを通して思いました。 資金を得るためにも重要な点だと感じました。	日本の研修に参加する前に、各国の既参加者との交流があれば、より研修への準備ができたり、縦のつながりができ、研修終了後の情報共有や意見交換にもつながると思いました。	APLの水衛生分野で採択された具体例などあれば、共有してもらえると、参加者もより具体的に応募についてアイデアを膨らませられるのではと思いました。	しっかりパートナーシップを構築すれば、ハード面、ソフト面を双方カバーできる良い取り組みになると感じました。 ただプロジェクトベースであるとの印象から、今後ビジネススペースへの移行の可能性などはどうなのかと個人的には気になりました。(参加者もクリアに理解されていると思いますが、始めはその点において、混同してた部分あったのかと思います)	すでに様々なところで導入事例があることから、取り組みやすいと思いましたが、まだ調べられていませんが、実際に導入方法やプロセスなど具体的なお話も伺いたかったです。時間の関係上、上映されなかった動画も気になります。
12/17/2025 21:01:30			Burkina Faso	Les idées obtenues vont m'aider à achever les actions de mon PA et évaluer les impacts.	Intégrer des modules avec des thèmes émergents sur le Wash résilient, les changements climatiques,etc	Avec l'APL , on peut réaliser des postes d'eau autonomes, des branchements d'eau et des latrines au profit des populations vulnérables	Partenariat pour la potabilisation de l'eau des zones où les populations utilisent les eaux de puits	Partenariat pour la promotion des ouvrages dans les zones ayant bénéficié de l'approche ATPC.
12/18/2025 14:41:58			République Centrafricaine (RCA)	Pour la mise en œuvre de mon Plan d'Action (PA), je souhaite échanger avec d'autres apprenants qui ont déjà exécuté leurs PA, qu'ils me proposent des stratégies afin de décrocher un financement pour exécuter mon PA.	Pour une meilleure apprentissage, les futurs apprenants pourraient pratiquer. Au-delà des prises de notes, si les apprenants touchent du doigt la technique japonaise dans le domaine de WASH ce sera un grand atout.	La formation des acteurs de WASH sur tous les niveaux, un projet permettant aux élèves à laver les mains et à bien utiliser les infrastructures sanitaires.	Pour le moment mon pays n'a pas une représentation diplomatique japonaise en RCA, du coup nous n'avons pas encore un partenaire de la JICA qui siège en RCA.	Il serait souhaitable que LIXIL (SATO) travaille en partenariat avec l'Université de Bangui afin de pouvoir installer son local à Bangui.
12/18/2025 22:19:20			Burkina Faso	La dernière phrase de la mise en œuvre de mon plan d'action sera exécutée en Mars 2026 avec le financement additionnel. Cette phrase concerne l'évaluation et la certification	Pour les formations à venir je suggère beaucoup de pratique terrain et de laboratoire. Il est aussi nécessaire de choisir des participants comme volontaire dans d'autres pays	Nous avons un projet de transformation des boues de vidange en biogaz qui pourrait bien trouver son compte dans le mécanisme APL	Les idées seront mûries en discussion avec nos responsables et un retour sera fait	Nous sommes déjà en partenariat avec LIXIL/ SATO

回答日時	Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	1. Mise en œuvre du Plan d'Action (PA) et plans futurs Veuillez indiquer vos opinions, suggestions ou plans concrets concernant la mise en œuvre future de votre Plan d'Action (PA), en tenant compte des apprentissages et des idées obtenues lors de cet évènement	2. Amélioration du Programme de formation KCCP-JICA WASH Concernant le Programme de formation KCCP-JICA WASH qui sera mis en œuvre l'année prochaine et au-delà (incluant la prochaine formation au Japon), veuillez indiquer librement vos opinions ou suggestions	3. Idées de projets utilisant l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL) Sur la base de la présentation et des échanges sur l'Aide Non-Remboursable des Petits Projets Locaux (APL), veuillez indiquer toutes les idées de projets concrets réalistes	4. Partenariat avec YAMAHA Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de YAMAHA, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec YAMAHA.	5. Partenariat avec LIXIL (SATO) Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de LIXIL (SATO), veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec LIXIL.
12/18/2025 23:08:16			MALI	Il s'agirait dans les jours à venir et compte tenu ma position de directeur Régional de faire une exécution parcelle de PA à l'insérer dans les activités des différents partenaires intervenants dans ma région. Et continuer la recherche de financement pour une mise en œuvre concrète.	1- Faire une implication total de Jica et des sociétés japonaise dans l'accompagnement des stagiaires courant et après le stage pour un réseautage pour les différentes opportunités de financement et le développement d'un écosystème représentation nos pays respectifs. 2- Revoir en augmentation la durée de la formation avec de cours sur le transfert des compétences aux collectivités et l'adaptation des services techniques. 3- Utiliser les anciens stagiaires dans les différents projets de la jica : Consultations, Études, Travaux. Et les activités l'ambassade	- Le suivi et la reconnaissance de la ressource, - Renforcement des capacités des collectivités dans le mécanisme de gestion des ouvrages.	- Assurer une représentation au Mali, - Assurer le rôle d'un personne ressource, - Intègre le dispositif dans différentes projets pour localités nécessités.	- Assurer une représentation au Mali, - Assurer le rôle d'un personne ressource, - Intègre le dispositif dans différents projets pour localités nécessités.
12/18/2025 23:32:42			Burkina Faso	Mon plan d'action n'a pas été mis en œuvre faute de financement. Pourtant il a été inspiré d'une réalité locale concrète qui trouverait solution si il avait été mis en œuvre. Malheureusement quand je suis revenu du Japon mon service ne s'est pas approprié mon plan d'action. Même la restitution n'a pas été faite non pas par ma faute mais parce que le service ne s'en est pas intéressé. Je pense qu'il faille exiger des services d'origine des stagiaires que le plan d'action soit mis en œuvre. Aussi, connaissant les réalités des services, il serait intéressant que la JICA appuie à la mise en œuvre des plans d'actions	Je pense personnellement que le programme que nous avons suivi en 2020 est très riche. Ce qu'on pourrait approfondir c'est le module gestion de projet qui pourrait intégrer le suivi et l'évaluation	Si j'ai compris ce qui a été présenté sur l'APL, Elle est uniquement destinée aux structures non gouvernementale ! Dans ces conditions mon service ne peut pas bénéficier. Pourtant ça pourrait être une bonne opportunité de financement des plans d'actions. A l'époque j'avais déposé une requête de financement de mon plan d'action à l'ambassade du Japon à Ouagadougou qui est restée sans suite	Je n'ai pas suivi cette présentation	Je n'ai pas pu suivre cette présentation
12/19/2025 7:40:41			Djibouti	Sans une maîtrise de l'eau il est difficile de concevoir de programme sur l'assainissement et l'hygiène, d'où l'importance de se focaliser sur la disponibilité de l'eau et la durabilité des ouvrages par une structuration de qui conduira à la réduction de l'usage des usagers et le comité de l'eau ainsi que l'accompagnement et le suivi de plan d'action qui conduira à la réduction de maladies d'origine, ensuite il s'agira de transférer certaine compétence aux membres de comité. la préservation de la qualité de l'eau avec l'acquisition de système de potabilisation de l'eau a grande échelle, l'échange d'expérience entre pays sur la gestion participative des points d'eau rurale.	Associer dans le programme de formation des experts japonais ayant déjà conduit de travaux ou de programme qui ont ressi dans les pays du sud, et introduire de modules de d'étude cas concret adapter au contexte africain	Mettre en place des petites activités generatrices de revenus pour financé les interventions de maintenance et de dépannages pour le fonctionnement optimale des ouvrages d'eau mécanisé accompagné de formation sur l'entreprenariat	Appuyer ou faciliter l'installation des attachés commerciales pour promouvoir la proximité du service avec a la clé un transfert de comptence local	Appuyer ou faciliter l'installation des attachés commerciales pour promouvoir la proximité du service avec a la clé un transfert de comptence local
12/19/2025 19:35:06			NIGER	Lors de cette rencontre, il a été reconnu que le principal obstacle à la mise en œuvre des plans d'action demeure le manque de financement. Toutefois s'il coïncide avec un projet surtout de la JICA, il peut être facilement financé et exécuté. C'est le cas du plan d'action de l'alumini Burkinabé.	Qu'il soit organisé de façon tournante dans les différents pays pour qu'il ait un fort impact et lui consacrer au moins une semaine. Pour ce qui est de la formation au Japon, inviter chaque année un ou deux anciens stagiaires ayant fait leur stage il y a plus de 10 ans à participer dans le but de transmettre aux plus jeunes l'expérience de terrain et en retour d'être à jour en matière de WASH, thématique absente des programmes antérieurs.	Comme nous l'avons déjà réitéré, l'APL est une belle opportunité que nous venons de découvrir et que nous allons faire connaître à tous nos collaborateurs pour qu'ils s'en approprient. Les projets pour notre organisation concernerons surtout tout ce qui formation des acteurs du service public de l'eau, notamment les associations des usagers du service public de l'eau, les délégataire et les responsables locaux. Cela va les outiller et leur permettra de très bien jouer leur rôle au bénéfice de développement du secteur de l'eau en milieu rural.	Nous allons faire connaître à notre hiérarchie et surtout aux responsables de nos collectivités les opportunités qu'offre YAMAHA pour une meilleure prise en charge de l'alimentation en eau potable des communautés. Au Niger, nous avons beaucoup de localités insulaires confrontés aux problèmes d'alimentation en eau potable du fait que les nappes sont improductives (socle) ou ont des eaux de mauvaise qualité. Il y'a aussi d'autres localités dont les eaux souterraines sont de mauvaise qualité et qui ont des cours d'eau. Toutes ces localités pourront solliciter le système d'approvisionnement en eau de YAMAHA.	Pour ce qui des produits et activités de LIXIL SATO, nous les présenterons aux acteurs du secteur de l'assainissement pour qu'ils soient pris en compte dans leurs différents projets.
12/20/2025 22:44:28			MALI	Pour mon plan d'action, dont le thème porte sur l'actualisation de la base de données des AEP dans la commune Baguineda et élaboration d'un diagnostic de ces ouvrages. Je compte élaborer les TDR pour soumission aux autorités locales et hiérarchiques pour la prise en charge de ce plan d'action	Préparation d'un programme d'élaboration de mise en œuvre de projet d'amélioration des AEP déjà existants pour l'optimisation de ces infrastructures			
12/21/2025 7:08:46			Côte d'Ivoire	La présentation du Burkina a fait ressortir la problématique du bon fonctionnement des comité de gestion des ouvrages WASH et l'incapacité des communes à jouer leur rôle de maîtrise d'ouvrage faute de compétence technique. Le représentant de la Côte d'Ivoire ayant évoqué des pesanteur culturelles (refus de certaines populations à cohabiter avec les fosses septiques). Nous en avons déduit l'urgence de concevoir un plan de communication autour des plans d'action	Les formations ci-après peuvent s'avérer bénéfiques pour nos pays respectifs : - formation en gestion des ouvrages WASH en situation d'urgence ; - adaptation et lutte contre les effets des changements climatiques à travers le WASH ; - la gestion des eaux usées pour leur réutilisation ; - la lutte contre la pollution anthropique occasionnée par les produits (intrants et pesticides) utilisés en agriculture ; - formation sur le partenariat public-privé dans le cadre de la gestion de l'eau en milieu rural ; - formation sur l'élaboration de plan de communication dans le cadre de la mise en œuvre des projet WASH ; - formation sur l'élaboration de plan de gestion environnemental et social.	L'APL peut nous soutenir pour la construction de dispositifs de lavage des mains des les écoles primaires	Nous compte exploiter l'offre YAMAHA pour mettre de l'eau potable à la disposition de populations vivant au voisinage de cours d'eau permanent. cela nécessite au préalable que nous fassions l'inventaire des villages remplissant ce critère.	les toilettes SATO peuvent servir dans les écoles primaires et dans les centre de santé en milieu rural

回答日時	Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	1. Mise en œuvre du Plan d'Action (PA) et plans futurs Veuillez indiquer vos opinions, suggestions ou plans concrets concernant la mise en œuvre future de votre Plan d'Action (PA), en tenant compte des apprentissages et des idées obtenues lors de cet événement	2. Amélioration du Programme de formation KCCP-JICA WASH Concernant le Programme de formation KCCP-JICA WASH qui sera mis en œuvre l'année prochaine et au-delà (incluant la prochaine formation au Japon), veuillez indiquer librement vos opinions ou suggestions	3. Idées de projets utilisant l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL) Sur la base de la présentation et des échanges sur l'Aide Non-Remboursable des Petits Projets Locaux (APL), veuillez indiquer toutes les idées de projets concrets réalistes	4. Partenariat avec YAMAHA Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de YAMAHA, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec YAMAHA.	5. Partenariat avec LIXIL (SATO) Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de LIXIL (SATO), veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec LIXIL.
12/21/2025 7:32:26			TCHAD	C'est un grand défi en ce qui concerne le Plan d'Action généralement lors de la formation car nous observons que leur mise en place nécessitera des moyens financiers énormes à mobiliser généralement par le pays ou la structure que le stagiaire représente. Il va falloir réfléchir autrement en faisant certes un plan d'action normal sur lequel un plan d'action pilote dont les fonds peuvent être facilement mobilisés par JICA et ses partenaires et mis à la disposition des stagiaires et dont les résultats après la mise en œuvre de la phase pilote pourront mobiliser d'autres bailleurs, le pays ou la structure bénéficiaire mais pourquoi pas le JICA et ses partenaires à faire la mise en échelle.	A) Faire recycler les anciens bénéficiaires sur l'avancer de nouvelles technologies de mobilisation des eaux souterraines, des moyens d'exhaures solaires puis la capacité des communautés à prendre en charge tous le système d'alimentation en eau. B) Revoir l'étendue de plan d'action en faisant un truc pilote dont les résultats doivent mobiliser les responsables locaux, d'autres bailleurs à faire de mise en échelle. C) Accroître d'avantage l'aspect sur le système de gestion des infrastructures et l'utilisation des eaux souterraine car dans la plupart de nos pays nos systèmes n'exploitent que ce type de ressource d'eau. D) Faire travailler d'avantage dans le système de potabilisation des eaux	Généralement, il y a beaucoup de petits projets dans ce sens mais dont les conditions les des APL ne facilite pas l'accès à ces ressources et mise en œuvre au niveau de contexte local.	Cette entreprise a développer un système qui cadre peu avec notre réalité locale basée généralement sur la mobilisation, la gestion et l'exploitation des eaux souterraines.	R.A.S pour le moment
12/22/2025 23:12:47			Sénégal	Dans un premier temps je pense qu'il faut multiplier les formations. En effet la multiplication des formations permettent de mieux appréhender les discours et de ratisser large sur le nombre de personnes formées. Ainsi le message de JICA passe par un large panel de personne a travers le monde. Moi je pense que l'eau potable est un droit fondamental pour tout le monde et JICA fait un travail remarquable dans ce sens mais beaucoup de personnes ne savent pas ce que fait JICA a travers nos pays respectifs.	Pour moi la progression passe par une multiplication des activités de formations dans une année même si c'est pas au Japon. Et aussi l'interconnexion des alimnis wash dans chaque zone. Créer des panel mensuelles de discussion régulière entre les alimnis wash. Et surtout l'amélioration de la plate forme JICA VAN afin que cela soit facile d'accès comme des plateformes WhatsApp entre autre permettant de se connecter facilement avec son téléphone portable et un administrateur qui accepte ou rejete les demandes d'adhésion. Si JICA VAN est facile a utiliser les reste passerait mieux et on se retrouve facilement pour des informations questions de relance discussions entre autres.	Pour les projets locaux moi lors d'un de mes visite de terrain avec Yamaha dans le nord j'ai été sollicité par un poste de santé a Dagana précisément a Diadium 1. En effet cette interprétation fait suite pour un équipement de leur poste de santé. La matrone m'a dit que a part les murs il n'y a plus rien ni chaise ni lit ni tables pour les restes n'en parlons même pas. Et je voudrais les aidé a avoir ces matériaux qui permettrait de relever ce plateau médical. Comment faire moi j'ai un gîte et APL rejeterait ma demande. D'après les informations reçues lors de la formation. Comment puis-je procéder pour bénéficier de l'aide non remboursable du gouvernement japonais pour ce poste de santé basé a Dagana.	Mamadou représentant Yamaha lors de la formation Pour moi j'ai remis les contacts a la direction de Yamaha Japon et ils seront tous recontacté par la rsponsabe eau propre de Yamaha madame VAN. Mais il faut que les représentants des différents pays lors de la formation introduisent dans le circuit des services de l'eau des pays présents afin de faire les premiers Contacts avec Yamaha.	Pas de reponse
12/22/2025 23:46:04			Japon					
12/23/2025 18:38:39			SENEGAL	1. Le thème choisi doit être en lien avec les objectifs des programmes d'activités, les programmes d'actualités au niveau national. 2. Veiller à ce que le thème qu'on choisit soit en conformité avec ce qui est mis en œuvre dans le pays 3. La pertinence du PA avec la corrélation des besoins (la cohérence avec la stratégie nationale) 4. Associer les acteurs pour une bonne mise en œuvre et une appropriation par la population 5. Associer les partenaires pour éviter les doublons et connaître les réalités socio-économiques 6. L'implication d'autres acteurs : Présenter le PA à d'autres partenaires pour diversifier les sources de financement, ou dupliquer les projets 7. Tenir compte des réalisations antérieures. Capitaliser les expériences antérieures au niveau de la zone du projet 9. Apporter des innovations dans la mise en œuvre, par exemple l'introduction nouveaux produits (SATO) 10. Assurer une communication dans la mise en œuvre avec les populations pour qu'elles s'approprient les réalisations. 11. Veiller à la qualité des réalisations afin que les populations soient satisfaites du travail. 12. Le PA doit être réaliste.	-Amélioration des thématiques en corrélation avec les thématiques des pays participants -Pratiquer des formation pratiques sur site au niveau des stations de traitement de MOYIMA et stations d'épuration de TOKYO -Faire des sessions pratiques de modélisation des réseaux d'approvisionnement en eau potable avec les logiciels -Faire des sessions pratiques de modélisation des réseaux d'assainissement des eaux usées et eaux pluviales avec les logiciels -Appuyer à l'obtention des financements APL pour la mise en œuvre des plans d'actions.	Tout le monde est d'avis que c'est une opportunité réelle de financement qui s'offre à la société civile et aux collectivités territoriales. Les anciens participants pourront ainsi faire porter leur PA par des structures éligibles et pouvoir ainsi lever des fonds pour le financement. Au-delà, des micro-projets pourront être soumis pour financement.	Beaucoup de Contraintes pour le coût - Burkina : Le coût (120 000 €) est très élevé. - Sénégal : Les unités YAMAHA sont déjà installées au Sénégal et donne beaucoup de satisfactions aux populations bénéficiaires.	-La collaboration pays existe déjà avec des pays comme le Burkina et d'autres, mais limitée par les lourdeurs administratives - (Réflexion) -Accentuer les démarches au Sénégal pour promouvoir les produits SATO auprès des acteurs du sous-secteur de l'assainissement rural afin de tirer profit des potentialités.
12/24/2025 1:39:20			Sénégal	- Projet réalisable avec un objectif précis à moindre coût (30 000 000); - Objectif du projet conforme aux orientations et politique de votre secteur d'activité; - Identifier des bailleurs susceptibles de financer le plan d'action ; - Communiquer sur les résultats attendus du projet à l'ensemble des acteurs.	Renforcer la pratique dans le renforcement des compétences(des séances essentiellement pratiques dans les universités, station de traitement eau usée et potabilisation eau potable...); Privilégier le transfert de compétences; Prendre en charge les besoins spécifiques des participants ;	Mettre en place des unités de traitement des eaux douces salées en milieu rural ;	Développer les unités de traitement d'eau	Projet pilote avec sato dans 10 villages avec l'approche marketing

回答日時	Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	1. Mise en œuvre du Plan d'Action (PA) et plans futurs Veuillez indiquer vos opinions, suggestions ou plans concrets concernant la mise en œuvre future de votre Plan d'Action (PA), en tenant compte des apprentissages et des idées obtenues lors de cet évènement	2. Amélioration du Programme de formation KCCP-JICA WASH Concernant le Programme de formation KCCP-JICA WASH qui sera mis en œuvre l'année prochaine et au-delà (incluant la prochaine formation au Japon), veuillez indiquer librement vos opinions ou suggestions	3. Idées de projets utilisant l'Aide Non-Remboursable de Petits Projets Locaux (APL) Sur la base de la présentation et des échanges sur l'Aide Non-Remboursable des Petits Projets Locaux (APL), veuillez indiquer toutes les idées de projets concrets réalisées	4. Partenariat avec YAMAHA Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de YAMAHA, veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec YAMAHA.	5. Partenariat avec LIXIL (SATO) Sur la base de la présentation et des échanges sur les activités de LIXIL (SATO), veuillez indiquer des idées concrètes de partenariat avec LIXIL.
12/24/2025 2:30:51			Sénégal	Pour la mise en œuvre du plan d'action, proposer des modèles de canevas à suivre afin de bénéficier un accompagnement de la part de la JICA ou des collaborateurs comme LIXIL, YAMAHA.....	Par rapport à l'amélioration du programme de formation KCCP-JICA WASH, je suggère à la JICA de tenir compte des défis à relever dans le domaine WASH des différents pays participants à la formation afin que leurs préoccupations soient prises en compte dans les thématiques. Au Sénégal, avec la vision Sénégal 2050 on tend vers l'hybridation des forages ruraux par conséquent il est important d'intégrer dans les thématiques à venir ce point afin que les participants puissent bénéficier de ces échanges.	Sur ce point l'échange n'a pas eu lieu après la présentation car le représentant de la JICA n'a pas pu participer à l'atelier. Par contre, j'invite la JICA à travers la plateforme de faciliter l'accès à l'aide non remboursable des petits projets locaux comme les siens.	Hamaha était très présent au Sénégal dans le cadre de la réalisation des unités de potabilisation dans la zone. je réitère la demande de continuer le partenariat avec le Sénégal avec le format aide non remboursable afin que les ODD puissent être atteints à l'horizon 2030	
12/26/2025 11:40:42			日本	該当なし	研修生とのグループワークの中で、JOCVが自国にいないから連携できない、各国のボランティアが当該地域にいても水のプロジェクトのための派遣ではないから連携できないといった声も聞かれました。JOCVの活動は非常にフレキシブルですし、直接的なコラボレーションはできなくても、例えば金銭面に関する日本の情報を提供する等のコラボであればできるのかもしれない。水と衛生以外の隊員の活動も紹介させていただき時間をもって頂くようJOCV側からも提案できたらよかったのかもしれないと思いました。	イベントでの発表等を踏まえたものではありませんが、今回のイベントの事前説明の際に草の根無償資金協力に関する情報を主催者の方から頂きました。現在、活動先の意向の元、トイレの改修に向けて準備を進めているところです。イベント開始前にAPLやLIXILの担当者の方とつながって頂き、事前に情報を得て具体的に進めることができました。研修当日は、セネガルの参加者の方とつながることができ、今後ファティック州の関係者とも連携を進めていけたらと思っています。実現可能かどうかはまだ不透明ではありますが、任地の住民のみなさんの水・衛生環境が改善する取り組みとして実現させたいと思っています。	今のところ具体的なアイデアはありません。	SATOの商品を活用してのコラボレーションは難しいかなと感じています。しかし、保健区のトイレ改修についてSATO関連企業と連携できないかも含めて前向きにコラボレーションを検討しています。

Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	6. Partenariat avec les Volontaires (JOCV, etc.) Sur la base de la présentation et des échanges sur les études de cas des Volontaires Japonais (JOCV), veuillez indiquer des idées de partenariat entre votre organisation et les Volontaires (JOCV, Volontaire	7. Utilisation de JICA-VAN Sur la base de la présentation et des échanges sur la Plateforme en ligne JICA-VAN, veuillez indiquer des idées de collaboration et de partage d'informations utilisant cette plateforme.	8. Construction du réseau entre anciens stagiaires Veuillez indiquer des idées concrètes pour créer des opportunités d'apprentissage et des lieux d'échange continus entre les anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH.	9. Idées de co-création et d'intervention avec la JICA Veuillez indiquer des idées, de votre point de vue en tant que stagiaire, pour une nouvelle co-création ou intervention avec la JICA dans le domaine WASH (eau, hygiène et assainissement).	10. Impressions générales sur l'événement Veuillez indiquer librement vos impressions générales sur cet événement (contenu, organisation, format, etc.).
		Mali	Sans objet		Redynamisation de l'association des anciens participants et création d'un réseau WASH	Partager avec la JICA les innovations locales et les avancées dans le domaine du WASH	Très fructueux et mérite d'être organisé annuellement à tour de rôle entre les pays.
		Sénégal	Ils peuvent nous être d'un appui précieux pour adresser les problématiques d'accès à l'eau potable, les questions d'hygiène et d'assainissement dans les écoles et les établissements sanitaires et aussi sur le sujet de la gestion pérennes des points d'eau	c'est un très bon canal pour maintenir le contact entre anciens stagiaires et le partage d'information facile	Créer des Alumni respectifs pour chaque pays regroupés en une Fédération qui pourra se réunir tous les ans dans l'un des pays concernés ou bien au Japon	Il faut renforcer la formation initial avec : - module sur les PPP - module sur les changements climatiques et leur impacts sur les ressources en eau - module sur les méthodes communication - module sur les normes environnementale et sociale	le format, le contenu et l'organisation sont satisfaisant et on a été très heureux de retrouver un promotionnaire mais aussi de rencontrer les autres promos
		Côte d'Ivoire	Nous sommes intéressés par les prestations des JOCV. Vu leur nombre insuffisant aujourd'hui, je propose des recrutements du personnel dans notre région afin d'être plus proche des populations et améliorer leur conditions de vie à travers l'appui de la JICA	Je salue la mise en place de ce outil de communication et de vulgarisation. Il faut encourager les Alumni et vraiment l'utiliser et avoir le sens du partage d'expériences	Il s'agit pour moi d'amener chaque Alumni : - à se connecter régulièrement - de briser la barrière transfrontalière et de s'ouvrir aux autres pays - d'avoir le sens du partage d'expériences	Je souhaite des visites de terrain et d'échanges entre les Alumni dans nos différents pays. Que la JICA nous accompagne dans le financement des déplacements et la prise en charge des participants, comme celui-ci	Je salue l'organisation parfaite de cette rencontre et surtout pour les moyens mis en œuvre pour nous permettre de nous déplacer et de passer un excellent séjour. Merci à tous. A la prochaine !
		Burkina Faso	Pour le programme de volontariat, nous sollicitons à la JICA Burkina, de recruter et de former des volontaires burkinabé, ils peuvent être issus des formations alumni ou autres volontaires	Sur la JICA-VAN, on peut tenir des sessions de renforcement de capacités au profit des anciens stagiaires, on peut également tenir des sessions d'échanges entre alumni, transmettre des informations capitales à l'avancé du WASH dans nos pays respectifs. La JICA peut également passer les informations /opportunités sur ces interventions dans les différents pays.	il y a déjà la JICA-VAN mais il faut également des rencontres d'échanges entre alumni comme celle la dans les différents pays. je sollicite également la mise en place de mécanismes de renforcement de capacité sur des thématiques spécifiques à notre poste (traitement des eaux usées, communication pour le changement de comportement, mobilisation de financement vert). Je souhaite également l'instauration de voyages d'études dans les pays pour apprendre sur le terrain.	Actuellement, au Burkina Faso, nous faisons face à un réel défi pour l'amélioration du taux d'accès à l'assainissement, nous avons besoin de mécanismes pour susciter des auto réalisation de latrines mais aussi de trouver des moyens efficaces pour la gestion des ouvrages. La JICA peut également accompagner le Burkina à mettre en place un système efficace de gestion et de traitement de boues de vidange qui est encore embryonnaire dans mon pays, les technologies actuelles peinent à fournir de bon résultats surtout qu'il n'en pas encore en milieu rural. (ce point est vraiment crucial)	Cet événement a été une véritable aubaine, une occasion d'apprentissage entre des alumni de plusieurs promotions. j'ai beaucoup appris des autres participants. Toutefois, le délai accordé, le chronogramme n'a pas facilité le déroulement (nous n'avons pas pu échanger longuement avec les présentateurs ou entre participants), aussi le programme n'a pas permis à chaque participant de partager son expérience. Il a surtout manqué à cette session des visites techniques d'installations d'infrastructures d'AEPA (par exemple les centres de traitement du Sénégal etc.
		SN	Un partenariat avec les volontaires japonais serait bénéfique pour les deux parties dans le sens où le volontaire au delà d'être venus apporter une expertise, sont très proches des population. Donc peuvent très bien aider dans la conception et la mise en œuvre d'activités WASH. Et surtout dans la communication visant le changement de comportements.	La plateforme est nouvelle pour moi, mais en première impression, je le trouve très utile pour l'apprentissage et les échanges d'expériences.	Déjà, il faudrait mettre en place une formation dédiée aux anciens participant, renforcer l'utilisation de la plateforme JICA-VAN et perpétuée la rencontre des anciens participants en la faisant tourner dans les différents pays.		
		Burkina Faso	- Leur proximité avec les populations rend leur action très bénéfique. - Leur contribution peut renforcer les efforts de l'État en matière de sensibilisation, formation et appui technique pour la durabilité des interventions. - Une bonne collaboration avec les JOCV permettra un meilleur ancrage communautaire des projets.	JICA-VAN est une plateforme qui permettra une communication plus rapprochée et sans gêne entre participants dans un réseau plus élargi. Ainsi ensemble on pourra partager nos expériences pays pour des projets innovants.	Il faudrait créer un groupe whatsapp pour rapprocher les participants et faciliter la communication. Trouver des programmes d'échange entre anciens participants, des programmes de formation de la JICA pour les anciens participants dans nos domaines de compétences. Proposer des stages de partage d'expériences entre les pays.	Mettre en place encore d'autres rencontres de partage d'expérience et un programme de suivi évaluation de nos PA.	Contenu très riche et enrichissant dans un délai court de mon point de vu.
		TOGO	Il faut que des volontaire s'intéressent à mon pays le TOGO qui est une bonne terre d'accueil afin d'appuyer les anciens stagiaires dans l'élaboration ou la mise en œuvre des PA	JICA-VAN est une belle opportunités pour échanger désormais sur les expériences et défis à relever par les stagiaires dans chacun de leur pays	l'initiative de rencontre des anciens participants doit être continu pour inciter les participants à optimiser les connaissances apprises lors des stages de formation et la proposition des idées innovatrices débattues lors de ces rencontres.	Consolider la communication avec les anciens stagiaires porteurs de projets appuyer la recherche de financement pour la mise en œuvre de projets Facilité le voyage des anciens stagiaires au Japon pour des cours séjours	l'événement a été pour moi une entière satisfaction sur tous les plans (accueil du pays hôte, le contenu de la réunion et les discussions qui ont meublées les séances)

Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	6. Partenariat avec les Volontaires (JOCV, etc.) Sur la base de la présentation et des échanges sur les études de cas des Volontaires Japonais (JOCV), veuillez indiquer des idées de partenariat entre votre organisation et les Volontaires (JOCV, Volontaire	7. Utilisation de JICA-VAN Sur la base de la présentation et des échanges sur la Plateforme en ligne JICA-VAN, veuillez indiquer des idées de collaboration et de partage d'informations utilisant cette plateforme.	8. Construction du réseau entre anciens stagiaires Veuillez indiquer des idées concrètes pour créer des opportunités d'apprentissage et des lieux d'échange continus entre les anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH.	9. Idées de co-création et d'intervention avec la JICA Veuillez indiquer des idées, de votre point de vue en tant que stagiaire, pour une nouvelle co-création ou intervention avec la JICA dans le domaine WASH (eau, hygiène et assainissement).	10. Impressions générales sur l'événement Veuillez indiquer librement vos impressions générales sur cet événement (contenu, organisation, format, etc.).
		Mali	Transfert de compétences, et de bonnes pratiques	Partage de connaissances et bonnes pratiques	Création d'une plateforme et favoriser des voyages d'échange d'expériences.	Avoir d'autres modules de formation ; Être accompagné en définition et montage des projets	Très bon
		GUINEE	Première fois de rencontrer les volontaires japonais mais j'ai été émerveillé de toutes les actions qu'ils mènent sur le terrain au Sénégal en contribuant à l'amélioration des conditions de vie des populations. Nous exprimons le souhait pour l'envoi des JOCV en Guinée.	Cette plate forme va nous permettre non seulement d'apprendre, d'échanger et de maintenir le contact entre les anciens stagiaires.	Améliorer les thèmes de formation au Japon de façon graduelle, Créer une plateforme de communication WhatsApp, maintenir la communication sur JICA-VAN, organiser des réunions d'échanges d'expérience et de visite de terrain entre pays africains	Améliorer les thèmes de formation de façon graduelle au Japon tout en donnant plus de temps à la phase pratique dans le cadre du WASH. Développer de plus les thèmes suivants: 1. La construction des ouvrages hydrauliques résilients au changement climatique et répondant à l'explosion démographique (dimensionnement des adductions d'eau potable), 2. L'exploitation, la gestion avec des outils de gestion des ouvrages, 3. La Maintenance des ouvrages, 4. Le suivi à temps réel des ouvrages et de la qualité de l'eau, 5. Le développement des méthodes de sensibilisation adaptée pour le changement de comportement et la volonté de paiement de l'eau au volume; 6. Le développement de système de potabilisation de l'eau de surface avec le système de YAMAHA, 7. La promotion et l'installation des kits de l'assainissement hygiéniques et sécurisés avec les outils de SATO, 8. Le développement des thèmes liés au changement climatique et en situation d'urgence, 9. Le connaissance des rôles et responsabilités des volontaires de la JICA dans les pays africains	Mes remerciements aux organisateurs, à la JICA et tout le peuple Japonais pour tous les efforts que la JICA fait pour améliorer les conditions de vie des populations à travers des projets d'hydrauliques, des appuis techniques, des renforcements de capacités, des échanges d'expériences fructueuses au bénéfice de nos peuples mais surtout des communautés africaines à travers l'accès durable au WASH
		JAPAN/SÉNÉGAL	不明	不明	不明	不明	参加させていただきありがとうございました。人とのつながりや私の知らない仕事を知ることができて勉強になりました。
		BURKINA FASO	AU BURKINA FASO, pour cause d'insécurité, aucune collaboration n'est possible pour le moment	- Le partage des idées phares et des innovations sur la plateforme - la soumission des difficultés rencontrées par les praticiens de l'AEP pour la recherche de solution - Un cadre propice pour les différents échanges	- Maintenir le contact permanent entre les anciens stagiaires et les nouveaux à travers l'institution de ce type de rencontre Alumni afin de favoriser le brassage entre les promotions et stimuler les échanges qui naîtront de la connaissance mutuelle	- WASH urgence - Gestion des ouvrages d'AEP en situation de crise - Les changements climatiques en lien avec l'AEP	L'événement fut un réel succès avec le partage des différentes expériences. Nécessité d'une pérennisation de tels types de rencontre pour un brassage inter-promotion et stimuler le partage de documents de politique et d'expériences
		日本	ボランティアがない国に対しては、国の水の防衛隊といった存在とのコラボも可能なのではというアイデアはとても印象的でした。過去の隊員のいろんな知見があると思うので、今回の参加者のような役人と具体的なアクションプランが立てられたら、とても有意義な活動になるのではと想像しました。	研修参加のフォローアップとしてもとても便利だと思いました。	JICA各国事務所が研修前後で既参加者を含めた国内研修を企画できれば、縦のつながりが深まってよいと感じました。私の班は、国内の既参加者と繋がりが無いと言っている人がほとんどでした。また研修参加同期とはWhatsAppでグループはあるけど、挨拶程度のやりとりで留まっていることなので、研修中に終了後のプラットフォームづくり、具体的な活用方法もフォローできたらより良いと感じました。	水衛生のプロジェクトは少ないかもしれませんが、気候変動、農業など様々な分野も関連していると思うので、そのような情報伝達、共有を積極的に行い、関係を継続することが、研修参加者のモチベーション維持にも寄与するかと感じました。	とても充実した2日間でした。 WASHといっても幅広いですが、いかにそれぞれの分野を網羅していくか、また健康、栄養、気候変動と様々な課題にリンクしているという視点の重要性を改めて認識できた機会にもなりました。また研修生も今回それぞれ刺激を受けたと思うので、また彼らの活躍の様子を次の研修生が見れたり、受け継いでもらえるような機会があるといいなと思います。参加させて頂き、ありがとうございました。
		Burkina Faso	Partenariat pour l'entretien et la réparation de Pompes à motricité humaine des forages dans les villages	Utilisation de JICA-VAN pour faciliter le partage d'expériences, créer des retrouvailles entre anciens stagiaires, découvrir des idées nouvelles pour faciliter la mise en œuvre des Plans d'action	Partage d'expérience	Organiser des rencontres tournantes d'anciens stagiaires JICA	Le Contenu de la formation a été très enrichissante pour moi. J'ai beaucoup appris et cela va m'aider dans la mise en œuvre des activités. Le format et l'organisation a été parfaite. L'hôtel également était bien ainsi que l'accueil depuis l'aéroport.
		République Centrafricaine (RCA)	Il y a des expériences à partager entre les Volontaires Japonais et l'Université de Bangui dans le domaine de WASH	La plateforme en ligne est une bonne chose, permettant une formation continue.	Un réseau des anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH permettra de maintenir le lien entre les anciens stagiaires et de partager les expériences acquises. Ce réseau permettra de partager les opportunités aussi.	Pour une nouvelle co-création, il faut tenir compte de la pratique aussi.	Dans l'ensemble l'organisation se passe bien.
		Burkina Faso	Si possible affecté des volontaires dans le domaine de l'assainissement	Les activités pertinentes et surtout le bilan de la mise en œuvre de mon plan d'action sera partagé sur la plateforme	La plateforme JICA-VAN est une belle opportunité. En outre des rencontres en présentiel serait également une belle opportunité pour créer l'impact	Transformation des boues de vidange en biogaz	Je félicite fortement les organisateurs pour le sérieux et la réussite de l'organisation. La qualité des échanges et aussi le partage d'expériences ont été des points positifs. Mais je pense que le nombre de jours était peu et aussi les participants en ligne n'ont pas pu pleinement à cause de la défaillance des micros par moment.

Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	6. Partenariat avec les Volontaires (JOCV, etc.) Sur la base de la présentation et des échanges sur les études de cas des Volontaires Japonais (JOCV), veuillez indiquer des idées de partenariat entre votre organisation et les Volontaires (JOCV, Volontaire	7. Utilisation de JICA-VAN Sur la base de la présentation et des échanges sur la Plateforme en ligne JICA-VAN, veuillez indiquer des idées de collaboration et de partage d'informations utilisant cette plateforme.	8. Construction du réseau entre anciens stagiaires Veuillez indiquer des idées concrètes pour créer des opportunités d'apprentissage et des lieux d'échange continus entre les anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH.	9. Idées de co-création et d'intervention avec la JICA Veuillez indiquer des idées, de votre point de vue en tant que stagiaire, pour une nouvelle co-création ou intervention avec la JICA dans le domaine WASH (eau, hygiène et assainissement).	10. Impressions générales sur l'événement Veuillez indiquer librement vos impressions générales sur cet événement (contenu, organisation, format, etc.).
		MALI	- Famille d'accueil, - Appui pour développement du volontariat local travers les anciens stagiaires. - disponibilité en terme expérience	Le partage des opportunités de formation et financement des PA	Accompagnement des candidatures des nouvelles demande de stage, Réseau national pour les questions d'accompagnement après le stage . - Assurer la promotion de l'interculturalité.	Mise en place d'une association des anciens stagiaires - Assurer la promotion de l'interculturalité. - partenariat avec les sociétés japonaise désirant installé dans mon pays	Une très bonne initiative. Cela devra faire objet d'être tenu chaque année.
		Burkina Faso	Je n'ai pas suivi	Je n'ai pas suivi	Très bonne idée. Ces rencontres pourraient être à l'image de ce que vous venez d'orge au Sénégal. Aussi elles pourraient même être au Japon sur une courte durée. Après le stage, chaque participant a développer des Compétences ! Il y en a qui sont devenus Docteurs, d'autres sont en train de terminer leur doctorat, je pense qu'on peut profiter de ces compétences aussi bien pour les anciens que les nouveaux stagiaires	Justement comme je le disais, le stage au Japon a été une source de motivation pour plusieurs stagiaires à poursuivre les études. Il y'en a qui sont devenus Docteurs, d'autres sont en cours, d'autres encore ont développé d'autres compétences qui pourraient être intéressant à partager avec la JICA ou les collègues stagiaires. Moi je suis en train de finir ma thèse en socio-anthropologie dont le thème est " Approche socio-anthropologique de la délivrance du service public de l'eau potable en situation de crises humanitaires au Burkina Faso. Enjeux et défis dans la région du Plateau Central. Voilà par exemple un thème d'actualité, avec une approche originale !	Mon impression c'est qu'on devrait l'élargir à tous les stagiaires parce que même originaires du même pays certes, mais nous n'avons pas la même expérience de ce stage parce qu'on n'a pas les mêmes formations et on ne bénéficie pas des mêmes égard. C'est vrai que on a permis aux gens de suivre en ligne mais vous constaterez que ceux qui étaient en ligne n'ont pas été assidus parce qu'étant au service tu forcément perturbé par des dossiers arrivant. Moi personnellement je n'ai pas pu suivre le deuxième jour parce que je devrais représenter ma directrice à un atelier.
		Djibouti	Favoriser l'émersion d'un système de réseautage et d'échange d'expérience avec les NGO locales	Créer un chatbot	Je sugere de pays comme Madagascar,, Maroc, Benin burkina faso	le wash dans le contexte de la gestion intégré de ressource en eau	a mon avis déjà c'était intéressant cette rencontre, il faudra organiser 2 fois par ans si possible avec de session en présentiel pour booster l'échange interactive
		NIGER	Le partenariat avec les Volontaires Japonais constitue le meilleure cadre d'échange d'idées et des bonnes pratiques. Très malheureusement le Niger ne reçoit plus les volontaires Japonais depuis des années.	A travers la plateforme JICA-VAN nous pourrions dorénavant centraliser toutes nos préoccupations en matière d'alimentation en eau potable des communautés et réfléchir ensemble pour des alternatives justes et durables. C'est aussi pour nous un cadre d'apprentissage mutuel au vu de la richesse de la documentation qui va l'alimenter.	- Redynamiser d'abord les associations des anciens stagiaires au Japon dans chaque pays; - Instituer la rencontre annuelle d'échange entre les anciens stagiaires de manière rotative dans leurs différents pays; - Continuer la formation annuelle au Japon en associant chaque année un ou deux anciens stagiaires.	- Instituer la rencontre annuelle d'échange entre les anciens stagiaires de manière rotative dans leurs différents pays; - Continuer la formation annuelle au Japon en associant chaque année un ou deux anciens stagiaires; - Sélectionner un ou deux plans d'action chaque année que JICA aidera à exécuter et qui constituera un cas d'étude WASH lors de la rencontre annuelle des anciens stagiaires.	Cet événement est vraiment d'une grande importance pour nous et nous nous félicitons de sa tenue. Il a été bien organisé par la JICA et notre séjour s'est passé dans des bonnes conditions. Toutefois nous suggérons qu'il lui soit consacré un plus de temps et qu'il se tienne chaque année de manière rotative dans les différents pays des anciens stagiaires.
		MALI		Partage des informations sur les activités menées dans le cadre de la gestion optimale de l'eau (irrigation, besoins domestiques) dans la commune rurale de Baguineda à travers les actions menées par l'office du périmètre irrigué de baguineda (OPIB)	Création de programme de séminaire en ligne ou présentiel dans les différents pays des anciens stagiaires	- Mise en place d'une base de données des AEP existants (forages ou autres) dans les 22 villages; - Élaboration d'un programme de réhabilitation des AEP existants (forages ou autres) dans les 22 villages - Élaboration d'un programme d'assainissement dans le cadre de l'eau pour l'irrigation et les besoins domestiques du canal principal de Baguineda	Dans l'ensemble, l'événement s'est bien passé avec des présentations bien expliquées et compréhensifs
		Côte d'Ivoire	Nous avons un problème dans notre régions sur la gestion des point d'eau pour leur utilisation pérenne. les volontaires de la JICA nous seront d'un précieux apport dans ce domaine. Ils peuvent nous être d'un appui précieux pour adresser les problématiques d'accès à l'eau potable, les questions d'hygiène et d'assainissement dans les écoles et les établissements sanitaires.	cette plateforme est formidable. nous pourrons y partager l'évolution en temps réel de l'évolution de nos plan d'action. c'est aussi un outils de partage d'expérience où nous pourrons échanger sur nos succès mais aussi sur les difficultés et envisager ensemble les solutions sur la base de l'expérience de chacun	Nous souhaitons l'organisation périodique de rencontre à l'instar de celle de Thiès.	la JICA peut renforcer nos capacités dans la conception de plan de communication en vue de la sensibilisation des populations en vue de leur adhésion au bonne pratique WASH	l'événement a été enrichissant et bien organisé. les échanges étaient de qualité. les informations reçues sont d'une grande utilité et peuvent aider nos pays dans la quête du développement. nous nous réjouissons en particulier des opportunités de partenariat qui nous sont offertes avec SATO, YAMAHA et qui peuvent nous aider à adresser la question WASH. l'information sur les APL est également capitale et nous permettra de réaliser des projets communautaires dans des domaines variés tels que la santé, l'éducation etc.

Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	6. Partenariat avec les Volontaires (JOCV, etc.) Sur la base de la présentation et des échanges sur les études de cas des Volontaires Japonais (JOCV), veuillez indiquer des idées de partenariat entre votre organisation et les Volontaires (JOCV, Volontaire	7. Utilisation de JICA-VAN Sur la base de la présentation et des échanges sur la Plateforme en ligne JICA-VAN, veuillez indiquer des idées de collaboration et de partage d'informations utilisant cette plateforme.	8. Construction du réseau entre anciens stagiaires Veuillez indiquer des idées concrètes pour créer des opportunités d'apprentissage et des lieux d'échange continus entre les anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH.	9. Idées de co-création et d'intervention avec la JICA Veuillez indiquer des idées, de votre point de vue en tant que stagiaire, pour une nouvelle co-création ou intervention avec la JICA dans le domaine WASH (eau, hygiène et assainissement).	10. Impressions générales sur l'événement Veuillez indiquer librement vos impressions générales sur cet événement (contenu, organisation, format, etc.).
		TCHAD	R.A.S	R.A.S	<ul style="list-style-type: none"> - Disposer d'une plateforme de formation ou les différentes bonnes pratiques dans le domaine WASH sont développées et vulgarisées; - Trouver toujours des séminaires pouvant regrouper des stagiaires par moment; - Faire toujours des voyages de découverte d'autres structures; 	<ol style="list-style-type: none"> 1) Mobiliser les experts francophones à développer des modules sur les bonnes pratiques à vulgariser. 2) Accompagner les stagiaires à consolider les acquis à long terme en étant les relais direct avec les structures de gestion des systèmes d'AEP et WASH. 3) Faire voyager les stagiaires dans les hors zones francophones pour s'enquérir aussi des réalités du domaine WASH dans ces pays anglophones. 4) Recycler davantage ces stagiaires 	<ol style="list-style-type: none"> 1) Améliorer le contenu du prochain événement en prenant en compte des problèmes réels des structures de mobilisation de gestion et d'exploitation des systèmes AEP dans les pays africains francophones. 2) Associer d'avantages les entreprises pouvant répondre de près à tous les problèmes préciter pour susciter d'avantage de partenariats gagnant-gagnant. 3) Mettre davantage les points sur les différents aptitudes astuces pour la mobilisation de fonds.
		Sénégal	Comment faire pour contacter les volontaire JICA et de ma part pour la poste de santé dont je vous ai parlé comment y amener un ou un volontaire japonais afin de leur permettre d'équiper ce poste de santé a Diadian 1 région de Dagana.	Il faut faire de sorte que la plateforme soit plus accessible et facile à utiliser comme on utilise WhatsApp Team entre autre.	Je pense que cela passe par l'amélioration de la plateforme qu'elle soit facile d'accès et d'utilisation.	Il d'avantage former les alimnis et les inciter a créer des entreprises et les premier contacts serait les alimnis wash. Après la formation il faut valoriser cela en travaillant d'avantage avec les alimnis wash. En effet les alimnis wash devraient être les premiers contacts de JICA dans nos pays respectifs cela permettra aux alimnis d'être plus présent et concentré s'ils savent que derrière ils pourraient être recontacté pour un projet dans leurs pays.	Cela a été d'un grand apport pour les alimnis et une expérience grandioses avec des découvertes comme l'ixil Yamaha eau potable JICA VAN entre autre
		Japon					異なる国の人たちが同じ研修を受けたことで絆ができ、初対面でもすぐに打ち解けてワークショップに取り組んでいたことが印象的でした。やはり対面で会うことで気軽に、より親密な関係を築けたのではないかと思います。一緒にお茶をする、食事をするというのは重要だと感じます。時間が長くてだれてきてしまった時、思い切っで観光に切り替えたのもメリハリがでてよかったと思いました。
		SENEGAL	La collaboration pourrait porter sur l'organisation de campagnes de sensibilisation sur le lavage des mains. L'organisateur Boot camp avec des activités d'enseignement sur les techniques de lavage des mains, d'hygiène corporelle. Apprendre les enfants à travers la sensibilisation à se laver correctement les mains.	Un outils très intéressant pour la mise en réseau des anciens participants. Peut faciliter le partage d'expériences avec la mise en ligne des compte rendu d'activités, de rapports d'études, rapports de missions, résultats de projets, etc.	La construction du réseau des anciens participants doit se faire autour de plusieurs axes: - La solidarité et le partage d'expériences - Les échanges sur les procédés d'exécution des projets - Les rencontres sectorielles pour harmoniser les actions La partie japonaise gagnerai à s'appuyer d'avantage sur les anciens participants pour consolider les acquis, perpétuer les bonnes pratiques. Et pour se faire, il faudra impliquer d'avantage les anciens participants dans les activités réalisées au niveau de la JICA et au niveau de l'ambassade.	Je marque ma disponibilité à accompagner la JICA dans la cocréation de contenus de projets et de Formation, a apporter mon expertise dans le domaine du développement local. En tant qu'expert local je peux me rendre disponible pour accompagner les projets de la JICA à travers tout le pays et travailler à faciliter leur mise en œuvre concrète.	Très bonne organisation, les conditions d'accueil étaient parfaites. Le contenu des échanges a permis d'adresser les bonnes questions pour une amélioration continue de la formation JICA.
		Sénégal	Construction innovantes de latrines familiales en milieu rural pour l'accès universel à tes toilettes améliorées en milieu rural	Prendre en charge les besoins en formation Future des anciens participants sur les défis de développement et accès à des services de base en milieu rural	Financer des visites d'échange d'expérience et de benchmark dans les pays des participants renfo	Renforcement de compétences pratiques dans le domaine de wash en situation d'urgence	Manque de précision sur les consignes d'apprentissage ; Absence des autorités de tutelle.

Votre Nom et prénom	Adresse e-mail	Pays	6. Partenariat avec les Volontaires (JOCV, etc.) Sur la base de la présentation et des échanges sur les études de cas des Volontaires Japonais (JOCV), veuillez indiquer des idées de partenariat entre votre organisation et les Volontaires (JOCV, Volontaire	7. Utilisation de JICA-VAN Sur la base de la présentation et des échanges sur la Plateforme en ligne JICA-VAN, veuillez indiquer des idées de collaboration et de partage d'informations utilisant cette plateforme.	8. Construction du réseau entre anciens stagiaires Veuillez indiquer des idées concrètes pour créer des opportunités d'apprentissage et des lieux d'échange continus entre les anciens stagiaires du KCCP-JICA WASH.	9. Idées de co-création et d'intervention avec la JICA Veuillez indiquer des idées, de votre point de vue en tant que stagiaire, pour une nouvelle co-création ou intervention avec la JICA dans le domaine WASH (eau, hygiène et assainissement).	10. Impressions générales sur l'événement Veuillez indiquer librement vos impressions générales sur cet événement (contenu, organisation, format, etc.).
		Sénégal	Continuer les échanges avec les volontaires à travers la plateforme JICA -VAN au tour de la thématique WASH.	A travers la plateforme d'échange, il est opportun de se donner un délais de traitement des demandes.	Initier chaque mois des retrouvailles autour de la plateforme EN LIGNE avec l'ensemble des participants afin d'évaluer les interactions avec les participants et la JICA.	En tant que stagiaire, je propose que la JICA prenne en considération toutes les recommandations issu des discussions afin d'en élaborer des thématiques à proposer aux pays participants. Appuyer les stagiaires à venir au japon pour des échanges sur des sujets de recherches dans le domaine WASH.	Par rapport à l'événement tenu à Thiès, l'impression est bonne juste que c'est le temps qui est un peu court en plus.
		日本	トイレの改修が実現できれば、現在私 (JOCV) が行っている病院きれい化の取り組みとのコラボもできるのではないかと考えています。	該当なし	該当なし	該当なし	今回は貴重なワークショップに参加する機会を頂きありがとうございました。普段のメインの活動である保健の視点とはまた違う視点から任地を見つめなおす良い機会となりました。研修生の中にはセネガルの方もいらっしゃいましたが、JOCVが派遣されている国でもまだまだJOCVの活動について詳しくご存じな方は少ない印象を受けました。JOCVのフレキシブルな活動についてJOCV側から発信する必要性を感じましたし、私たち自身の活動の可能性もまだまだあるなど感じました。草の根無償資金協力やLIXILさんとのコラボ検討を通して、配属先のニーズをより把握できる機会にもなりました。本当にありがとうございました。 簡易便器は、実際に手にして拜見でき非常にありがたい反面、移動の際の持ち運びに大変苦労しました。すみません。 自身の活動との連携の可能性を探るために、セネガルの参加者の方のアクションプランを拝見できたらありがたいなと思いました。

